

小橋工業(株)のホームページ(以下、弊社サイト)においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス(以下、本サービス)をご提供しております。

本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

電子データの取扱いについて

電子データの内容について

■本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。

■カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。

また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更内容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社(小橋工業株式会社)が著作権その他知的財産権を保有します。無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面にに基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願いいたします。

免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。

弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

以上

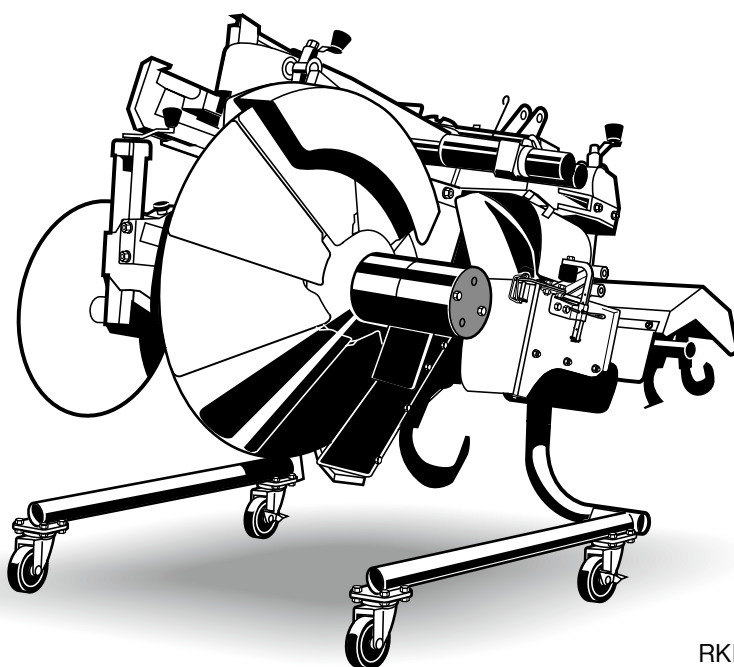
小橋工業株式会社

コバシアセローター

取扱説明書

RKL752H
RKL852H

RKL752F
RKL852F



RKL752F



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本
取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、
事故を引き起こす恐れがあります。

お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

はじめに

このたびはコバシアゼローターをお買いあげいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は、アゼローターの性能を十分に発揮させ、より安全で快適な農作業をしていただくためにも、ご使用前によくお読みいただき、正しい取扱いをしてくださるようお願いいたします。

又、アゼローターを他の人に貸出しされる場合には、この取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくようにご指導をお願いいたします。

なお、本製品については、不断の研究成果を新しい技術としてただちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますが、あらかじめご了承ください。

⚠ 安全作業のポイント

◎安全な作業をしていただくためには、まず機械の使い方を十分理解し、正しい取扱いをすることが基本となります。

◎この取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

必ずお読みいただいて事故のない安全な作業をしてください。

⚠ 危険…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

⚠ 警告…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ 注意…その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。

取扱い上の注意…その警告文に従わなかった場合、機械の損傷を起こす恐れのある操作を示します。

コバシアゼローターの使用目的・使用範囲

このコバシアゼローターは水田の畦塗用作業機です。

使用目的以外の作業や改造などは、決して行なわないでください。

目 次

▲ 安全に作業するために1	
1 はじめに1	
2 作業の前に1	
3 トラクタへの着脱1	
4 防護カバー類の取付け2	
5 装着時の前後バランスの確認2	
6 トラックへの積み・降ろし2	
7 一般走行2	
8 圃場への出入り3	
9 作業をしている時3	
10 作業中の点検4	
11 トラクタを止めるとき4	
12 電動油圧シリンダの取扱い4	
13 その他4	

▲ 安全ラベルの取扱い5~7	
サービスと保証について8	
各部の名称9~10	
アゼローターの開梱11	
ジョイントの取付準備11	
1 切断方法11	
2 取付方法12	
3 長さの確認12	
4 入力軸セフティカバーの取付け13	
トラクタへの装着 (日農工標準オートヒッチS-0・I形)13	
1 装着前の準備13	
2 トラクタへの装着15	
3 装着後のトラクタとの調整17	
4 Lヒッチに装着する場合18	
5 トラクタからの取外し18	
トラクタへの装着 (日農工特殊3Pヒッチ)19	
1 トラクタへの装着19	
2 トラクタからの取外し21	
フロントウエイトの装着22	
制御ボックスの取付け及び接続23	
1 制御ボックスの取付け23	
2 電源コードの接続23	
トラクタの電源接続と配線28	

マルチコントローラトラブルシューティング29	
スイッチボックスの操作及び注意事項30	
1. 操作と取扱いの注意30	
2. 移動・格納31	
作業前の点検32	
1 各部のボルト・ナットのゆるみ32	
2 ジョイントへのグリスアップ32	
3 ギヤーケースのオイル量32	
4 チェンケースのオイル量33	
5 ジョイントのノックピン34	
6 リヤーフレームへのグリスアップ34	
7 ドラムチェンカバー及びテンパチェン カバー内のチェンへの注油34	
8 テンションアームBへのグリスアップ34	
9 空転、暖機運転34	
圃場の準備35	
移動、圃場への出入り36	
前進作業と後進作業の切換え動作37	
前進作業と後進作業のセットの仕方38	
1 トラクタに装着した後、前進作業状態にする場合38	
2 前進作業状態から後進作業状態にする場合38	
3 後進作業状態から前進作業状態にする場合39	
上手な作業の仕方39	
1 作業前の各部の調整39	
2 作業の仕方45	
作業後の手入れ45	
耕うん爪の交換46	
1 爪の種類と本数46	
2 耕うん爪の取付方法46	
3 天場耕うん爪の取付方法 (F仕様)46	
保守・点検47~52	
保管・格納53	
点検整備一覧表54	
トラクタ別装着表55~67	
異常診断一覧表68	
消耗部品69	
主要諸元70~74	
用語解説75	

！安全に作業するために

安全に作業していただくために次のことを守ってください。
もし怠ると…傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります。

1 はじめに

1-1 取扱説明書をよく読み、機械の使い方をよく覚えてからご使用ください。

トラクタの取扱説明書もあわせてよくお読みください。

機械の操作を知らずに使用するとたいへん危険です。

1-2 取扱説明書は、いつでも読めるように、機械と一緒に大切に保管してください。

1-3 機械を他人に貸出しされる場合は、取扱説明書も併せて貸出いただき、正しい取扱いをしていただくように、指導してください。



1-4 適応トラクタ以外への装着の禁止

主要諸元表に適応トラクタ馬力を表示していますので熟読の上、適応馬力内のトラクタに装着してください。特にトラクタ馬力が小さい場合はトラクタとの重量バランスが悪くなり事故の原因となります。



1-5 服装には注意を払いましょう

作業中の服装は、ヘルメット、丈夫な手袋、すべらない靴、キチンとした作業服を着用してください。だぶついたズボンや上着など、回転部分に巻き込まれやすい服装は、たいへん危険です。ボタンもキチンととめましょう。



1-6 次のような状態では運転しないでください。

- ① 飲酒運転
- ② いねむり運転
- ③ 病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき
- ④ 若年者
- ⑤ 妊娠中の方

機械の操作に十分熟練し、必要な運転免許証を携帯し、心身ともに健康な状態で運転してください。



1-7 共同作業者がいる場合は、動作ごとに合図を徹底しましょう。

1-8 使用目的以外の作業や、機械の改造は事故の発生、又は、機械の故障の原因となりますので、決してしないでください。

2 作業の前に

2-1 機械の点検を

各部のボルト、ナットなどのゆるみや、ピンの脱落がないか確認してください。作業中にボルト、ナット、ピンなどが外れますと、作業機やトラクタの破損の原因及び事故の原因となります。



3 トラクタへの着脱

3-1 作業機の着脱及び調整は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行いましょう。特に夜間の作業機の着脱は、安全で適切な照明を用いる等、安全に留意して行ってください。

⚠ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

- 3-2 トラクタを移動して作業機を装着する場合には、トラクタと作業機の間に人が入らないように注意してください。



- 3-3 トラクタと作業機の着脱に際しては、いつでも逃げられる安全な態勢で操作し、このときトラクタは必ずブレーキで止めておいてください。

- 3-4 二人以上で着脱を行う場合は、互いに合図しあいましょう。

- 3-5 ジョイントのノックピンが確実にPTO軸溝に、又、作業機入力軸溝にはまったか確認してください。



- 3-6 取付各部のトメピンが全て確実に装着されているか確認してください。



4 防護カバー類の取付け

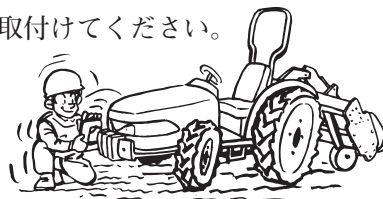
- 4-1 ジョイントをはじめ、作業機のセフティカバー・防護カバー類は必ず取付けてください。

5 装着時の前後バランスの確認

- 5-1 作業機とトラクタとのバランスの確認

作業機を装着すると機体の長さや幅が大きくなり、重量バランスが変わります。確認の上トラクタの前輪に20%以上のウエイトがかかるように、フロントウエイトを取付けてください。なお、作業機に泥が付着して、重たくなる場合もありますので注意してください。

又、アタッチメント等を取付けて使用される場合もバランスの確認を行い、フロントウエイトを取付けてください。



- 5-2 作業機に他のアタッチメントを取付ける場合は、事前に必ずアタッチメントの取扱説明書を良く読んでください。

6 トラックへの積み・降ろし

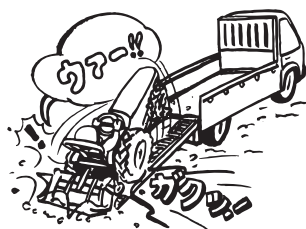
- 6-1 積み・降ろしの場所は平坦で安全なところを選びましょう。

- 6-2 すべり止めをした丈夫なアユミ板を確実に固定してください。傾斜角度、平行度を確認してください。

- 6-3 トラックは移動しないようにしっかりと車のサイドブレーキをかけてください。

- 6-4 トラクタの左右のブレーキペダルを連結し、脱輪しないように注意してください。又、途中でクラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。低速で積み・降ろしをしてください。

- 6-5 作業機を装着しての積み・降ろしはトラクタの重量バランスが変わります。泥の付着等もあり、十分注意して行ってください。



- 6-6 折りたためる作業機は折りたたみ、エクステンションエプロンもたたみ、トラックの荷台よりはみ出さないように注意し、強度が十分あるロープで確実に固定してください。

7 一般走行

- 7-1 トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。

(道路運送車両の保安基準)

作業機を装着して走行すると、他の車や電柱

⚠ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

などに引っかけて事故の原因になります。



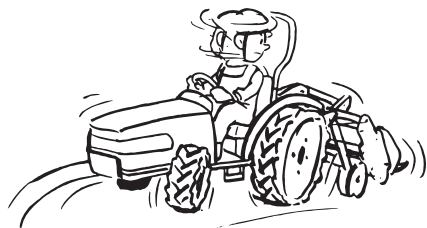
- 7-2 トラクタ・作業機には運転者以外の人を乗せないでください。



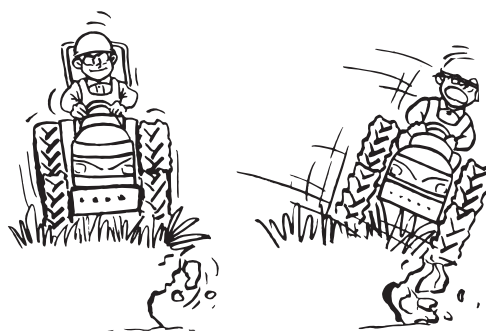
- 7-3 左右のブレーキペダルを連結して走行してください。



- 7-4 作業機の回転を止めて走行してください。
 7-5 作業機の落下防止装置を必ず使用して走行してください。
 7-6 必要以上の高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回をしないでください。
 7-7 旋回するときは、作業機に人や物が接触しないように注意してください。



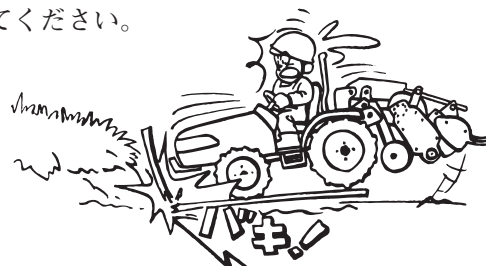
- 7-8 作業機は左右がトラクタの機体幅より広いため、走行時は十分注意してください。移動時は作業機の折りたたむ箇所は折りたたみ走行してください。又、スタンドがついている場合も必ず外してください。
 7-9 路肩に草が茂っている所を走行するときは特に路肩の強度に気を付けてください。



- 7-10 坂道では、クラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。
 7-11 坂道では、スピードを落とし、低速で走行してください。
 7-12 坂道では、エンジンブレーキを使用し、急ブレーキをかけないでください。

8 圃場への出入り

- 8-1 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げて、うねや段差に対して直角に進んでください。
 8-2 圃場から出るときは、傾斜しているうねはバックで上るか、又は丈夫なアユミ板を使用してください。



- 8-3 うねや段差に対して斜め方向に進むと、横滑りや転倒する危険があります。作業機を低くして重心を下げ、直角に進めてください。

9 作業をしているとき

- 9-1 いねむり運転、わき見運転をしないようにあらかじめ体調を整えてください。
 9-2 回転部分等、動く所には触れないでください。
 9-3 作業中は、まわりに人を近寄らせないでください。特に子供には十分注意してください。補助作業者がある場合は、動作ごとに合図をかわしてください。



▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

- 9-4 運転者が運転位置をはなれて作業機を調整する場合、又、爪軸等への草やワラのからみ付きを取りのぞく場合等は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれていることを確認した上で行ってください。



- 9-5 作業機の下にもぐったり、足をふみこんだりしないでください。



- 9-6 作業機のカバーは、土塵が飛散ないように調節してください。



- 9-7 むかるみにはまっても作業機は絶対に外さないで、他の車に引き上げてもらってください。牽引点は低くしてください。

10 作業中の点検

- 10-1 作業機の点検を行うときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれていることを確認した上で行ってください。又、油圧ロックも必ず行ってください。



- 10-2 点検のために外した防護

カバーは、必ず元の通りに取付けてください。



- 10-3 ラジエーター、マフラーは高温になりますので、ヤケドに注意してください。

- 10-4 点検整備に必要な工具類は、適切な管理を行い、正しい使用をしてください。

11 トラクタを止めるとき

- 11-1 平らな場所に止めてから、作業機を降ろしてエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。

- 11-2 傾斜地に止める場合は、タイヤに必ず車止めをしてください。



12 電動油圧シリンダの取扱い

- 12-1 絶対に分解したり、修理・改造・調整をしないでください。

- ・油が吹き出したり、異常動作してけがする恐れがあります。
- ・調整ねじを緩めるとシリンダが急に伸縮し、作業機が落下する恐れがあります。

- 12-2 火気・熱気の中に投げないで下さい。

- ・タンク内には可燃物である作動油が加圧されて入っているため、火災・爆発の恐れがあります。

- 12-3 電動機に手を触れないでください。

- ・シリンダ作動時、電動機は高温になっており、やけどする恐れがあります。

13 その他

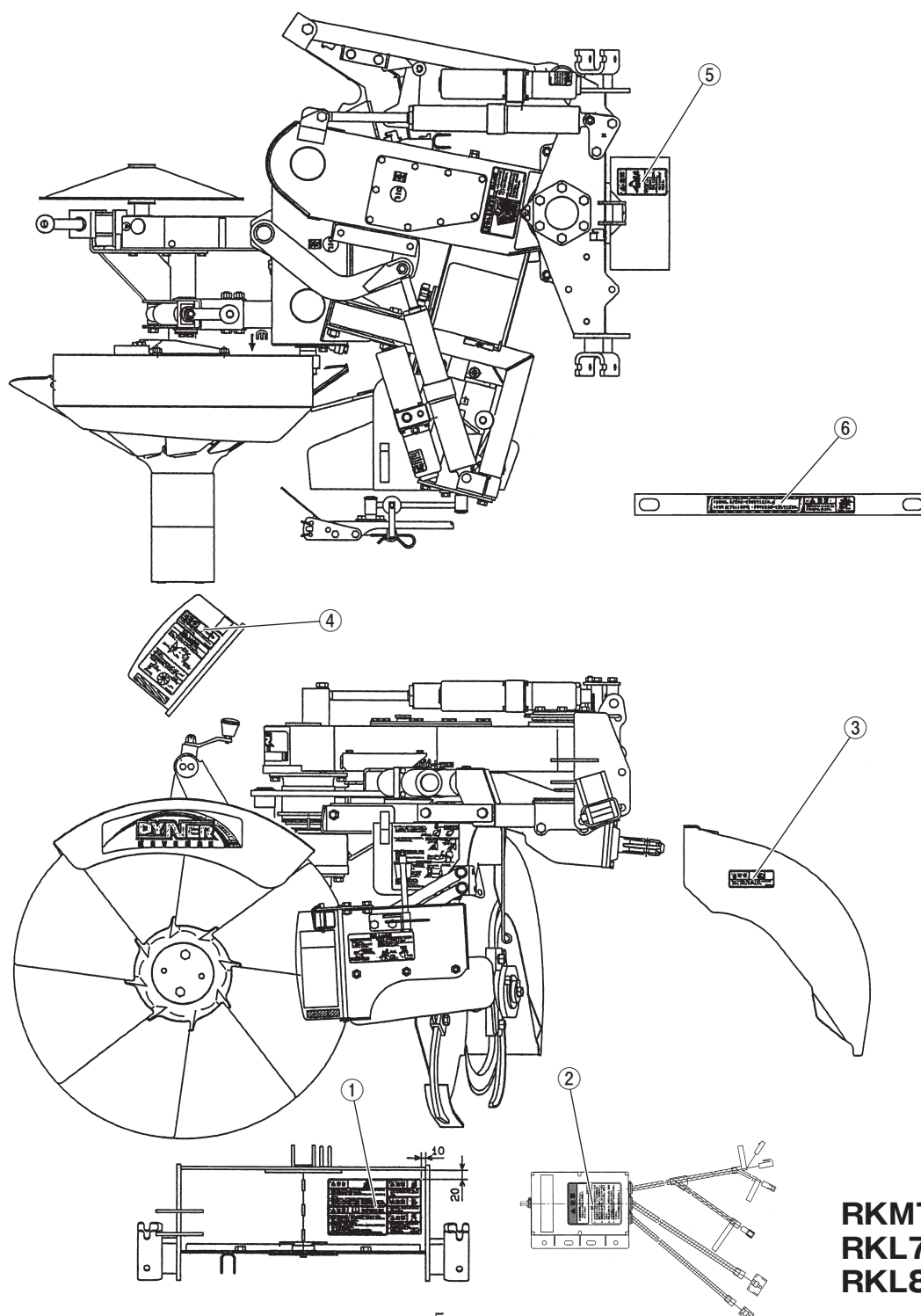
- 13-1 作業機指定のPTO回転速度を守ってください。低速回転用の作業機を高速回転で使用する と作業機が異常作動し危険です。

- 13-2 トラクタのエンジン始動時は、作業機が下がっていることを確認してください。作業機が不意に下がることもあり危険です。

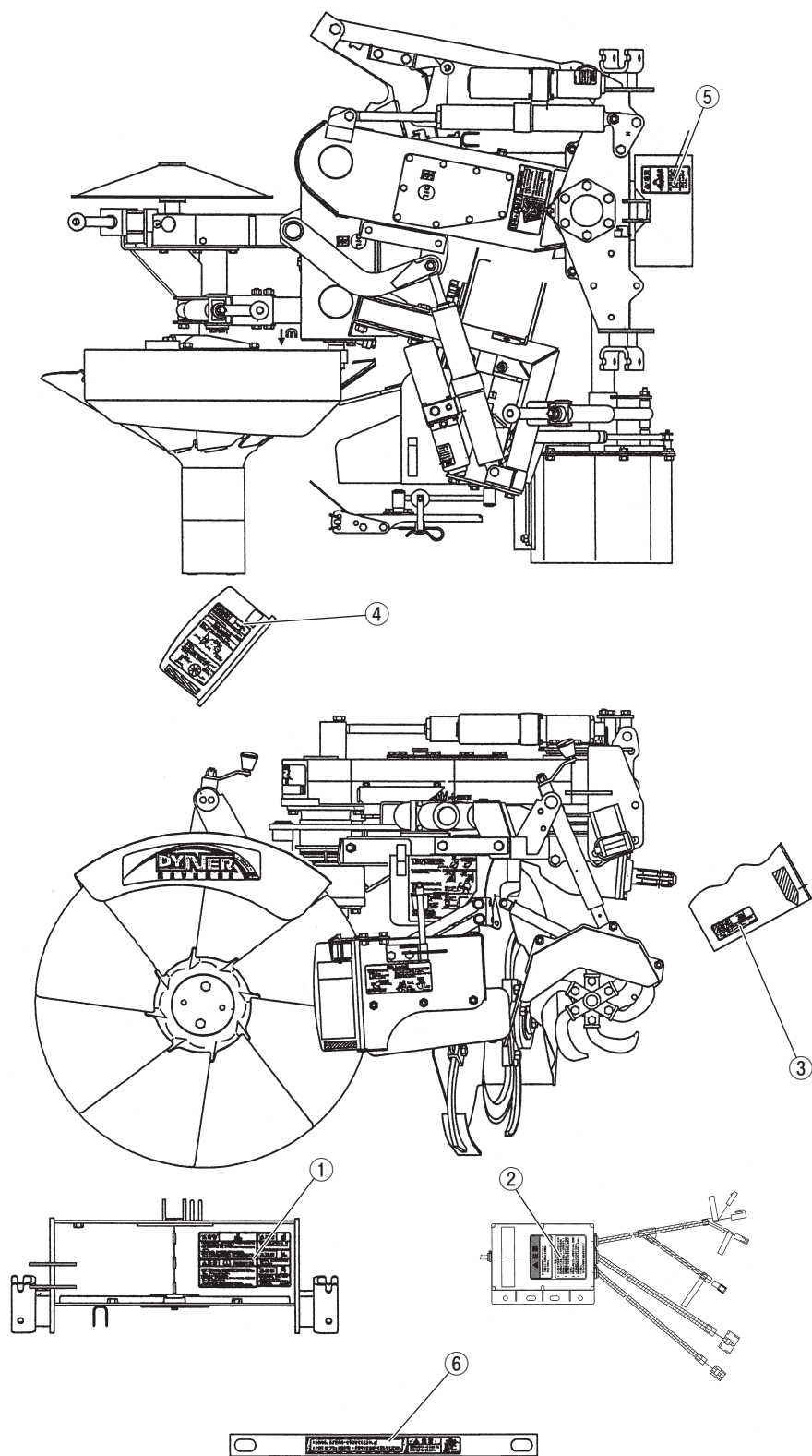
安全ラベルの取扱い

- ① いつも汚れや泥をとり警告がハッキリと見えるようにしてください。
- ② 安全ラベルが損傷したり破損した時は、新しいものと交換してください。
- ③ 安全ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に安全ラベルを貼ってください。

コバシアゼロターには、次の安全ラベルが貼ってあります。よくお読みになって、理解した上で作業してください。



RKM752H
RKL752H
RKL852H



※RKM752Fは除く

RKM752F
RKL752F
RKL852F

① コードNo.9993948

▲ 警告  ●転落事故を防ぐためには、発進や登坂時にトラクタの前輪が浮き上がらないように充分な前部ウエイトを取り付けてください。 ●ほ場への出入り及び移動（格納）する時は必ず作業機を中央に入れてから行ってください。 ●ほ場への出入りは、あぜや段差に対して直角に進んでください。 ●作業機にアタッチメントを装着する時には、特にバランスを注意するとともに、アタッチメントの取扱説明書をよく読んで、適切な処置や調整を行ってください。	▲ 注意  ●開閉操作は周囲に人がいないことと、十分なスペースがあることを確認して行ってください。
▲ 注意  使用前に取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。 ●作業機を着脱するときは、トラクターと作業機の間に立たないでください。 ●エンジン始動時や作業中は、周囲の安全を確認し、人がいないか、特に子供には注意し、近づけないようにしてください。 ●作業機の上に人を乗せないでください。 ●点検整備時には、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、油圧降下防止用ストップバルブを締めてください。 - また、絶対に作業機の下にはいって作業をしないでください。 ●ジョイントのノックピンが確実にロックされていることを確認してください。	▲ 注意  ●開閉操作時は、手などがはさまれないよう注意してください。
	▲ 注意  ●スタンドの取付けは、作業機を「格納位置」にした状態で行ってください。 ●トラクタから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。 9993948

② コードNo.9994075

▲ 注意

- 開閉操作は周囲に人がいないことと、十分なスペースがあることを確認して行ってください。

9994075

—— 取扱上の注意 ——

1. バッテリーカブラは必ず付属のバッテリーハーネスを使い接続してください。（トラクタ外部出力に接続するとトラクタ側のヒューズが切れます）
2. 長期間使用しない場合は、必ずコントロール及びバッテリーハーネスをトラクタより外し、保管してください。
3. 作動しない時はブレーキが落ちている為、数秒待ってから再度スイッチを入れてください。
4. 作業機の開閉操作は必ずPTOを切ってから行ってください。（クラッチが破損する恐れがあります。）

③ コードNo.9993949

▲ 警告



- ロータリの回転部に接触すると、ケガをするおそれがありますので、回転部に近づかないでください。

9993949

④ コードNo.9992126

▲ 危険



- セフティカバーは、常に装着して使用してください。
- 巻き込まれて、死傷するおそれがあります。

9992126

⑤ コードNo.9993950

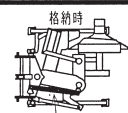
▲ 注意



- ドラムには素手や素肌が直接触れないようにしてください。
- ケガをするおそれがあります。

9993950

⑥ コードNo.9993776

●格納時は、必ず安全バーを取付けてください。 ●作業時（オフセット操作時）・移動時は安全バーを外してください。	▲ 注意 格納時は安全バーを取付け平坦な場所に保管してください。  安全バー 9993776
--	--

サービスと保証について

1 保証書について

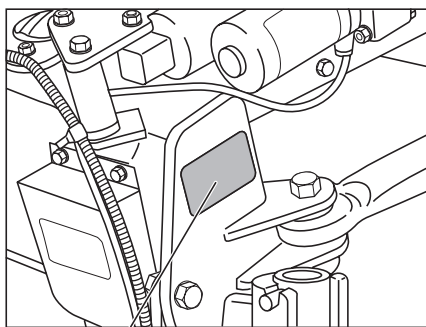
コバシアゼローターには保証書が添付してあります。保証書はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。保証内容は保証書をご覧ください。お読みになった後は大切に保管してください。

2 アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置してもなお不具合があるときには、下記の点を明確にして、お買い上げ頂いた販売店、農協、弊社営業所までご連絡ください。

その際

- 機械の型式名と製造機械番号
- ご使用状況（作業速度、回転速度はいくらで、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか（約〇〇アール・約〇〇時間使用后）
- 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えてください。



製造機械番号

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後9年といたします。

但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

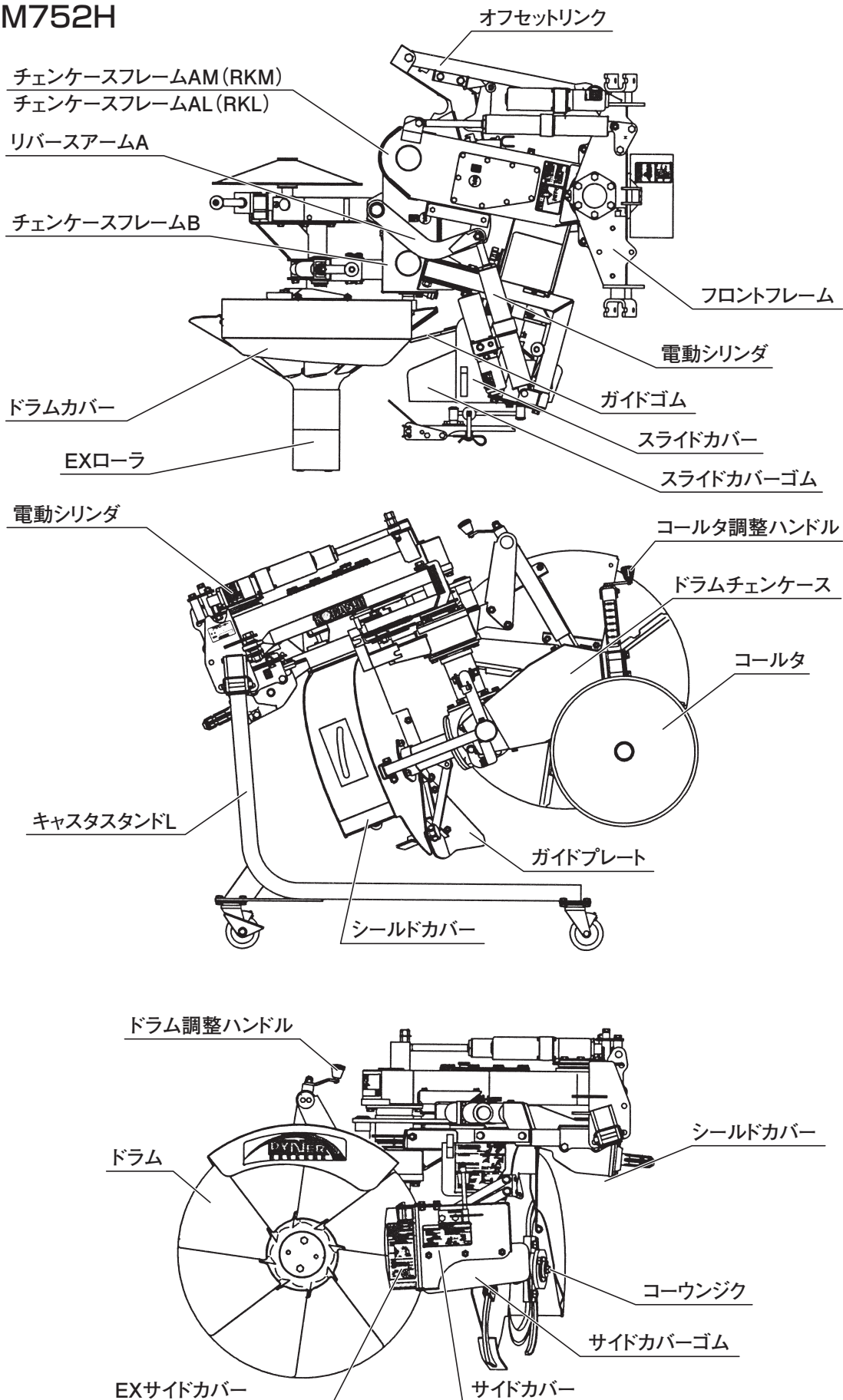
補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

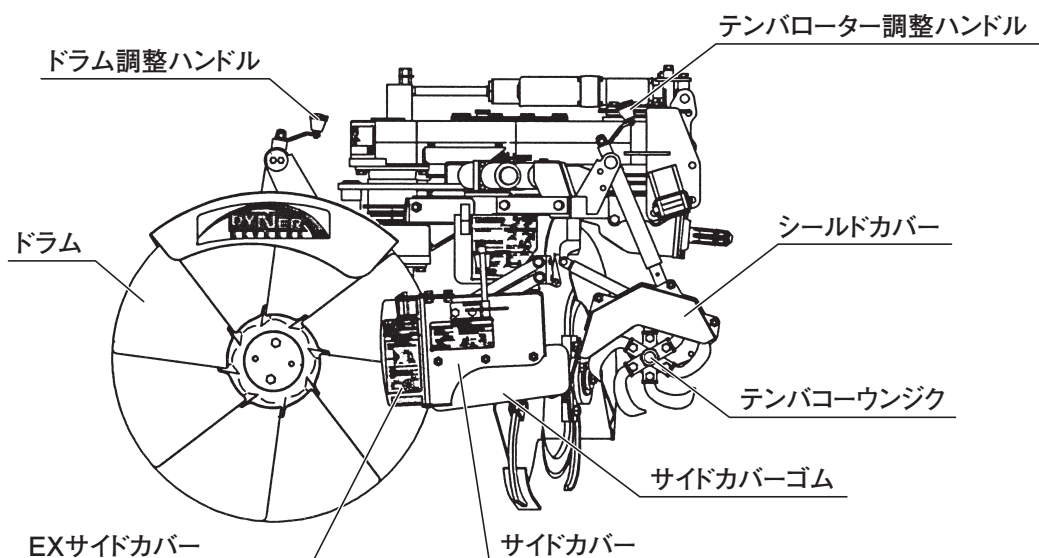
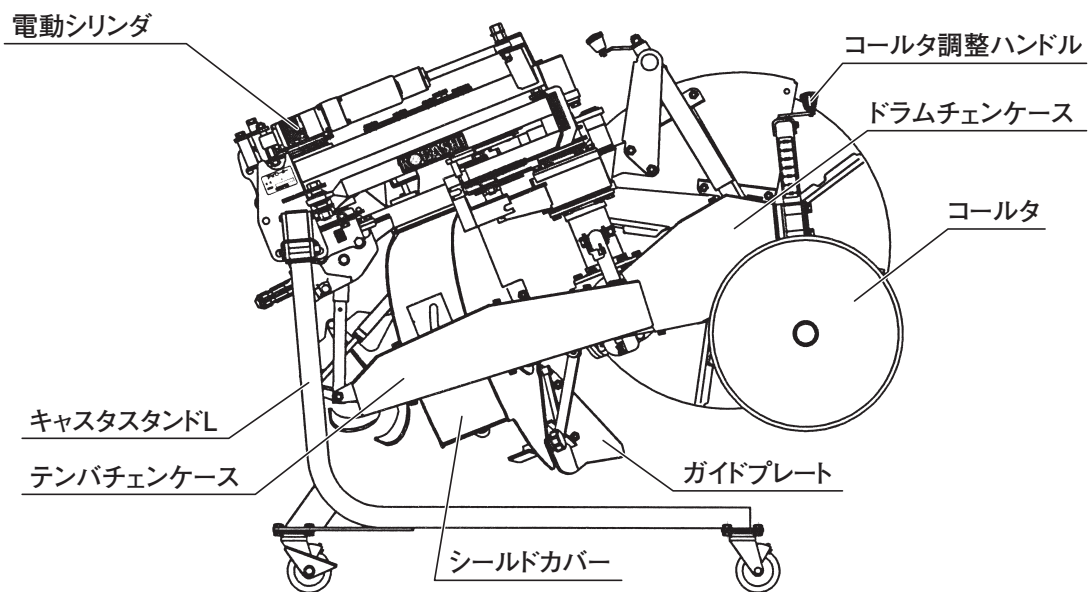
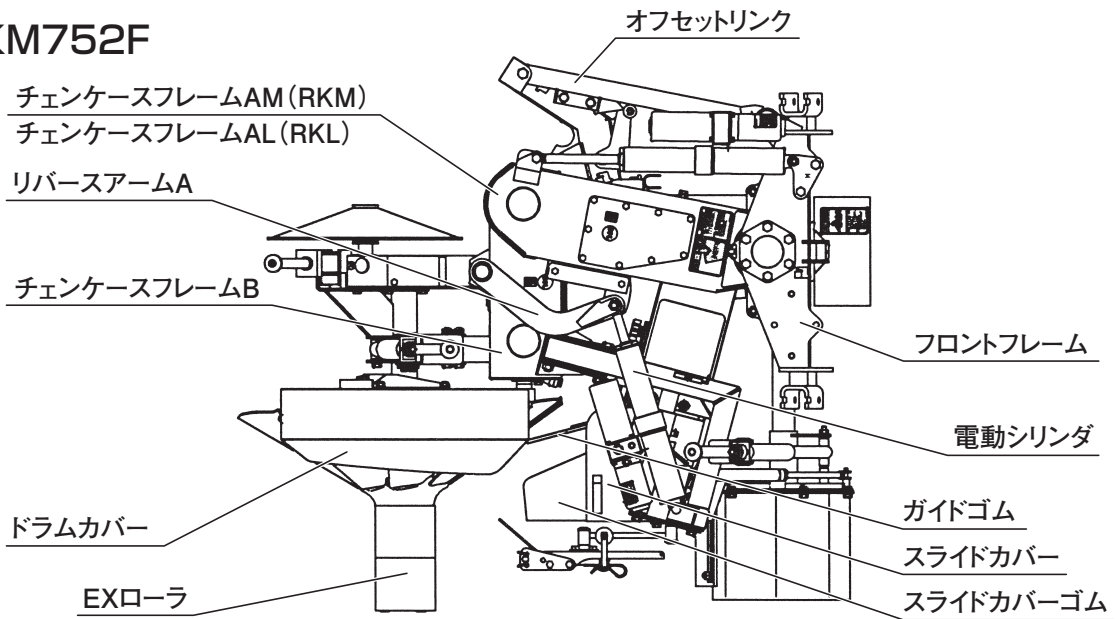
各部の名称

RKM752H



各部の名称

RKM752F



アゼローターの開梱

1. 開 梱

アゼローターは、鉄枠梱包されていますので開梱してください。

▲ 注意

開梱する時は、開梱要領書に従い丈夫な手袋を着用して行なってください。鉄枠梱包には、スクリュウネジが使用されています。ネジの踏み抜きなどないように注意して開梱してください。

標準装備品

部 品 名	数量	摘 要
オートヒッチ	1	4S、3S のみ
キャストスタンド R	1	
" L	1	
ジョイント	1	4S、3S、1S のみ
マルチコントローラ	1	
束線バンド	7	
バッテリーハーネスASSY	1	
ソウサホウホウパネル	1	
コガタボルト M6×45 コガタUナットキャブツキ M6	10	天場コーウジク用 シャーボルト予備 F 仕様のみ
ボルト M12×40 U ナット M12	10	コーウジク A 用 シャーボルト予備
安全バー	1	RKM752F は除く
取扱説明書	1	

◆アゼローター (RKM、RKL) はトップマスト、ヒッチブラケットを交換することにより、日農工標準 3P 仕様、日農工特殊 3P 仕様 (A- I 形、A- II 形、B 形)、標準 3P 直装仕様にすることができます。交換部品は別途ご購入をお願いいたします。詳しくは販売店、農協にご相談ください。

ジョイントの取付準備

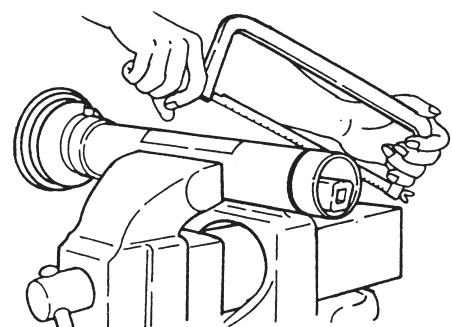
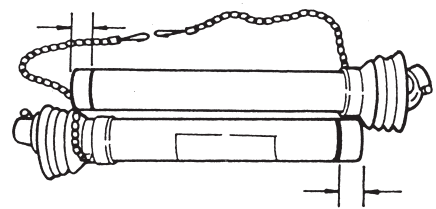
取扱上の注意

長すぎるジョイントを装着しますと、トラクタの PTO 軸と作業機の入力軸を突き破損させます。又、短かすぎますと、ジョイントのカミ合わせが不足して、チューブが破損します。

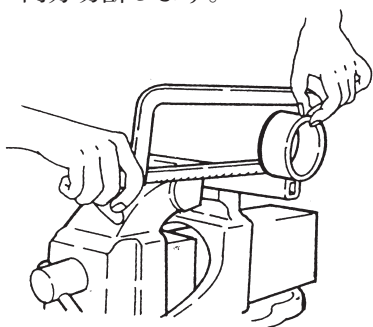
お願い 標準のジョイントがトラクタによっては、長い場合があります。トラクタ別装着表 (P.55 ~ P.67) を参照の上、切断長さを確認の上、チューブとセフティカバーのオス側メス側を切断してください。

1 切断方法

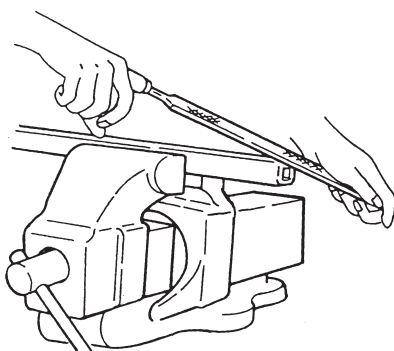
1. 長い分だけセフティカバーをオス、メス両方切りとります。



2. 切りとったセフティカバーと同じ長さでチューブを、金ノコ、又は、カッターでオス、メス両方切断します。



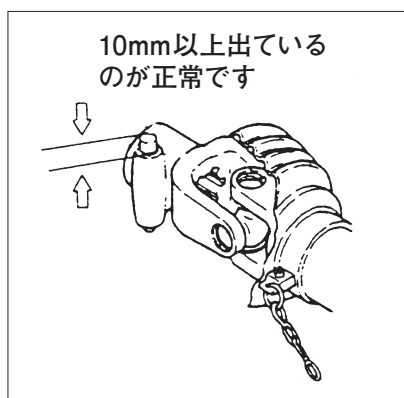
3. 切り口をヤスリでなめらかに仕上げ、切り粉を取除き、グリスを塗布して、オス、メスを組み合わせます。



2 取付方法

1. ジョイントの、ノックピンを押しながら軸に挿入、軸の溝にノックピンをはめ込み抜け止めとします。

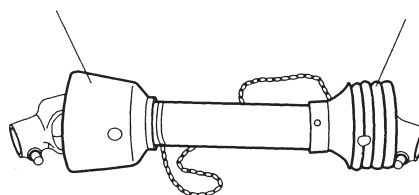
ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。ピンの「頭が10mm以上」でているか、トラクタ側と作業機側のノックピンを確認してください。



2. 広角ジョイントの取付方法

3セットの時に、広角ジョイントを取り付ける場合は、必ず、広角側をトラクタ PTO 軸にセットしてください。

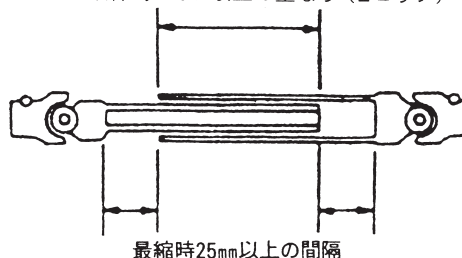
トラクタ PTO 軸側 作業機入力軸側



3 長さの確認

1. トラクタの3点リンクにオートヒッチを取付け、トップリンクの長さを指定の長さに調節してください。
(3セットの場合は、作業機を装着してから次の確認を行います。)
2. 油圧をいっぱいに下げて、ジョイントをセットしてください。
3. 徐々に油圧を上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でも、軸を突き上げないことを確認してください。
4. 油圧を上下してカバーのスキマを確認してください。

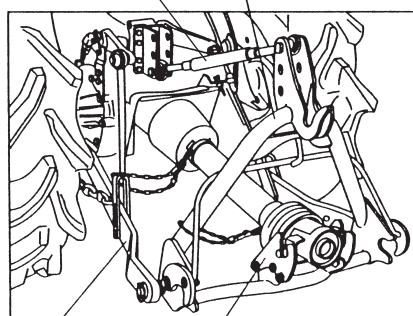
最伸時80mm以上の重なり (Sヒッチ)
最伸時120mm以上の重なり (Lヒッチ)



最縮時25mm以上の間隔

5. ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをします。この時油圧をいっぱいに下げてもチェンが緊張しないようにたるみをもたせてください。

トップリンク オートヒッチ

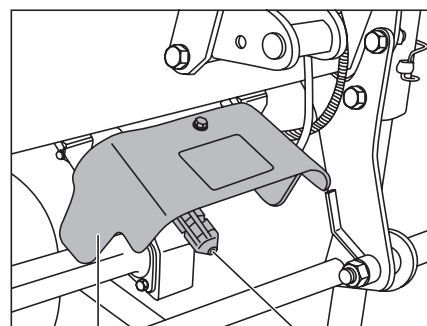


ロアーリンク サポートプレート (4Sのみ)

4 入力軸セフティカバーの取付

⚠ 危険

セフティカバーを取り外して使用すると死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。



セフティカバー

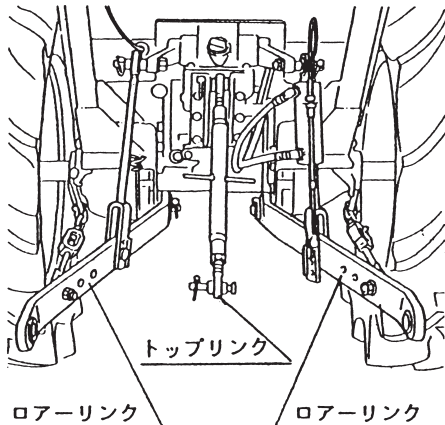
入力軸

トラクタへの装着（日農工標準オートヒッチ）Sヒッチ（O・I形）

1 装着前の準備

1. トラクタの準備

本機の装着方法は標準3点リンク式のヒッチです。もし、トラクタに特殊3点リンク式のロータリを装着されている場合は、トップリンクを標準3点リンク用の長いトップリンクと付け替えてください。又、ドロワーがジョイントに干渉する場合は、ドロワーの位置を変えるか、取外してください。

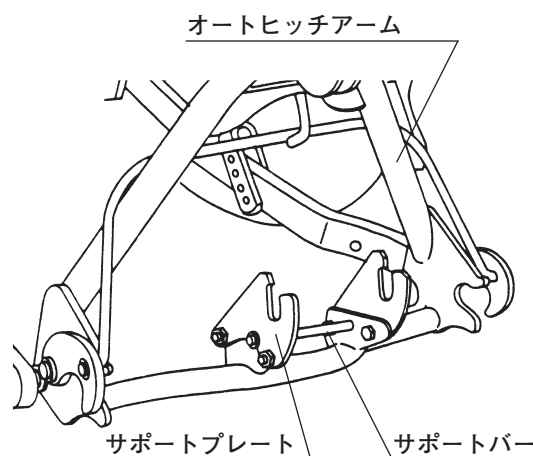


3点リンクの取付位置は、本書のトラクタ別装着寸法表(P.54～P.66)ページを参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を確認、取付けてください。

2. オートヒッチアームの準備

4セットで使用する場合は、オートヒッチアームにジョイントをセットするサポートプレート、及び、サポートバーが確実に取付けてあることを確認してください。

3セットの場合はサポートプレート、サポートバーがないことを確認してください。

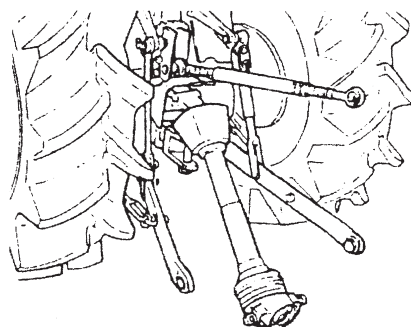


3. トラクタへのオートヒッチの取付け

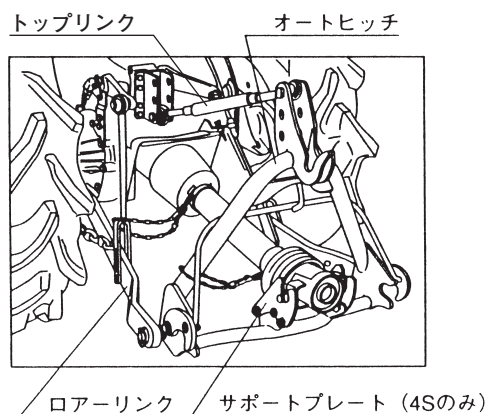
⚠ 警告

トラクタの駐車ブレーキをかけ、又エンジンを停止し、PTO軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

- ①トラクタのポジションコントロールレバーを下げ、ロアーリンクをいっぱいまで下げます。トラクタのPTO軸にジョイントの広角側を取付け、作業機入力軸側は地面に置いてください。



- ②オートヒッチを、トラクタのトップリンクに取り付けます。



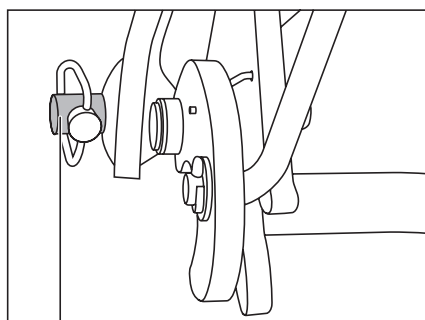
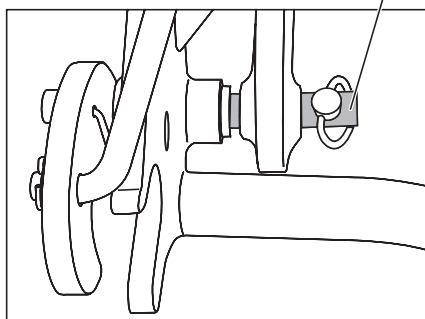
トップリンクピンはトラクタの付属品を使用してください。

- ③左右のロアーリンクにオートヒッチのロアーリンクピンを取り付けてください。トラクタの3点リンク規格により、内側セットと外側セットがありますので規格に合わせてセットしてください。

JIS 0 …内側セット

JIS I …外側セット

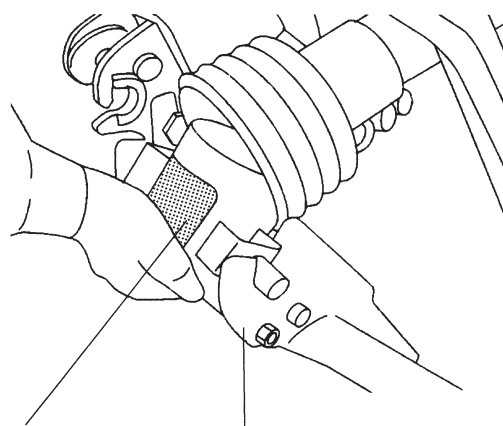
ロアーリンクピン (0形)



ロアーリンクピン (1形)

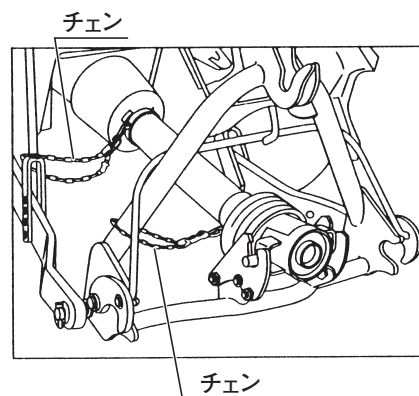
- ④トラクタの PTO 軸にジョイントの広角側を取付けます。

- ⑤ジョイントのラベル面を上にし、手でジョイントを折り曲げ、軸の細い部分からサポートプレートの長穴にセットしてください。(4 セットのみ)



ラベル サポートプレート

- ⑥ジョイントセフティカバーのチェーンを固定し、回り止めをしてください。



- ⑦チェックチェーンを張ってオートヒッチをトラクタの中心に合わせてください。また、ロアーリンクに左右の高さも均等にしてください。

⚠ 注意

装着が終わりましたら、各部のトメピンやトップリンクの抜け止めが確実になされていることを確認してください。

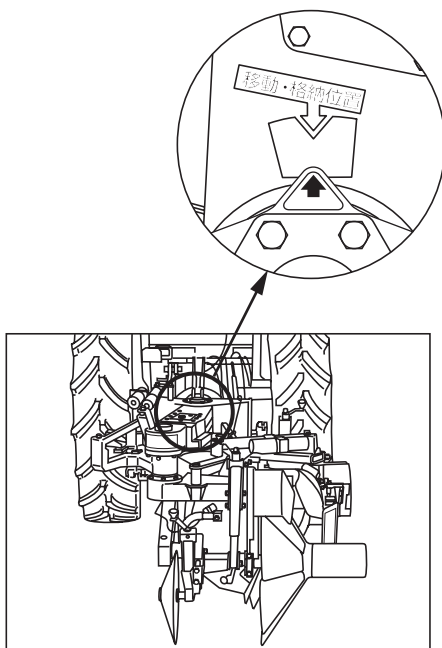
2 トラクタへの装着

⚠ 注意

1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクタと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
4. 二人作業の場合は互いに合図しあって作業をしてください。

1. 作業機を格納位置に

作業機を下図のように前進作業状態にし、矢印を合わせた位置(→←)にしてください。

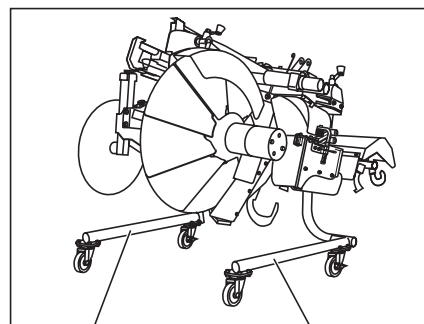


2. スタンドの取付け

作業機の中央フレーム両端のブラケットにキャストスタンドを取付け、ロックピンで固定します。

⚠ 注意

スタンドの取付けは、作業機を「格納位置」にした状態で行ってください。トラクタから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。スタンドのL/Rは正しく装着してください。間違って取り付けるとバランスを崩し作業機が転倒するおそれがあります。

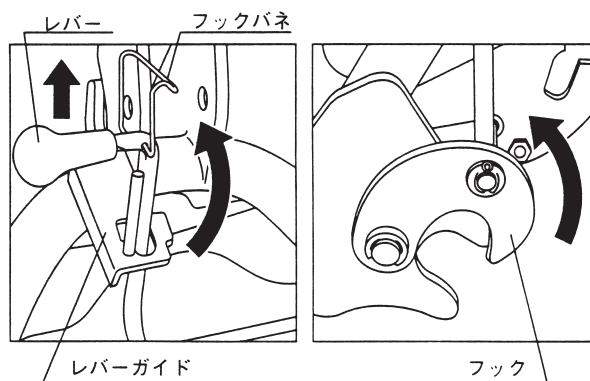


キャストスタンドL キャストスタンドR

キャストスタンドを取付けた状態で作業及びオフセットはしないでください。変形し機械を傷めます。

3. オートヒッチフックのロックの解除

装着前に、フックバネをを起こしてロックを解除し、レバーを真上に引き上げレバーの凸部をレバーガイドに引っ掛けて、フックを開いておきます。

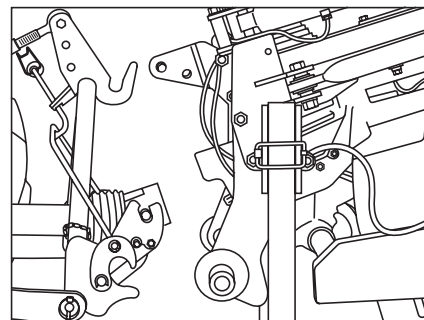


4. 取付け

バックしてヒッチを合わせる

トラクタのPTOの変速はニュートラルにしておいてください。

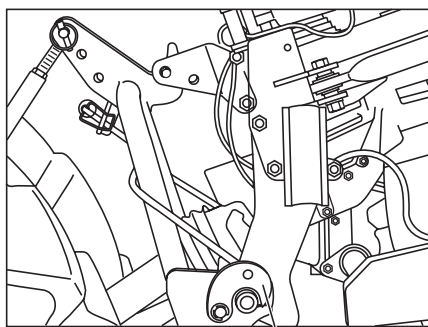
オートヒッチを下げて、トラクタをゆっくり作業機に近づけ、作業機のマスト先端とオートヒッチのトップを合わせます。この時トラクタと作業機が直角になるようにしてください。



5. フックを合わせてリフトアップ

ポジションコントロールレバーを「上げる」にして、作業機をゆっくりとリフトアップすると、オートヒッチのローアフックとジョイントのクラッチ部は自動的に接続、ロックされます。ジョイントが噛み合わなかったりした場合は、ポジションコントロールレバーを下げて一度前進、再度最初からやり直してください。

6. フックが確実にロックされたか確認してください。

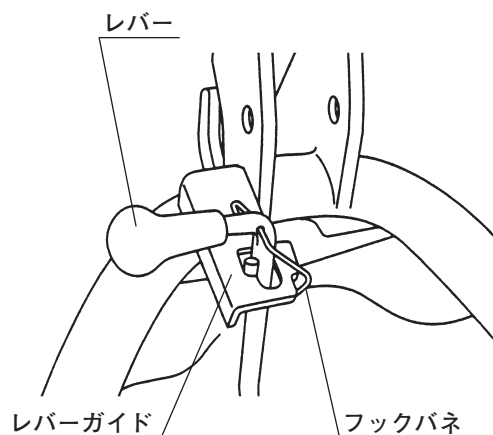


フックがロック

⚠ 注意

作業が終わって作業機を取り外すまでは、オートヒッチレバーには絶対に手を触れないでください。ロックが解除し作業機が外れます。

オートヒッチアームのフック部に作業機のガイドカラーが両側とも入っていることを確認してから、オートヒッチアームのレバーを下げてフックを閉じます。レバーについているフックバネをレバーガイドに引っ掛けて、不用意に作業機が外れないように確実にロックしてください。

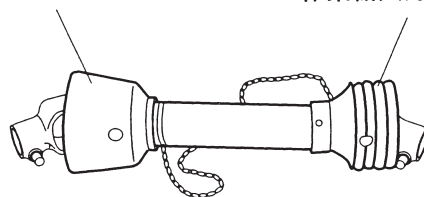


7. 広角ジョイントの取付方法

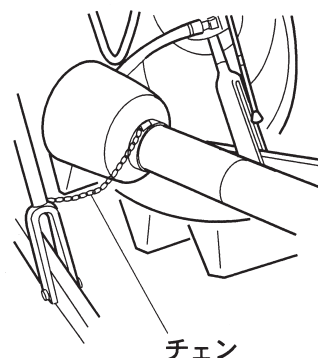
3セットのときに、広角ジョイントを取付ける場合は、必ず、広角側をトラクタ PTO 軸に取付けてください。

トラクタ PTO 軸側

作業機入力軸側

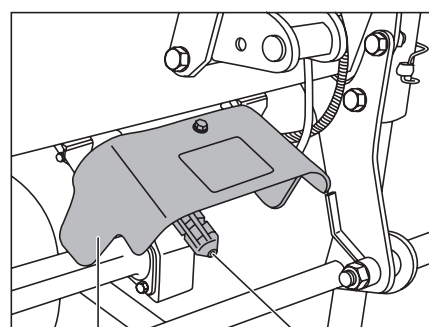


ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをします。この時作業機をいっぱい下げてもチェンが緊張しないようにたるみを持たせてください。



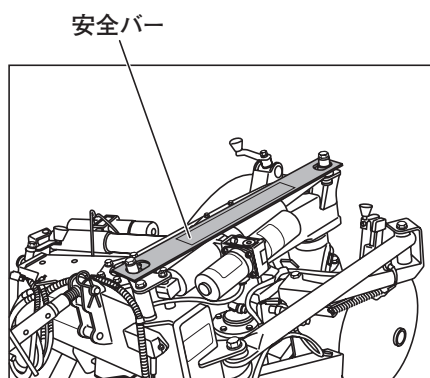
⚠ 危険

セフティカバーを取外して使用すると、巻き込まれて死傷することがありますので必ず取付けたままで使用してください。



8. スタンドは取外してください。

9. 安全バーを取外してください。



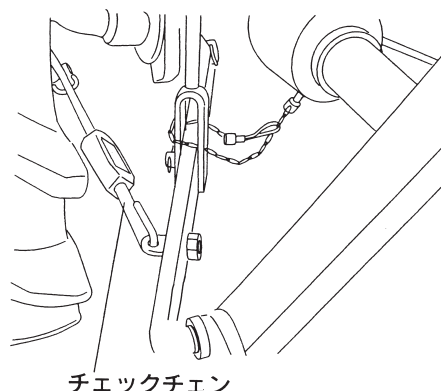
取扱上の注意

1. 最初の装着時には、油圧をゆっくりあげながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
2. トラクタによっては、スイッチ一つで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手で干渉の有無を確認してから使用してください。又、作業機が勢いよく上がるため 10cm 以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
3. ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。
4. トップリンクやローアリンクの取付位置及び、リフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。
5. 左右の水平調節についても注意してください。

3 装着後のトラクタとの調整

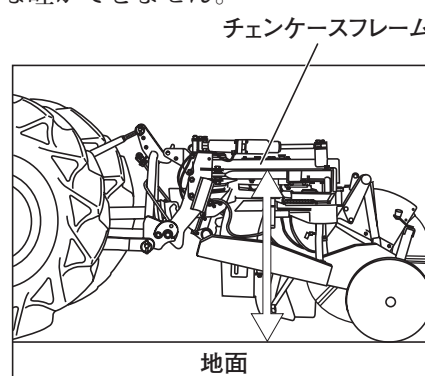
1. チェックチェンの調整 (左右の振れ)

作業機を持ち上げた状態で、作業機の入力軸とトラクタの PTO 軸を合わせて、左右の横振れを確認して、横振れが 10mm 以内になるように、左右均等にチェックチェンを張ってください。



2. トップリンクの調整 (前後の傾き)

作業機を接地させ、チェンケースフレームが地面に対して水平になるようにトップリンクを調整してください。※ 水平になっていない場合は、畦の土の量が不足して丈夫な畦ができません。



▲ 注意

トップリンクの調整は、作業機を接地させて行ってください。トップリンクが抜けて作業機が落下することがあり、危険です。

3. リフトロッドの調整 (左右の水平)

作業機が水平になるように、トラクタのレベリングハンドル、又は、油圧スイッチを操作し、調整してください。

4. ジョイントの異音について

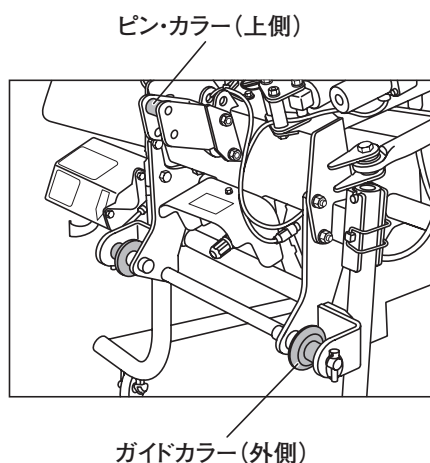
ジョイントは作業機の入力軸とが直線に近いほど異音は少なくなります。

取扱い上の注意

作業機を最上位置に上げた状態で回転させますと、異音が発生し、ジョイントに無理がかかり、損傷の原因になります。回転しても振動や、音がでない位置にポジションコントロールレバーのストッパをセットしてください。

4 (日農工標準オートヒッチ)Lヒッチ (I・II形)に装着する場合 ※RKLのみ

ヒッチブラケットのガイドカラーセット位置と、マストのピン位置をLヒッチの状態(下図)にセットして装着してください。



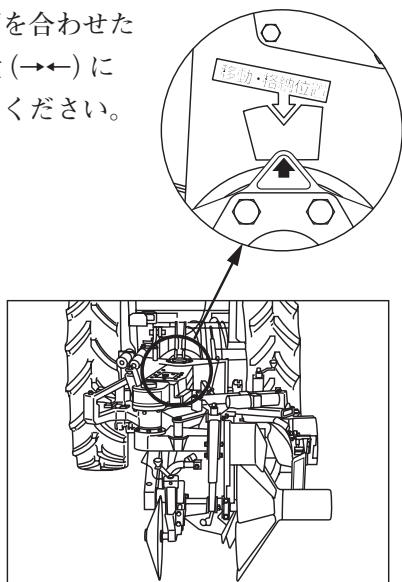
5 トラクタからの取外し

⚠ 注意

1. 作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした所で、脱着のためのスペースが十分取れる所で行ってください。
2. スタンドの取付けは、作業機を「格納位置」にした状態で行ってください。トラクタから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。スタンドのL/Rは正しく装着してください。間違って取り付けるとバランスを崩し作業機が転倒するおそれがあります。

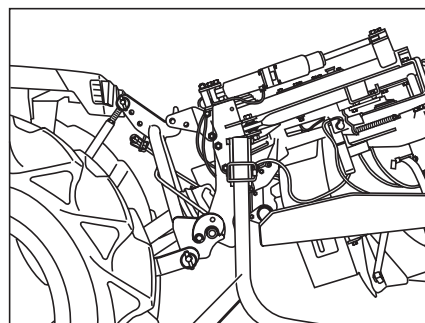
1. 作業機を格納位置に

作業機を下図のように前進作業状態にし、矢印を合わせた位置(→←)にしてください。



2. スタンドの取付け

作業機を持ち上げて、キャストスタンドをロックピンで固定します。(装着時と同じ状態に取付けします。)

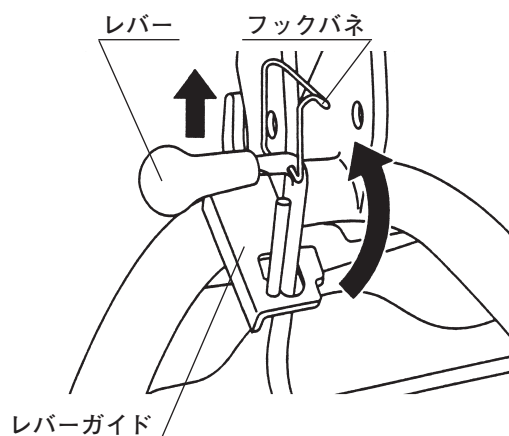


キャストスタンド(L)(R)取付け

スタンドの取付けは、作業機を「格納位置」にした状態で行ってください。

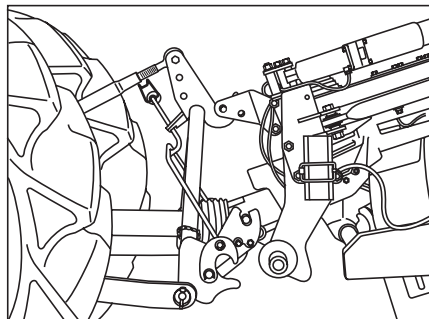
3. オートヒッチフックのロックの解除

作業機をリフトアップしてから、フックバネを起こしてロックを解除し、レバーを真上に引き上げてレバーの凸部をレバーガイドに引っ掛けて、フックを開きます。



4. 作業機を下げる

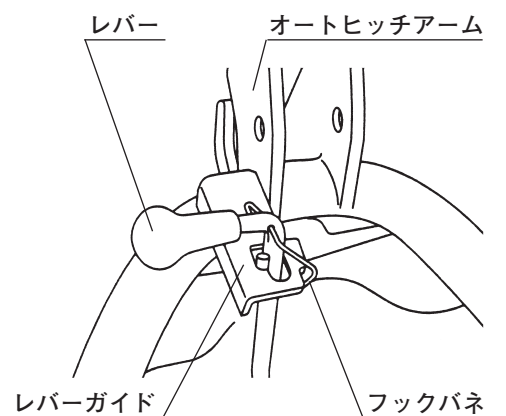
ポジションコントロールレバーを「下げる」にして、作業機を下げるとローアーム部は外れます。次にポジションコントロールレバーを下げながらトラクタをゆっくり前進させると作業機は外れます。



- ◆外れない場合は、場所が平坦でないとか、トラクタがまっすぐ前進していないなどの原因がありますので、再度、動作をやり直してください。

▲ 注意

トラクタから作業機を外し、オートヒッチを作業機に取付けて格納する場合には、必ず落下防止のフックバネをレバーガイドに引っ掛けて、オートヒッチの落下防止をしておきましょう。



5. 保管・格納

保管・格納時は安全バーを取付けてください。(P.52 参照)

トラクタへの装着 (日農工特殊 3P ヒッチ)

(RKM752H-S、RKM752H-T、RKM752H-U、RKL752H-S、RKL752H-T、RKL752H-U)
(RKM752F-S、RKM752F-T、RKM752F-U、RKL752F-S、RKL752F-T、RKL752F-U)

いずれの型式も、トラクタに装着されている純正ロータリと同様の手順で、作業機の取付け、取外しができます。又、純正ロータリのオートヒッチ、トップリンク、ジョイントがそのまま使用できます。

- ◆メーカーによりオートヒッチの呼び名が異なりますので注意してください。

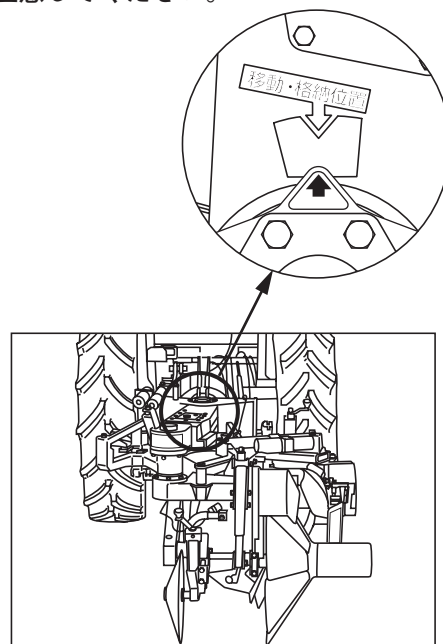
1 トラクタへの装着

▲ 注意

1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクタと作業機の間には人が入らないよう注意してください。
4. 二人作業の場合は互いに合図しあい注意して作業してください。

1. 作業機を格納位置に

作業機を右図のように前進作業状態にし、矢印を合わせた位置(→←)にしてください。



2. トラクタの準備

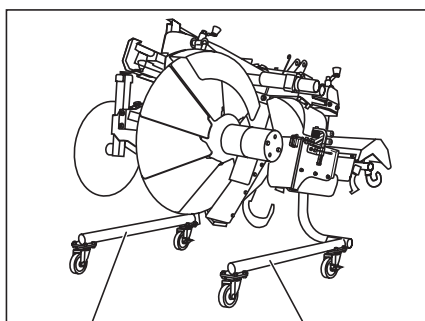
ロアーリンク、リフトロッドは、純正ロータリと同じ位置(特3P)で、又、オートヒッチはロアーリンクに取付けた状態で本作業機は装着できます。

3. スタンドの取付け

⚠ 注意

スタンドの取付けは、作業機を「格納位置」にした状態で行ってください。トラクタから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。

作業機の中央フレーム両端のブラケットにスタンドを取付け、ロックピンで固定します。



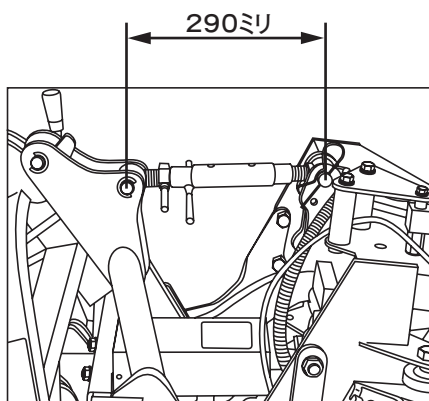
キャストスタンドL

キャストスタンドR

キャストスタンドを取付けた状態で作業及びオフセットはしないでください。変形し機械を傷めます。

4. 作業機を装着姿勢に

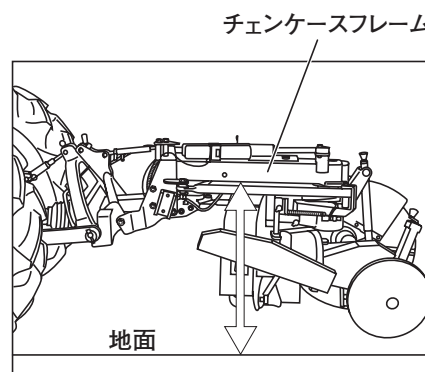
入力軸を前傾にし、装着しやすいようにターンバックルの長さを調整してください。(出荷時 290 ミリ～ 315 ミリ:機種によって異なる)



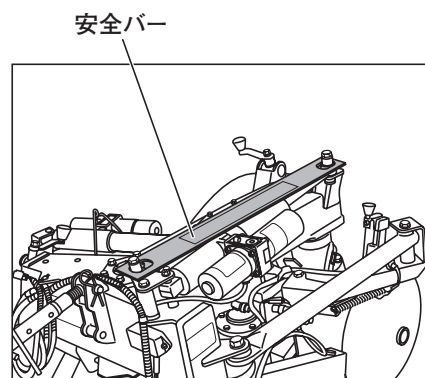
5. トラクタへの装着

トラクタにより、装着手順が異なります。お手持ちの、トラクタ及び、純正ロータリの取

扱説明書に従って装着してください。装着後にスタンドを取外してください。作業機を接地させ、チェーンケースフレームが水平になるようにターンバックルを調整してください。



6. 安全バーを取外してください



⚠ 危険

セフティカバーを取外して使用すると、巻き込まれて死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。

⚠ 注意

作業が終わって作業機を取外すまでは、オートヒッチのロックレバーには絶対に手をふれないでください。ロックが解除し作業機がはずれます。

※水平になっていない場合は、畦の土の量が不足して丈夫な畦ができません。

取扱上の注意

1. 最初の装着時には、油圧をゆっくりあげながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面ガラスを割らないように注意してください。
2. トラクタによっては、スイッチひとつで

自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。又、作業機が勢いよく上がるため 10cm 以上の余裕を持って上げ規制をしてください。

3. トップリンクやロアーリンクの取付穴位置、及びリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。
4. 左右の水平調節についても注意してください。

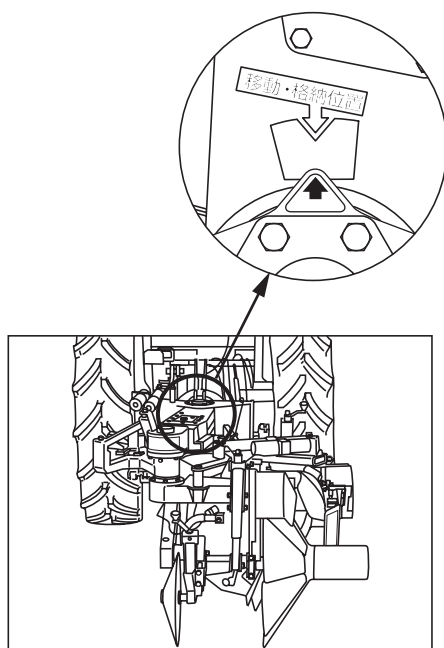
2 トラクタからの取外し

▲ 注意

1. 作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした所で、脱着のためのスペースが十分取れる所で行ってください。
2. スタンドの取付けは、作業機を「格納位置」にした状態で行ってください。トラクタから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。スタンドの L/R は正しく装着してください。間違って取り付けるとバランスを崩し作業機が転倒するおそれがあります。

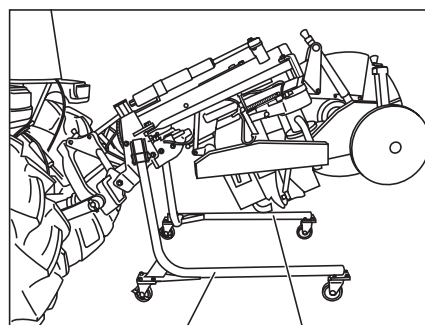
1. 作業機を格納位置に

作業機を下図のように前進作業状態にし、矢印を合わせた位置 (→←) にしてください。



2. スタンドの取付け

作業機を持ち上げて、キャストスタンドをロックピンで固定します。(装着時と同じ状態に取付けします。)



キャストスタンドL キャストスタンドR

スタンドの取付けは、作業機を「格納位置」にした状態で行ってください。

3. 取 外 し

純正ロータリを取扱説明書に従い同様な手順で取り外してください。

4. 保管・格納

保管・格納時は安全バーを取付けてください。(P.52 参照)

フロントウエイトの装着

アゼローターはオフセット作業機です。トラクタ型式及び装着方式によりフロントウエイトが必要になります。必ず、必要枚数、および重量をご確認の上、ご購入先にご相談ください。

フロントウエイト必要枚数（ロプス仕様は、下記数量より 1 枚追加してください。）

トラクタ形式		装着方法	ウエイト必要枚数
クボタ		トラクタ側:W3P 作業機側:B(U)	左記以外の装着方式
KL	250	5枚〈125kg〉	3枚〈75kg〉
	270, 280, 300, 310, 330, 340	4枚〈100kg〉	2枚〈50kg〉
	360, 380, 410, 430	1枚〈25kg〉	※1
	460, 500, 550	1枚〈25kg〉	不要
GM	49, 56, 60	—	不要

トラクタ形式		装着方法	ウエイト必要枚数
ヤンマー		トラクタ側:特3 作業機側:A2(T)	左記以外の装着方式
EF3	26V, 28V	1枚〈30kg〉	1枚〈30kg〉
	30V, 34V, 38V,	—	1枚〈30kg〉
	8V, 42V	—	不要
EF6	50, 55, 60	—	不要
US-1	26	3枚〈90kg〉	2枚〈60kg〉
	30	3枚〈90kg〉	1枚〈30kg〉
	36	2枚〈60kg〉	1枚〈30kg〉
	40, 45, 50, 55, 60	—	不要

トラクタ形式		装着方法	ウエイト必要枚数
サセキ		トラクタ側:特3P 作業機側:A1(T)	左記以外の装着方式
AT	25, 27, 30	2枚〈50kg〉	2枚〈50kg〉
	33	2枚〈50kg〉	1枚〈25kg〉
	37, 41, 46, 50	※2	不要
TJ	55	—	不要

トラクタ形式		装着方法	ウエイト必要枚数
三菱		トラクタ側:デュアルヒッチ 作業機側:B(MU)	左記以外の装着方式
GO	26, 28, 30, 32, 34	5枚〈150kg〉	3枚〈90kg〉
GX	34, 37	2枚〈60kg〉	1枚〈30kg〉
	40, 46, 50	—	0枚

※1 ロプス仕様のみウエイト1枚必要

※2 AT37ロプス仕様のみウエイト2枚必要

▲ 警告

1. トラクタ後部に作業機を装着したとき、かじ取り車輪（前輪）にかかる加重が総重量の25%以上になるようにバランスウエイトを装備し、使用してください。
2. 前部が軽くなりすぎると、操縦が難しくなり転倒事故のおそれもあります（詳細は購入先にご相談ください）。

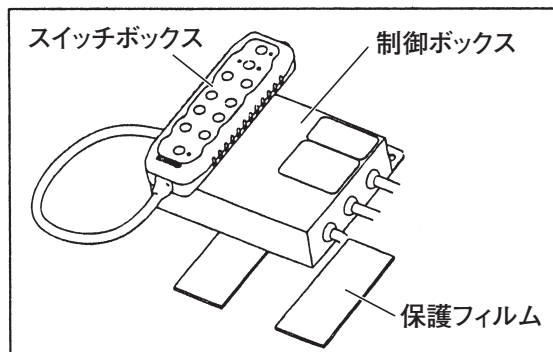
制御ボックスの取付け及び接続

1 制御ボックスの取付け

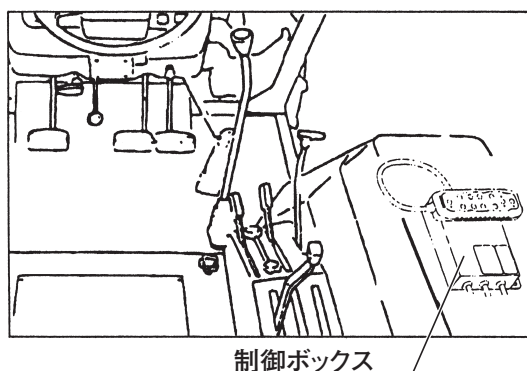
1. 制御ボックスの裏側はマジックテープになっています。

取付ける前にフェンダの取付け面の清掃・脱脂をし、マジックテープについている保護フィルムをはがします。

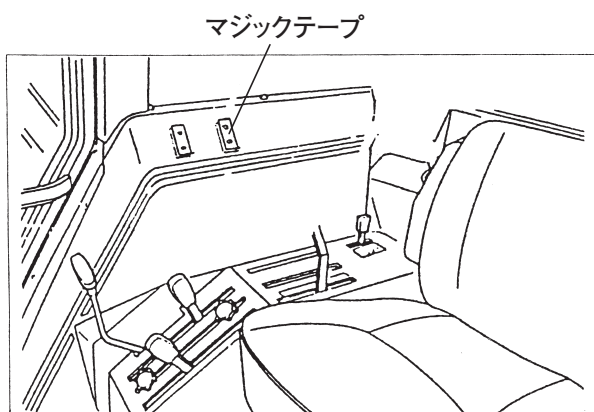
マルチコントローラ



2. 制御ボックスをフェンダに押し付けます。



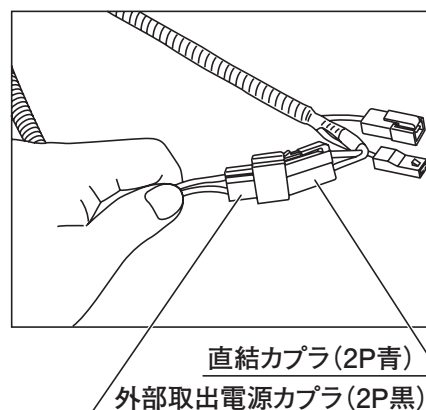
3. マジックテープの粘着面がはがれないように、ゆっくりと制御ボックスを外します。フェンダ側に残ったマジックテープを強く押さえ、はがれないようにします。



2 電源コードの接続

取扱上の注意

1. このマルチコントローラは、安全上の問題から、トラクタのバッテリーからの電源接続と、トラクタ後部にある外部取出し電源の両方の電源を接続してください。この両方の接続をすることによって、万一スイッチボックスの電源の切忘れがあっても、トラクタのキースイッチをオフにすることで強制的に電源が切れるようになります。但し、キースイッチと外部取出し電源が連動していないトラクタがあります。(詳しくはトラクタの取扱説明書をご覧ください。) その場合、トラクタのキースイッチを OFF にしてもスイッチボックスの電源は切れないため、作業終了後は必ずスイッチボックスの電源を OFF にしてください。又、バッテリーハーネス ASSY を使用せずに、(バッテリーに接続しない) トラクタの外部電源のみで使用すると、トラクタ側のヒューズが切れます。
2. トラクタに外部取出し電源がない、またはカプラが合わない場合は、制御ボックスの直結カプラ (2P 青) と、外部取出し電源カプラ (2P 黒) を接続してください。これによって、トラクタのキースイッチの ON, OFF 関係なく常時バッテリーから電源が供給されます。(この接続を行わないとスイッチボックスの電源は入りません) トラクタのキースイッチを OFF にしても強制的にスイッチボックスの電源は切れないため、作業終了後は必ずスイッチボックスの電源を OFF にしてください。



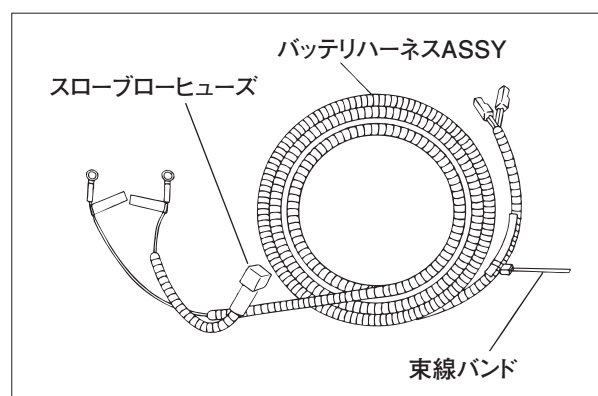
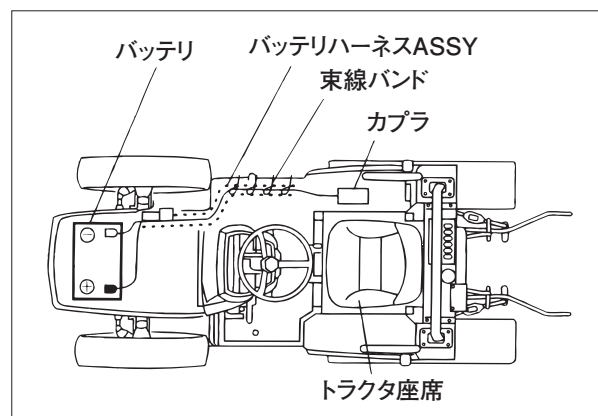
⚠ 警告

1. バッテリーハーネス ASSY をバッテリーに接続するときは、(+) (−) に注意してください。(+) (−) を逆に接続すると、ショートして火災になる恐れがあります。

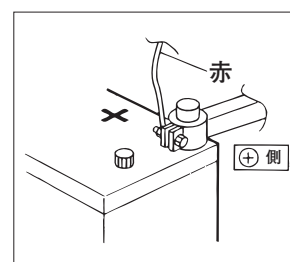
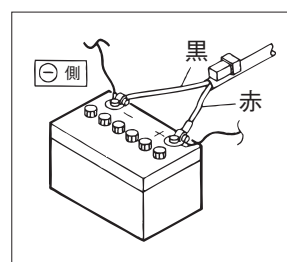
⚠ 注意

1. バッテリーハーネス ASSY が損傷している場合は、絶対に使用しないでください。(守らないとショートする恐れがあります)
2. 接続できるバッテリー電圧は12Vです。24V のバッテリーには絶対に接続しないでください。あやまって接続すると、スイッチボックス ASSY 等を破損し、ショートする恐れがあります。
3. ぬれた手でバッテリーや接続部に触れないでください。あやまって触れると、感電する恐れがあります。
4. バッテリー (+) 端子への取付け及び取外し作業は、アース側の (−) 側ケーブルがターミナルから取外されていることを確認した上で、行ってください。
守らないと工具等がトラクタのボディに当たった場合にショートして危険です。
5. 長期間使用しない場合は、必ずトラクタのバッテリーからバッテリーハーネス ASSY を取外して保管してください。
守らないとバッテリーハーネス ASSY を損傷し、ショートする恐れがあります。
6. バッテリーハーネス ASSY の取付け及び取外し手順は、必ず取扱説明書通りに行ってください。守らないと工具等がトラクタのボディに当たった場合にショートして危険です。

1. バッテリーへの取付け



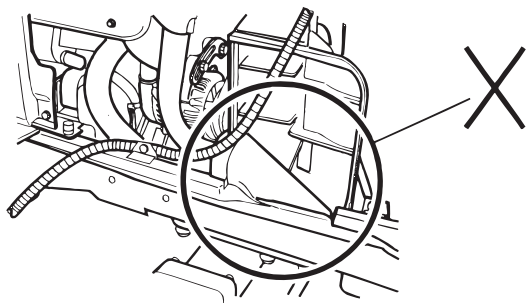
- ① トラクタのエンジンを止め、電源を切ってからエンジンキーを抜いてください。
 - ② バッテリーに取り付けられているアース側の (−) 側ケーブルをターミナルから取外してください。
 - ③ バッテリーハーネス ASSY の (+) 側 (赤色線) 丸端子を、バッテリーの (+) 側のターミナルのネジ部に取付けた後、確実に締まっていることを確認してください。
 - ④ アース側の (−) ケーブルをバッテリーの (−) 側ターミナルに取付け、バッテリーハーネス ASSY の (−) 側 (黒色線) 丸端子を、バッテリーの (−) 側ターミナルのネジ部に取付けた後、確実に締まっていることを確認してください。
- (+) 側詳細図



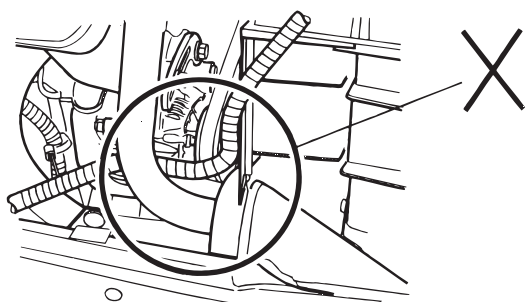
- ⑤ ハーネスがたるまないように付属の束線バンドでトラクタに固定してください。特にスイッチボックス側のコネクタ付近は、複数箇所固定してください。

⚠ 注意

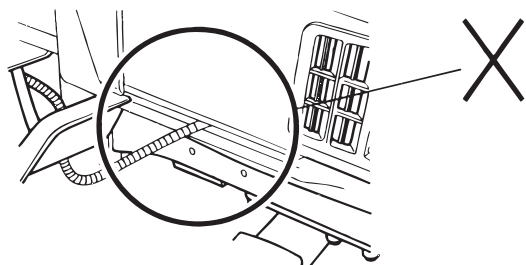
1. トラクタの高温部箇所（マフラ等）には、バッテリーハーネス ASSY を取付けしないでください。高温でバッテリーハーネス ASSY が溶けて危険です。



2. 回転物（ファンベルト、冷却ファン等）や可動するものに接触しないように取付けてください。バッテリーハーネス ASSY が切れてショートする恐れがあります。

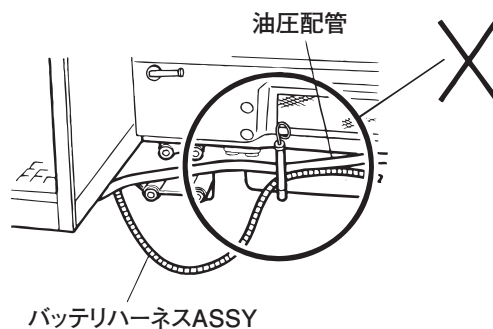


3. バッテリーハーネス ASSY が鋭利なものに接触したり、カバー、シート、キャビンのドア等に挟み込まれないように取付けてください。ハーネスの被覆がはがれて危険です。



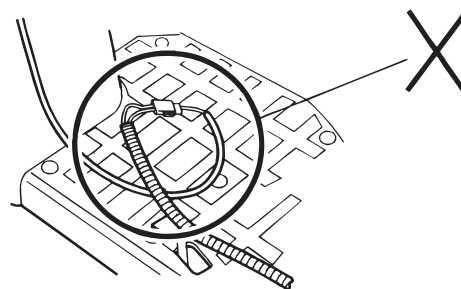
4. トラクタフレームの下側にバッテリーハーネス ASSY が垂れ下がった状態にしないでください。障害物に引っかかりショートする恐れがあります。

5. 油圧配管にバッテリーハーネス ASSY を固定しないでください。

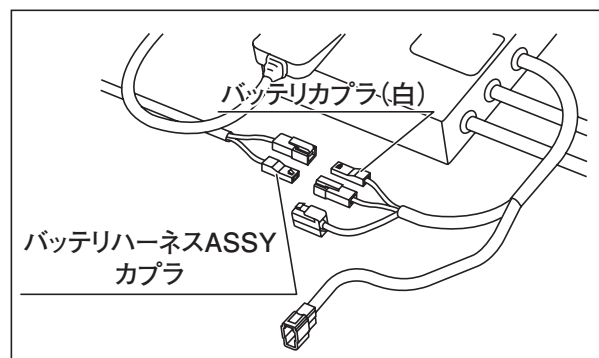


6. トラクタ可動部にバッテリーハーネス ASSY を固定しないでください。

7. 運転席の足元でバッテリーハーネス ASSY がたるまないように固定してください。たるんでいると足に引っかかりショートする恐れがあります。ハーネス部及びカプラ部は足で直接踏み付けられるような場所に配線しないでください。またカプラ付近での固定を確実に行ってください。

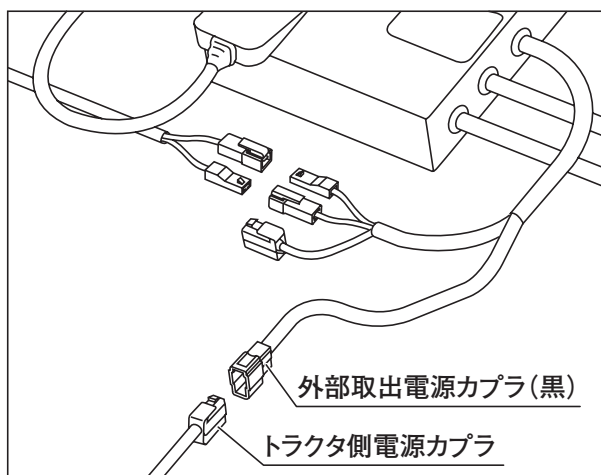


- ⑥ バッテリーハーネス ASSY のカプラを制御ボックス側のカプラに取付けてください。

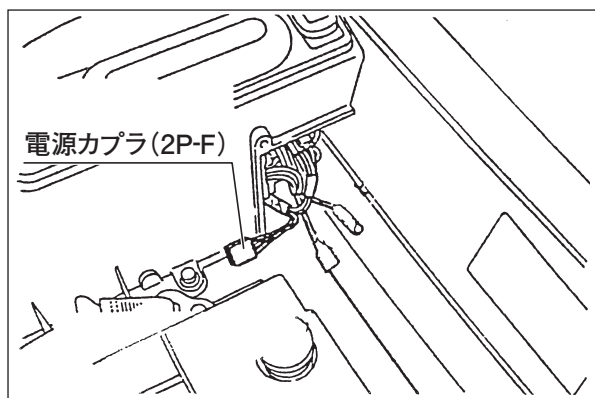


- なおバッテリーハーネス ASSY でバッテリーまで届かない場合は、延長用のハーネスキット B を使用してください。
(オプション＝品目コード :7662496、長さ :1.5m)

- ⑦トラクタの外部電源カプラを制御ボックス側のカプラに取付けてください。

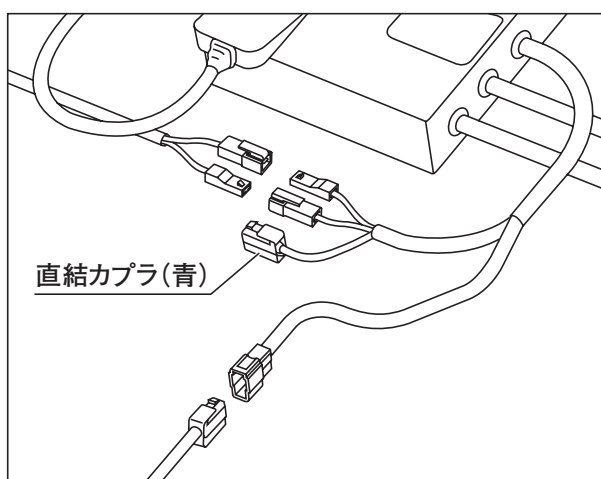


トラクタ側電源カプラ



電源カプラの位置はトラクタにより異なります。

※バッテリーとトラクタ外部電源取出しの両方を接続した場合、直結カプラは使用しません。

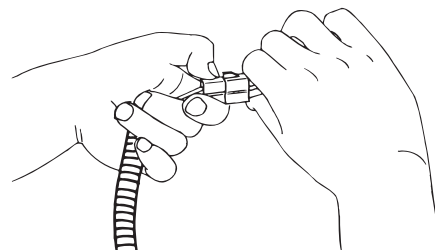


2. バッテリーからの取外し

- ①トラクタのエンジンを止め、電源を切ってからエンジンキーを抜いてください。
- ②スイッチボックス側のカプラ部を取外してください。

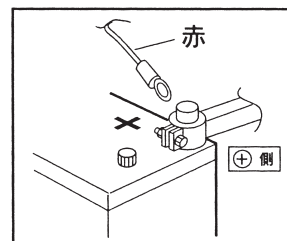
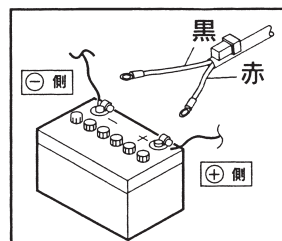
▲ 注意

1. カプラを取外す場合は、ロック用の爪部分を押さえながら取外してください。この時、絶対に配線を引っ張って取外さないでください。守らないとカプラが破損し、端子が剥き出しになりショートして危険です。

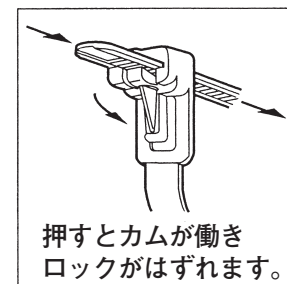
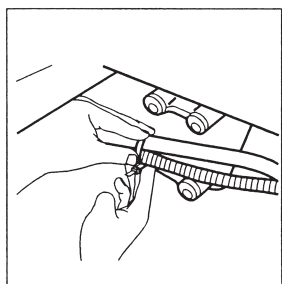


- ③バッテリーに取付けられているアース側の(－)側ケーブルをターミナルから取外してください。
- ④バッテリーハーネス ASSY の(＋)側(赤色線)丸端子を、バッテリーの(＋)側ケーブルから取外した後、ネジを元通りに確実に締め付けてください。

(＋) 側詳細図



- ⑤バッテリーハーネス ASSY の(－)側(黒色線)丸端子をバッテリーの(－)側ケーブルから取外してください。
- ⑥アース側の(－)ケーブルをバッテリーの(－)側ターミナルに取付けた後、ネジが確実に締まっていることを確認してください。
- ⑦束線バンドを取外してから、バッテリーハーネス ASSY を取外してください。



※ハサミ等で切らないでください。

- ⑧取外した部品は、安全な場所に大切に保管してください。

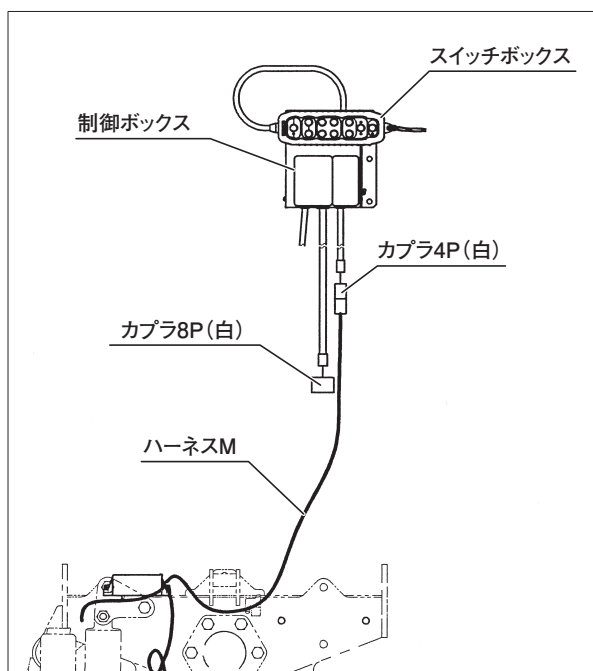
3. スローブローヒューズについて

- ・ スローブローヒューズは、ショートした場合に配線を保護するためのものです。
- ・ もし切れた場合は、すみやかに購入された販売店に相談し、切れた原因の確認と処置を行ってください。
- ・ 交換する時は、必ず純正部品を使用してください。(品目コード：7662494, 部品名：スローブローヒューズ 規格 60A)
- ・ ヒューズの交換は、必ずエンジンを停止し、スイッチボックスの電源を切った上で行ってください。
- ・ 交換後は元通りにカバーを閉じてください。

※この制御ボックス及びスイッチボックスは、アゼローター・ハロー(電動仕様)の両方で共通に使用することができます。作業機側の配線接続方法・操作方法はそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

4. ハーネス M. の接続

ハーネス M. を制御ボックスのカプラ 4P に接続します。



接続後は、付属の束線バンドでハーネスを固定してください。

⚠ 注意

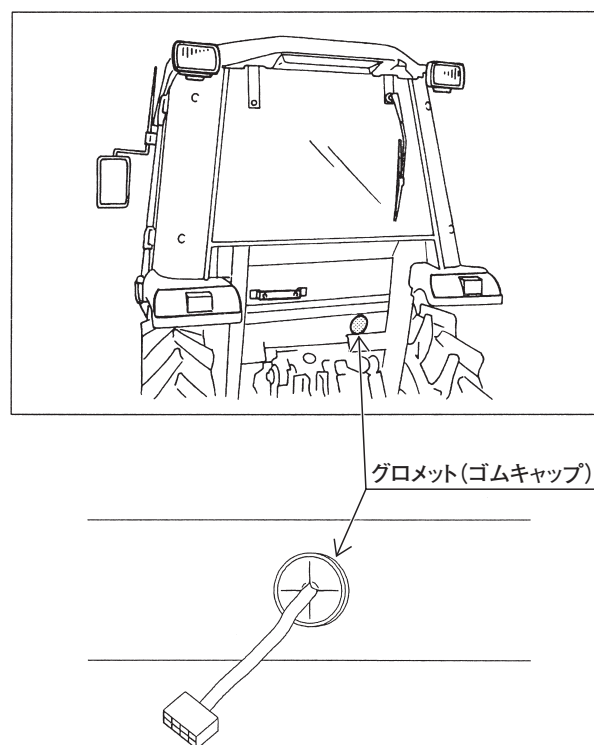
接続後、アゼローターを上下してもハーネスが引っ張られたり、折り曲げのないことを確認してください。

取扱上の注意

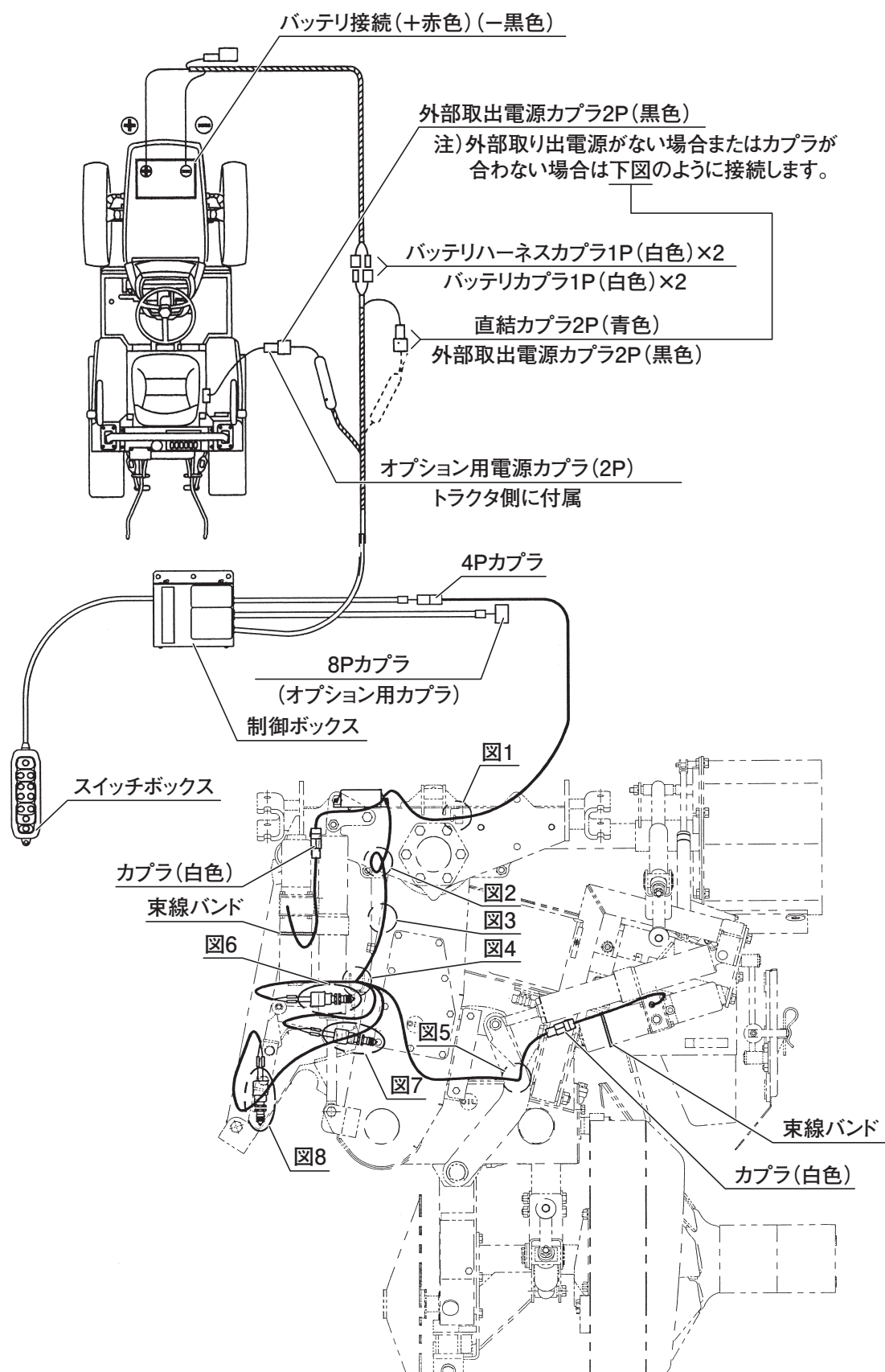
配線後はアゼローターを上下させてハーネス(コード)が引っ張られたり、ジョイントやタイヤ等に接触しないか確認してください。

⚠ 注意

電気ケーブルをトラクタ後部のケーブル取り出し穴に通す場合、必ずグロメット(ゴムキャップ)の中を通してください。グロメットがふさがれている場合はカッター等で切り、その中を通してください。グロメットを外してケーブルを通すとケーブルが鋭利なコーナーで切断され、ショートする場合があります。

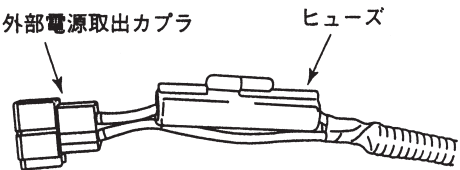


トラクタの電源接続と配線



マルチコントローラトラブルシューティング

故障かなと思う前に

症状	確 認 事 項	対 処 作 業	掲載頁
電 源 が 入 ら な い	トラクタのキースイッチは ON になっていますか？	バッテリーカプラ・外部電源取出カプラを接続している場合、トラクタのキースイッチを ON にしてください。	
	各カプラは確実に根元まで挿入されていますか？	各カプラをしっかりと挿入してください。	
	バッテリーカプラ・外部電源取出カプラは正しく接続されていますか？	・トラクタ側電源カプラに接続する場合 バッテリーカプラはバッテリーハーネス ASSY に、外部電源取出カプラはトラクタ側電源カプラの両方に接続してください。 ・トラクタ側電源カプラに接続しない場合 バッテリーカプラはバッテリーハーネス ASSY に、外部電源取出カプラは制御ボックスの直結カプラに接続してください。	23 ~
	バッテリーハーネス ASSY のヒューズが切れていませんか？	配線がカバー等にショートしていないか確認後、ヒューズを交換してください。	25
	トラクタ側電源カプラに接続している場合、トラクタの電源カプラのヒューズが切れていませんか？	トラクタ側のヒューズを交換してください。	トラクタの取扱説明書
	バッテリーとバッテリーハーネス ASSY の＋は正しく接続されていますか？	逆に接続されていた場合、正しく接続しなおしてください。 また制御ボックス外部電源取出しカプラのヒューズが切れている場合、交換してください。 (必ず <u>5A 以下</u> のものを使用してください。) 	24
ス イ ッ チ を 押 し て も 動 か な い	各カプラは確実に根元まで挿入されていますか？	各カプラをしっかりと挿入してください。	
	スイッチ操作を間違えていませんか？	取扱説明書をご覧ください。 (ハロー、畦塗機と兼用及び、各種キットの有り無しにより、使用しないスイッチがあります。)	30
	エンジンはかかっていますか？	エンジンを始動させてください。	
	バッテリーは消耗していませんか？	バッテリーを交換してください。	

その他不明なトラブルは、購入された販売店に御相談ください。

スイッチボックスの操作及び注意事項

1 操作と取扱いの注意

取扱上の注意

- オフセット・旋回時、誤動作及び停止した場合はマルチコントローラトラブルシューティング(P.29)や異常診断一覧表(P.68～69)を確認の上、対応を行ってください。
- スイッチボックスの開・閉ボタンを押した状態でリミットスイッチを押さないでください。誤動作し機械が破損します。
- リミットスイッチは調節及び、取り外さないでください。取付け位置を変えると機械が破損します。

1. トラクタのエンジンを始動させてください。

2. 電源スイッチを「入」にします。

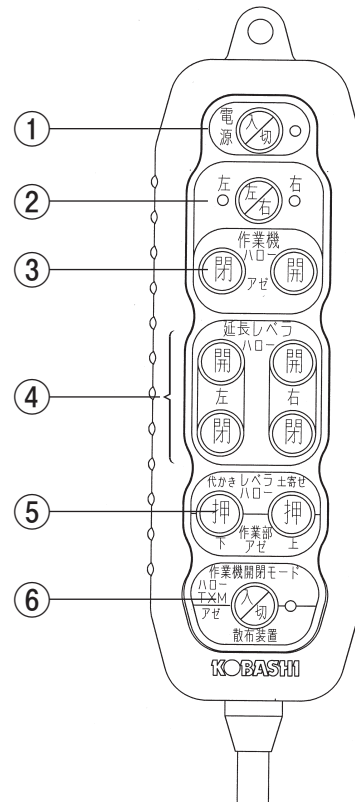
このとき、電源ランプが点灯することを確認してください。

3. 作業機動作とスイッチ操作

作業機動作	スイッチ操作と作動
① 電源入切	電源入/切 → 入る・切れる (押すごとに切換わる)
② モード切換え ※1. 2.	左/右 → ハロー・アゼ (1秒以上長押しするとに切換わる)
③ 平行移動 及び旋回	作業機 閉 → 後進作業 作業機 開 → 前進作業
④ 天場耕深調節 (オプション)	延長レベラ右 開 → 天場 浅 延長レベラ右 閉 → 天場 深
⑤ ドラム上下 (オプション)	作業部アゼ 下 → ドラム下 作業部アゼ 上 → ドラム上
⑥ 除草剤散布 (オプション)	散布装置 入 → 散布 散布装置 切 → 散布止

※1. ハローモードでは「左、右」のランプが点灯、アゼモードでは「アゼ (右)」のランプが点滅します。

※2. アゼモードで使用してください。



▲ 注意

開閉操作時は各スイッチ操作を行うときは、周囲に人がいないことを、必ず確認してください。機械との接触等によりケガをする恐れがあります。

4. 散布装置ボタンは除草剤キット (オプション) を取付けた場合に使用します。通常電源は「切」にしてください。

5. スイッチの操作は、必ず1カ所ずつ行ってください。2カ所を同時に操作するとブレーカが切れることがあります。

6. 各スイッチによる作動終了後は、スイッチから手を離してください。ブレーカが切れることがあります。

7. 電源ランプが途中で消えた場合、ブレーカが切れていることが考えられます。数秒で自動復帰しますので再度スイッチを操作してください。

8. 作業終了後は、必ず、電源を「切」にしてください。

⚠ 注意

トラクタから離れているときは、必ずキーを抜き取ってください。

又、電源をバッテリーに接続している場合は、電源用コードのカプラを必ず抜いてください。

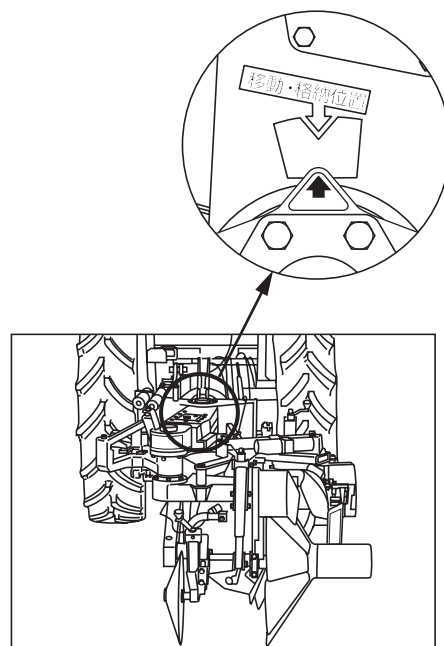
9. 作業終了後は電動シリンダ及びガススプリング（銀色部）に付いた泥等汚れを除去してください。
10. 洗車時にはスイッチボックス・制御ボックスに水が掛からないように防水保護をしてください。

取扱上の注意

1. スwitchボックスの操作を行う場合は、必ずトラクタのエンジンを始動させてください。
2. 作業機のオフセット及び旋回動作は必ずトラクタを停車して行ってください。トラクタ走行中に行った場合、電動油圧シリンダのエアークロムや作業機の故障につながります。
3. 畦塗作業中の旋回動作は行わないでください。（オフセットは可）作業機が故障します。

2 移動・格納（平行移動及び旋回操作）

1. 作業機の開閉は、必ず左右のキャストスタンドを取外してから行ってください。
2. トラクタで移動する場合は必ず作業機を下図のように前進作業状態にし、矢印を合わせた位置（→←）にしてから行ってください。



3. 長期間作業しない時はスイッチボックス及びバッテリーハーネス ASSY をトラクタより外し、保管してください。
4. 長期間作業しない時はシリンダに布等を被せサビないように注意してください。（サビはシリンダの油漏れの原因となります）

⚠ 警告

1. 圃場への出入り及び移動（格納）する時は、必ず作業機を格納位置にしてから行ってください。
2. 圃場への出入りは、あぜや段差に対して直角に進んでください。

取扱上の注意

1. オフセット・旋回時、誤動作及び停止した場合はマルチコントローラトラブルシューティング (P.29) もしくは、異常診断一覧表 (P.68 ~ 69) を確認の上、対応を行ってください。
2. スwitchボックスの開・閉ボタンを押した状態でリミットスイッチを押さないでください。誤動作し機械が破損します。
3. リミットスイッチは調節及び、取り外さないでください。取付け位置を変えると機械が破損します。
4. 保管・格納時は安全バーを取付けてください。（P.53 参照）

作業前の点検

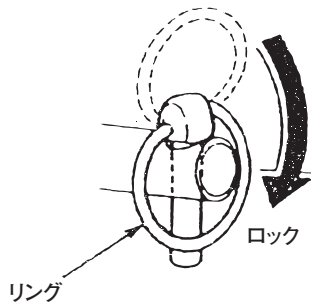
作業機の正常な機能を発揮させるため、又、故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。下記の始業点検は毎日欠かさず行ってください。

⚠ 注意

1. 点検は平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. トラクタのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
3. 作業機は地面におろしてから行ってください。作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、油圧をロックし、落下防止をするとともに、台などを耕うん軸の下に置き、作業機が絶対落下しないようにしてから行ってください。

1 各部のボルト・ナットのゆるみ

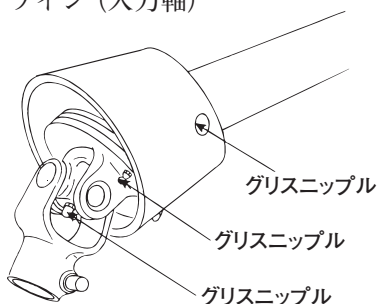
各部のボルト・ナット類に緩みはないか、増し締めしながら点検してください。特に耕うん爪取付ボルトは緩み易いので点検が必要です。尚、新品の場合は使用1時間で点検を行ってください。又、ピン類も全てそろっていることを確認してください。又、リンチピンのリングが確実にロックされていることを確認してください。



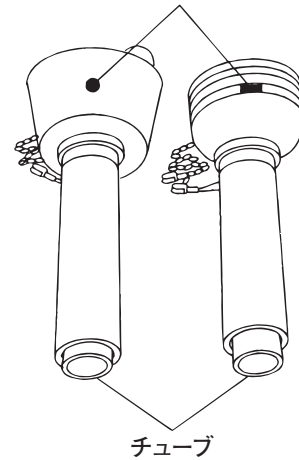
2 ジョイントへのグリスアップ

ジョイントの各部にグリスアップしてください。

- ① グリスニップル
- ② チューブ
- ③ スプライン (入力軸)



グリスニップル



チューブ

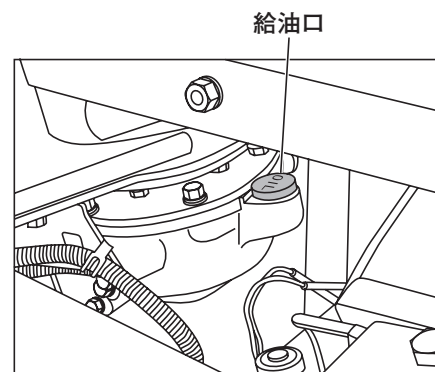
⚠ 危険

セフティカバーを取外して使用すると、死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。

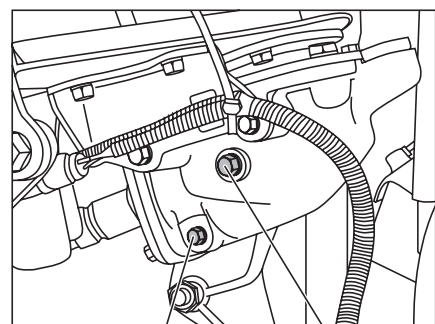
3 ギヤークースのオイル量

フロントギヤークース、リヤギヤークースの検油ボルトをゆるめてオイルがあるか確認してください。ボルト面よりオイルが少ない場合は、ボルト面まで補給してください。(ギヤースキヤム油 # 90)

(1) フロントギヤークース



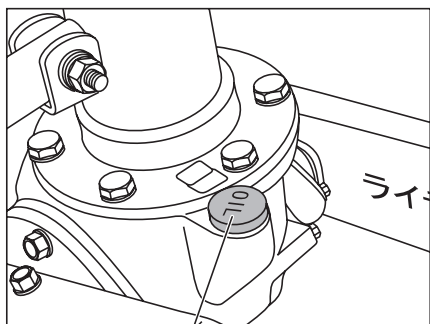
給油口



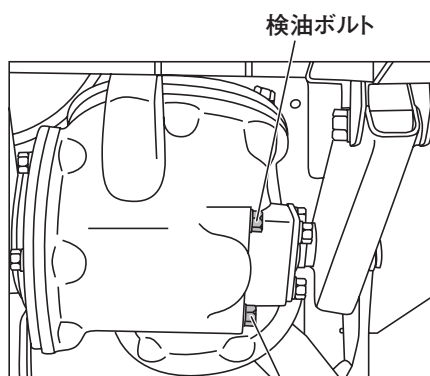
ドレンボルト

検油ボルト

(2) リヤギヤケース



給油口



検油ボルト

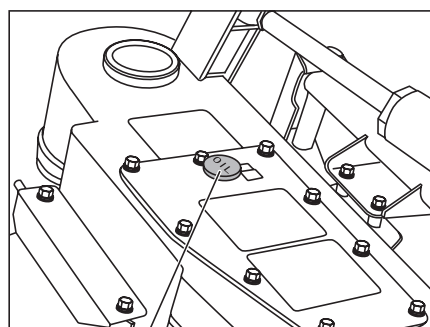
ドレンボルト

オイル量の点検は、アゼローターを水平にして行ってください。

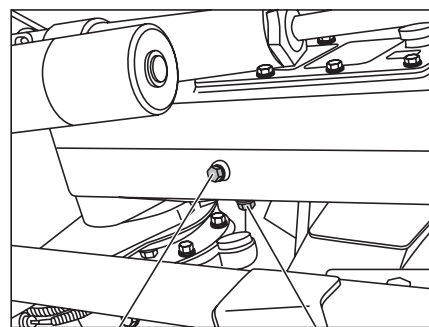
4 チェンケースのオイル量

チェンケースフレーム A、及び B の検油ボルトをゆるめてオイルがあるか確認してください。ボルト面よりオイルが少ない場合は、ボルト面まで補給してください。(ギヤーオイル # 90)

(1) チェンケース フレーム A



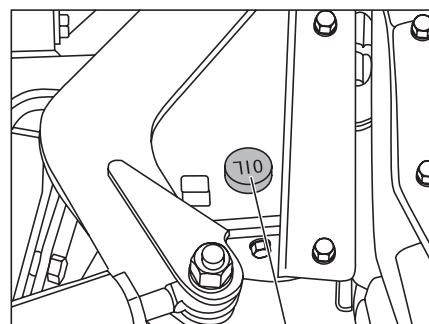
給油口



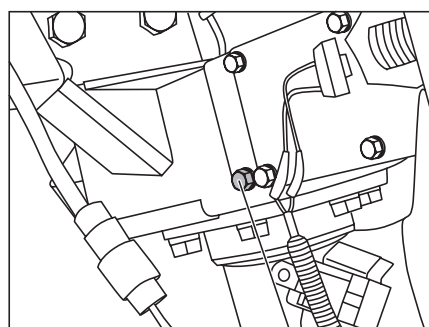
検油ボルト

ドレンボルト

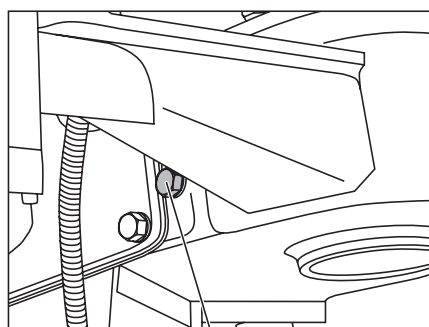
(2) チェンケース フレーム B



給油口



ドレンボルト

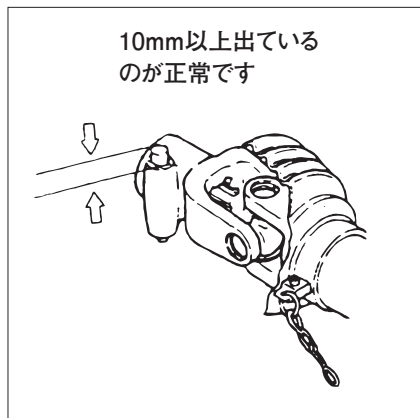


検油ボルト

オイル量の点検は、アゼローターを水平にして行ってください。

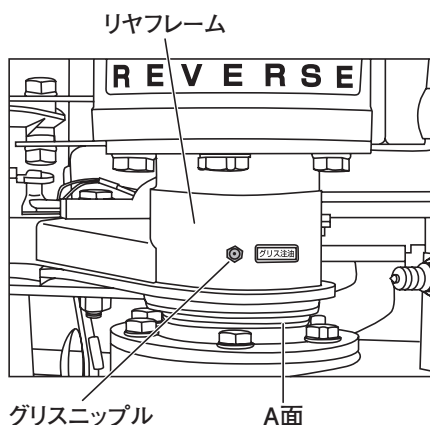
5 ジョイントのノックピン

ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。ピンの「頭が10mm以上」出ているか、トラクタ側、作業機側のノックピンを確認してください。



6 リヤフレームへのグリスアップ

リヤフレームのグリスニップルに下図の A 面よりグリスが出てくるまで注入してください。

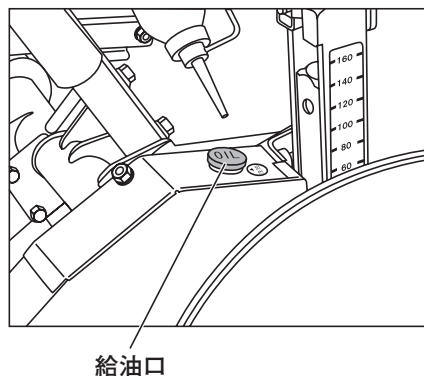


7 ドラムチェンカバー及びテンバチェンカバー内のチェンへの注油

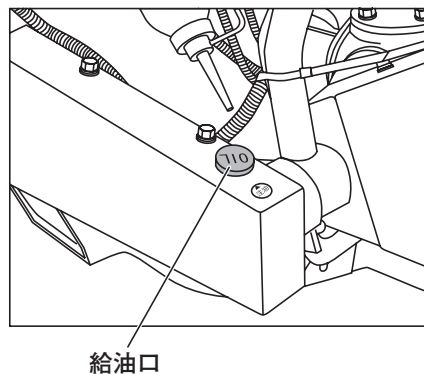
(油溜式でない為、オイルは適量滴下してください。)

ドラムチェンカバー及びテンバチェンカバーの注油口よりチェン適量のオイルを注油(滴下)してください。(ギヤーオイル # 90)

(1) ドラムチェンカバー

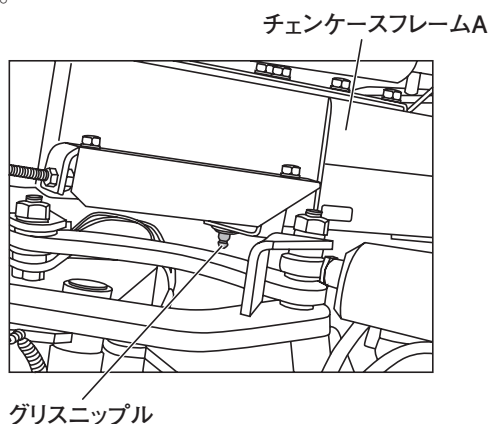


(2) テンバチェンカバー (F 仕様のみ)



8 テンションアーム B へのグリスアップ

チェンケースフレーム A 下部にあるテンションアーム B のグリスニップルに適量注入してください。



9 空転、暖機運転

作業前には空転させ、各部より異音が発生していないか確認してください。又、暖機運転を5～10分行ってください。

圃場の準備

1. 仕上がりの良いアゼを築く為、畦草、飛散ワラを取り除いてください。又、石等の障害物がありましたら機械が傷み、故障、事故の原因となりますので、取り除いてください。

2. 圃場は耕うんしないでください。耕うんするとトラクタが沈み直進性が悪くなります。又、土量が減り堅畦が出来にくくなります。(耕うんする場合、トラクタ走行幅は残してください)

3. トラクタの車輪跡がつくか、約 5cm 程度トラクタのタイヤが沈む程度か、土を丸めて手のひらでころがしても崩れない程度が、良いアゼがつくれます。

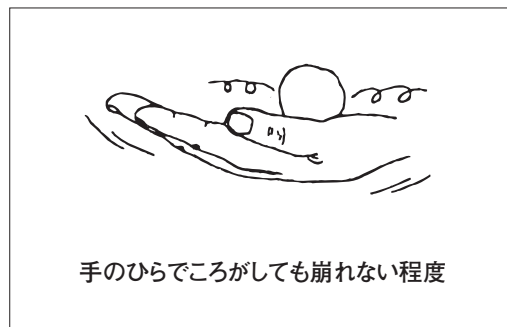


土を握って土塊をつくる

4. 雑草やワラ、石などはできるだけ処理してください。

5. 圃場に水が溜まっている時は、水を落として適度の湿りになるまで乾かしてから作業を行ってください。

6. 畦を築いた後で雨が降ると畦が柔らかくなり崩れる恐れがありますので、作業を行う際は天候に十分注意して行ってください。

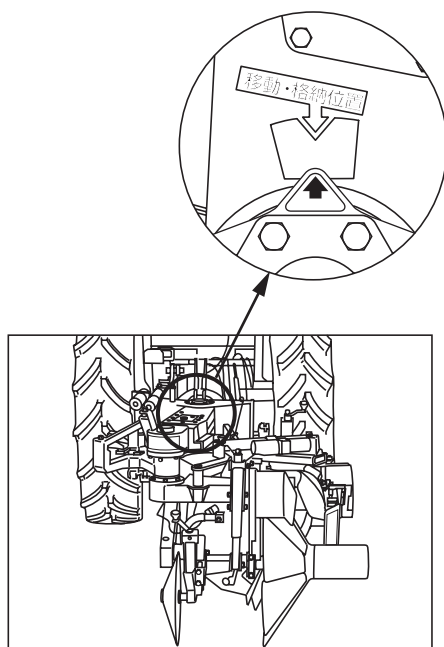


手のひらでころがしても崩れない程度

※重粘土質で水分の多い圃場、また極度の砂質ではアゼづくりがむずかしいので注意してください。

移動、圃場への出入り

1. 圃場への出入り及び、移動 (格納) する場合は、必ず作業機を下図のように前進状態にし、矢印を合わせた位置 (→←) にしてから行ってください。



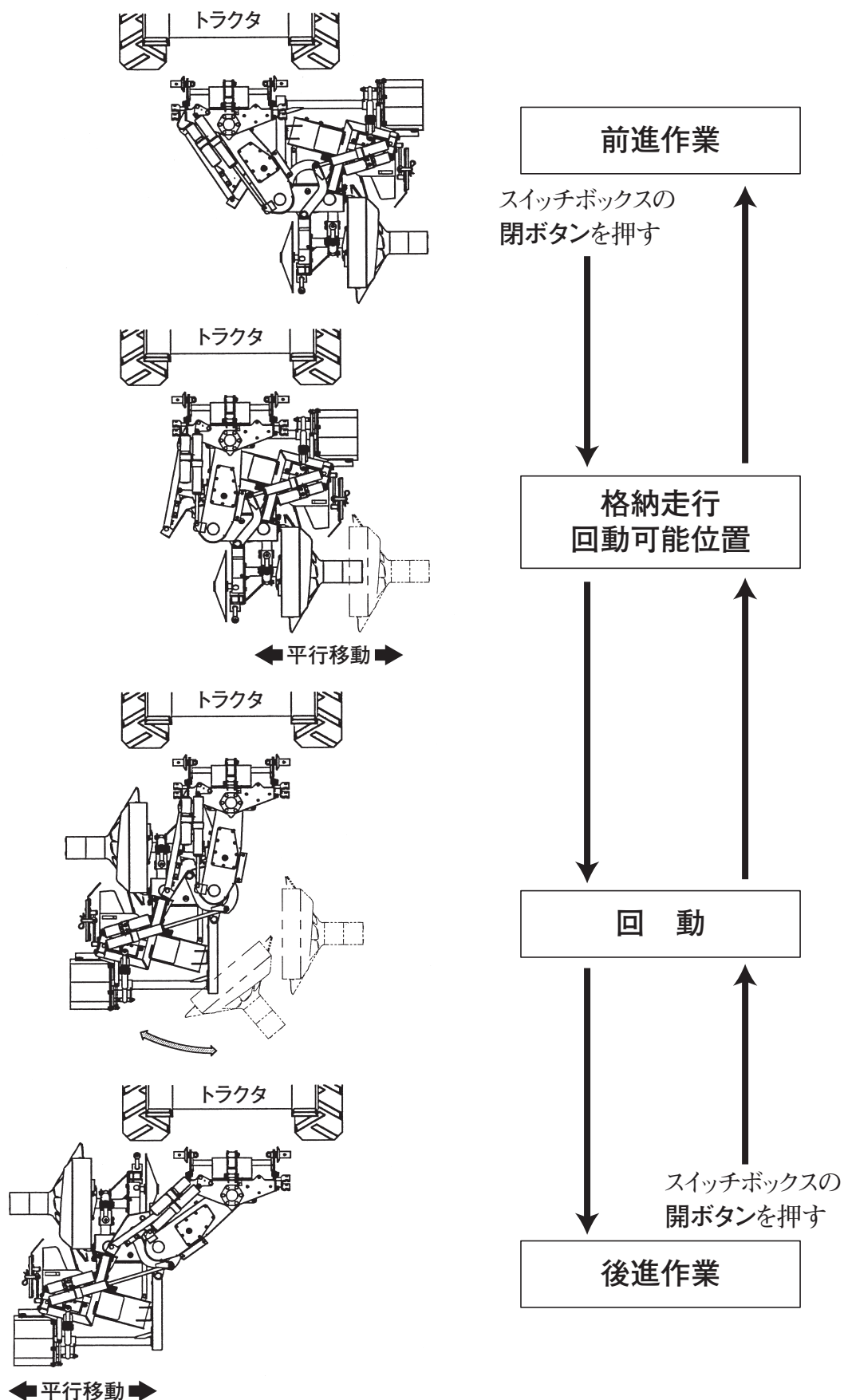
⚠ 警告

1. 移動の際はアゼローターを持ち上げ、油圧ロックをし、左右のブレーキを連結し、チェックチェーンも確実に張れているか確認してください。
2. トラックへの積み込み、急な坂では、トラクタの前輪が浮き上がるとハンドルが利かず、危険です。フロントウエイトを着けてアゼローターを下げて登ってください。
3. 前後、左右に気を配り、安全を確認しながら走行してください。高速運転、急速発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。
4. 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げて畦や段差に対して直角に進んでください。畦が高い時は丈夫で滑り止めのあるアユミ板を使用し、傾斜角が 14 度以下になるようにしてください。
5. 溝のある農道や両側が傾斜している農道を通るときは路肩に注意してください。

⚠ 注意

1. 圃場に入るときは、必ず前進、低速で畦や段差に対して直角に進んでください。
2. 傾斜している圃場からでるときはバックで上がるか、丈夫なアユミ板を使用してください。
3. 畦や段差に対して斜めの方向に進むと、横滑りや転倒する危険があります。アゼローターを低くして重心を下げ、直角に進んでください。
4. アゼローターを下げて前進しますと前輪が浮き上がりにくくなります。常に前・後輪のバランスを考えながら移動、圃場への出入りに注意しながらトラクタ操作をしてください。
5. 移動時にはトラクタの PTO を切りニュートラルにしてアゼローターの回転を止めて走ってください。

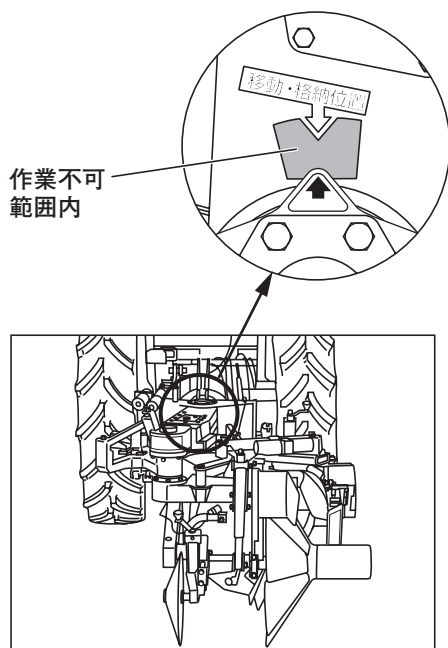
前進作業と後進（リバーズ）作業の切換え動作



前進作業と後進（リバース）作業のセットの仕方

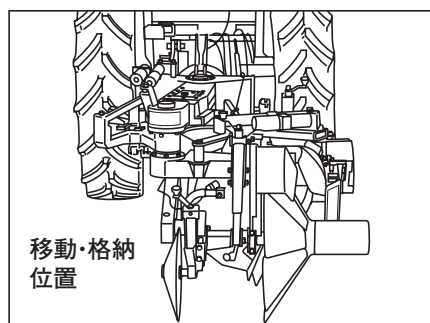
取扱上の注意

下図のように矢印がラベルの「作業不可」範囲内では絶対に作業しないでください。ロックアームがロックされていない為、作業機が破損する恐れがあります。

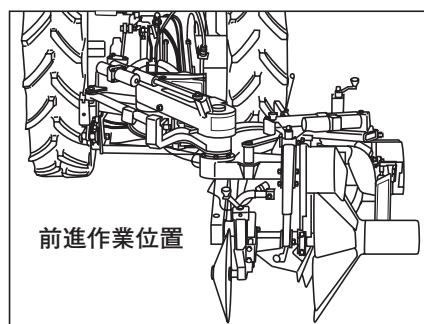


1 トラクタに装着した後、前進作業状態にする場合

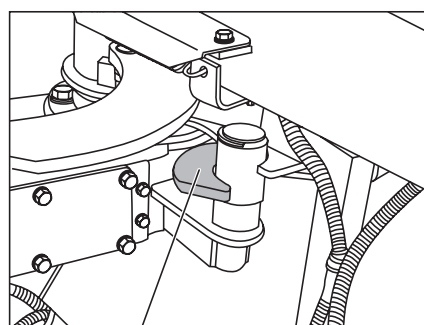
トラクタ装着時、アゼローターは下図のように移動・格納状態になっています。



- ①油圧を下げ、機体重心を低くしてください。
その際、地面とドラムの高さを 20cm 程度確保してください。
- ②スイッチボックスの **開** ボタンを押すとアゼローターが平行移動して前進作業状態になります。

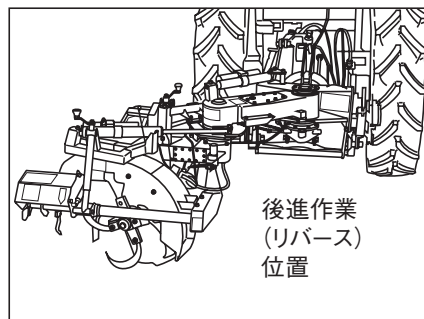


- ③ロックアームがロックされていることを確認してください。

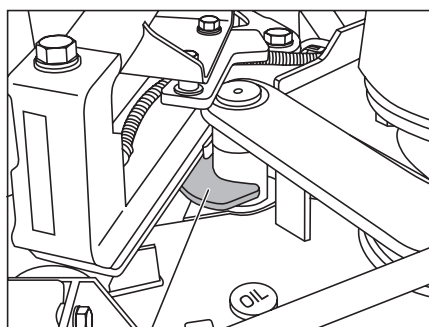


2 前進作業状態から後進（リバース）作業状態にする場合

- ①油圧を下げ、機体重心を低くしてください。
その際、地面とドラムの高さを 20cm 程度確保してください。
- ②スイッチボックスの **閉** ボタンを押すとアゼローターが平行移動→旋回→平行移動して後進（リバース）作業状態になります。



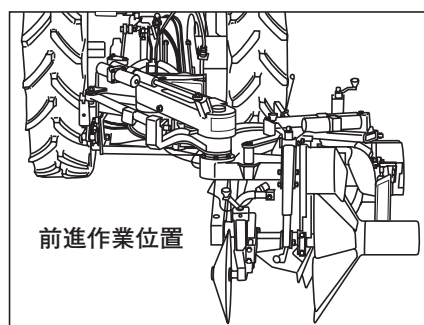
- ③ロックアームがロックされていることを確認してください。



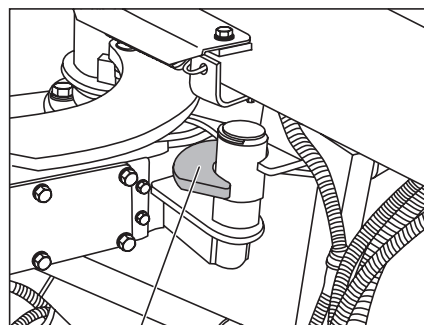
ロックアームがロック

3 後進（リバーズ）作業状態から前進作業状態にする場合

- ①油圧を下げ、機体重心を低くしてください。
その際、地面とドラムの高さを 20cm 程度確保してください。
- ②スイッチボックスの **開** ボタンを押すとアゼローターが平行移動→旋回→平行移動して前進作業状態になります。



- ③ロックアームがロックされていることを確認してください。



ロックアームがロック

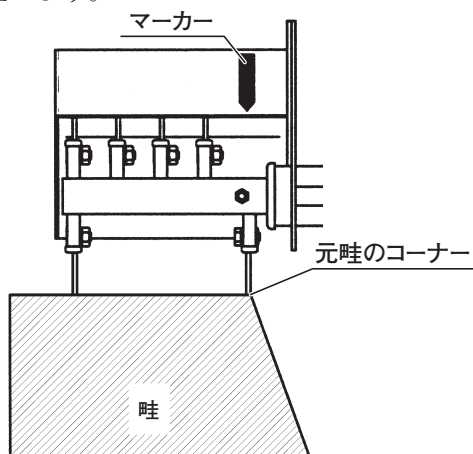
上手な作業の仕方

1 作業前の各部の調整

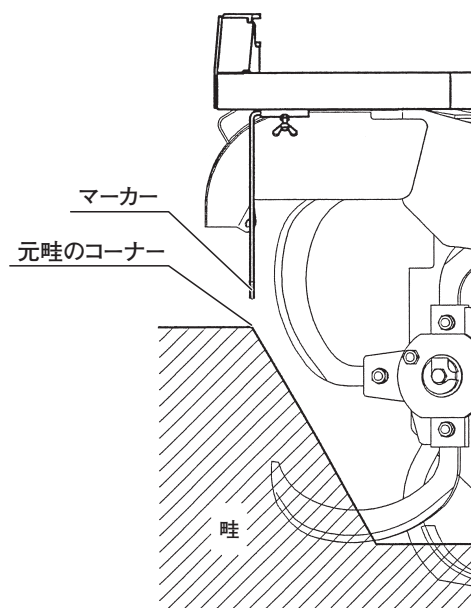
畦の仕上がり状態は、畦の土の状態によって異なりますので、以下の要領で各部の調節を行ってください。

1. アゼローターのセット（前進作業）

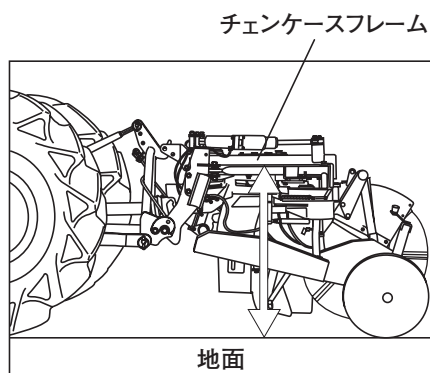
- ①RKM752F、RKL752F、RKL852F の場合
トラクタが元畦と平行かつマーカが元畦のコーナーにくる位置にアゼローターを配置します。



- ②RKM752H、RKL752H、RKL852H の場合
トラクタが元畦と平行かつマーカが元畦のコーナーにくる位置にアゼローターを配置します。



- ③エンジン回転速度を1800rpm付近まで上げ、PTO「1速」、ポジションレバーを最下げ、車速0.4km/h付近、ドラム深さ:標準、コールド深さ:標準(100mm)まで数m試運転します。
- ④チェンケースフレームAが地面に対して水平になっていることを確認します。水平になっていない時は、トップリンクとリフトロットで調節します。



※ 水平になっていない場合は、畦の土の量が不足して丈夫な畦ができません。

⚠ 警告

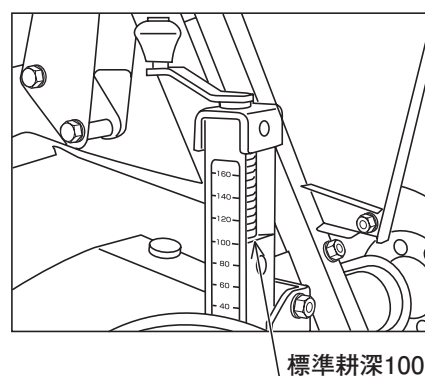
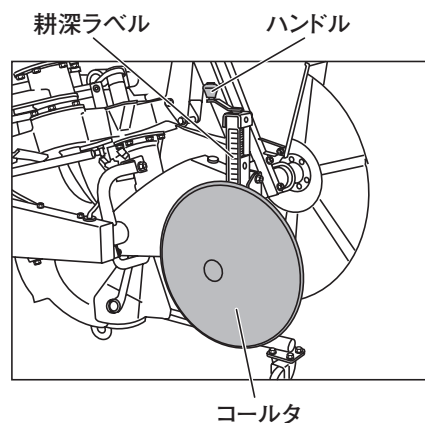
1. 運転中は危険ですから、トラクタ及び作業機の周囲には、補助作業員や、他の人を絶対に近づけないようにしてください。
2. 作業機を調整、整備する場合や、爪軸等への草、ワラのからみ付きを取り除く場合は必ず、トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、PTO軸への動力の伝達がか切れていることを確認した上で行ってください。
3. 傾斜地での急旋回は転倒の危険があります。ゆっくりと注意して行ってください。

取扱上の注意

1. 逆転での作業はしないでください。
2. 土地条件に応じた作業速度、深さを選んでください。尚、石の多い圃場では、作業しないでください。機械を傷めます。

2. 作業深さの調整

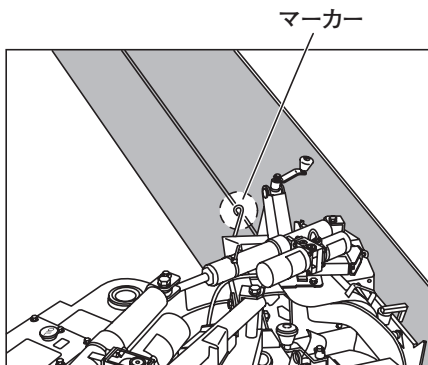
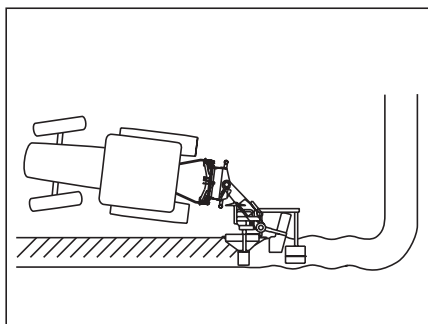
- ①作業深さの調整は、ポジションコントロールレバー及びコールドで行います。なお、耕深は、ラベルの数字を目安にしてください。
- 耕深ラベル (工場出荷時は120です)
- ※ 標準の耕深は100ミリの位置にセットします。



標準耕深100ミリ位置

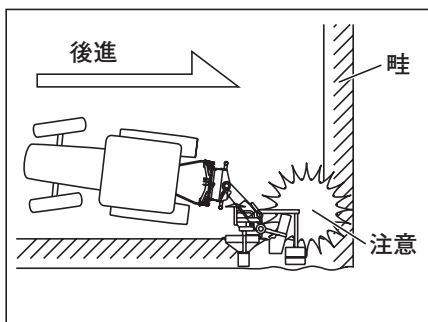
3. 後進 (リバース作業)

- ①後進 (リバース) 作業は前進作業の塗り終わりより約1m手前よりスタートすると段継の少ないきれいなつなぎ目に仕上がります。また、前進作業時にできた溝にタイヤが落ちないようにトラクタを元あぜから少し離れた位置にセットしてください。
- ②チェンケースフレームAが地面に対して水平になるように、ポジションコントロールレバー(トラクタ側)で微調整してください。(コールド、ドラム、トップリンクでの調節は不要です。)
- ③ドラムを元あぜに押し付けるようにハンドルを少し切りながらバック作業を行ってください。より締まったあぜに仕上がります。(この時、マーカーの先端を畦肩が見えるよう位置に調整して後進作業してください。まっすぐ進む目安になります。)



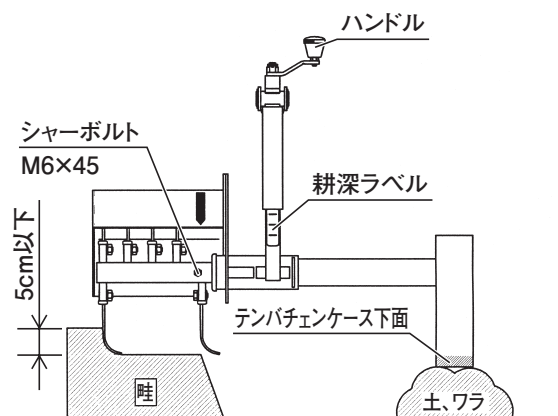
取扱上の注意

後進作業時、角まで行き過ぎないように注意して作業してください。行き過ぎて作業すると機械が壊れる恐れがあります。



4. 天場処理装置の調節 (F 仕様)

あぜの上面を削る時、深さが 5cm 以内になるようにハンドルを調整してください。なお、耕深はラベルの数字を目安にしてください。

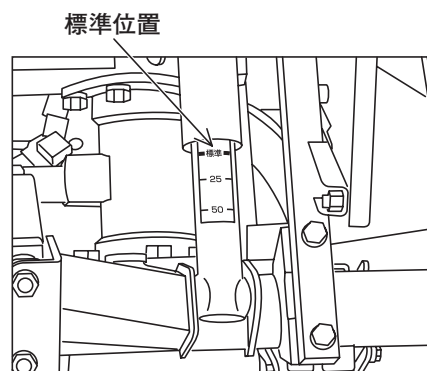
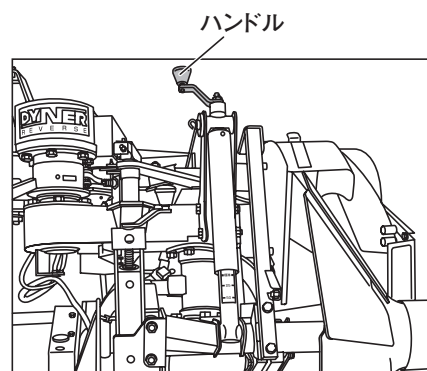
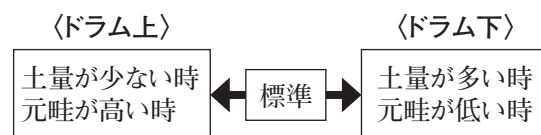


取扱上の注意

1. 畦の上面を削る時、5cm 以上削らないようにハンドルで高さを調整し、石等がある場合は取り除いて作業してください。
2. 畦の上面を削る時、チェーンケース下面が土、ワラ等と接触し押して行く場合は、ハンドルで高さを調整してください。
3. コーウンジク A 及びコーウンジク B のシャーボルトが折れた場合は、直ちにトラクタを止めエンジンを切り、ボルトの交換をしてください。折れたまま作業をしますと、土を押し機械をいためます。

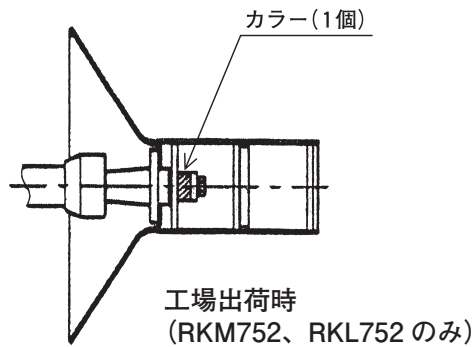
5. ドラム深さの調整

ドラム高さをハンドルで標準位置に合わせてください。尚、畦の土量及び元畦高さによって下図の様に調節してください。

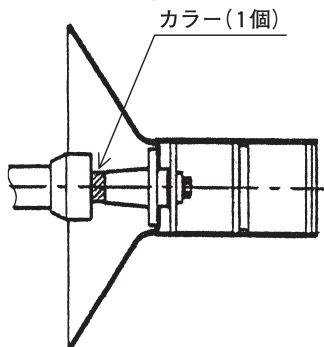


6. ドラム取付幅の調整

①工場出荷時は、下記の位置に取付けています。



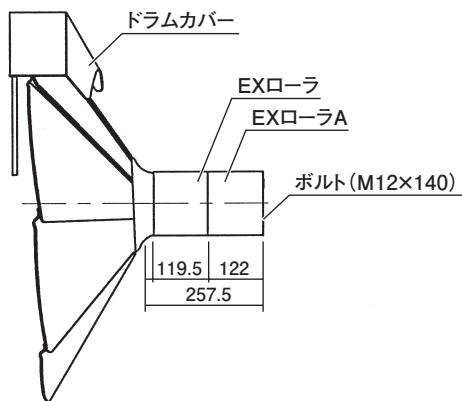
②新畦の厚さを変える場合は、下図の様にカラーを調整します。



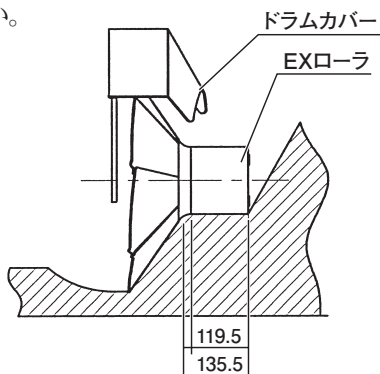
7. EX ローラの調節

アゼの幅に合わせてEXローラの幅が調節できます。

(1) 標準状態は下図のようになっています。



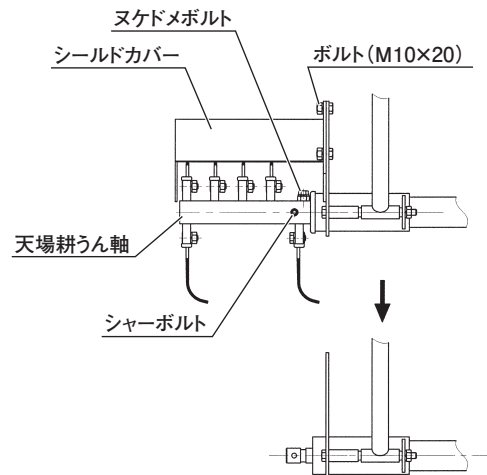
(2) 高畦等で畦上面の幅を狭くしたい場合は、上記 EX ローラ A (ボルト M12×140) を外してください。



(3) RKM752F, RKL752F, RKL852F のみ

畦が高い時は天場処理装置のカバー及び爪軸を外してください。

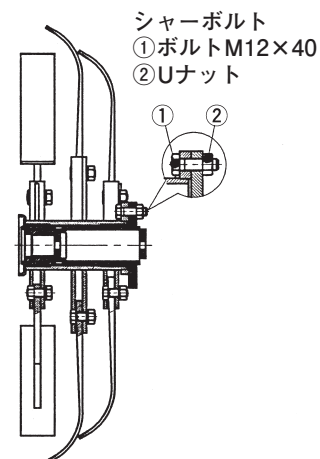
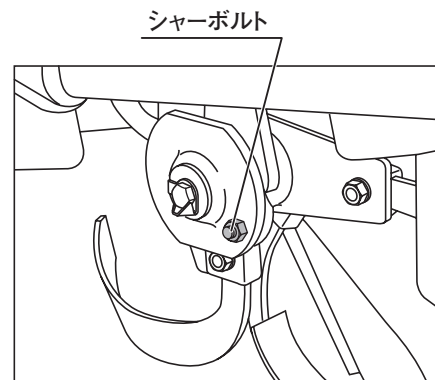
天場処理装置のシールドカバー取付ボルト (M10×20) 3 本を外し、カバーを外します。次に耕うん軸のシャーボルト (M6×45) を外し、ヌケドメボルトを緩め、天場耕うん軸を取り外してください。



8. シャーボルトの交換

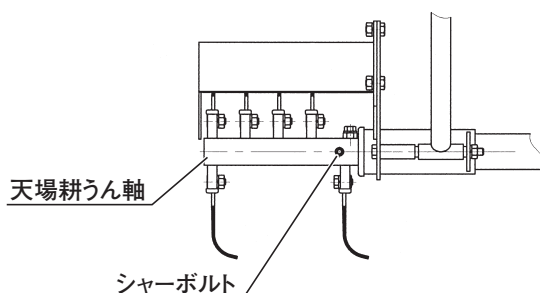
(1) 耕うん軸シャーボルト

耕うん軸にはシャーボルトを取付けています。大きな負荷がかかりシャーボルトが切れた場合は必ず、付属のシャーボルト (M12×40) と交換してください。



(2) 天場処理装置シャーボルト (F 仕様のみ)

天場耕うん軸にシャーボルトを取付けています。大きな負荷がかかりシャーボルトが切れた場合は必ず、付属のシャーボルト (M6 × 45) と交換してください。



型式：RKM、RKL				
場所	規格			コード
耕うん軸	シャーボルトキット RKM、L (ホンタイ)	シャーボルト (ゼンネジ)	M12×40 P1.5 11T	7662992
		U ナット	M12 P1.5	
天場処理装置	シャーボルトキット RKM、L (テンバ)	シャーボルト	M6×45 P1.0 7T	7662993
		U ナット (キャップ付)	M6 P1.0	

※シャーボルトキットには、シャーボルト、U ナットが 10 本組になっています。

取扱上の注意

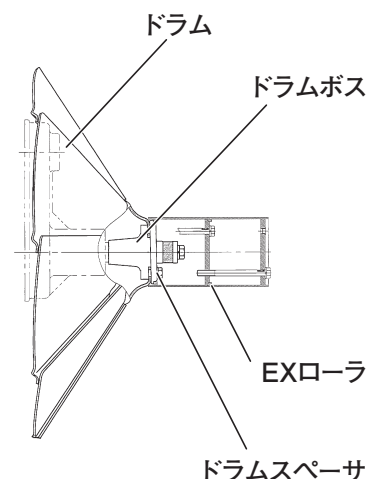
1. 耕うん軸のシャーボルトが折れた場合は直ちにトラクタを止めエンジンを切りシャーボルトの交換をしてください。折れたまま作業をしますと土を押し機械を破損します。
2. シャーボルトは必ずコバシ純正品を使用してください。類似品を使用した場合、機械を破損します。

9. ドラム偏心量の調節方法

⚠ 注意

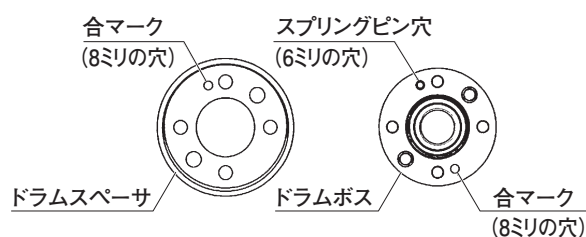
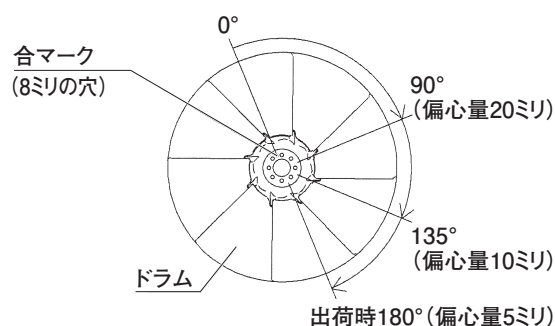
1. 使用しているとドラム先端が鋭利になり、直接触れると手、腕等にケガをする恐れがあります。
2. ドラムに触れる時は丈夫な手袋をし、腕や足に直接触れないよう注意してください。

- ① 成形畦の締め具合を調節する時に偏心量を調整します。(特に車速を上げて作業する場合) 偏心量は、ドラムボスとドラムを取り付ける位置によって変わります。調整は EX ローラ 2 個を取外し、ドラムボスに固定している、スプリングピンを抜きます。

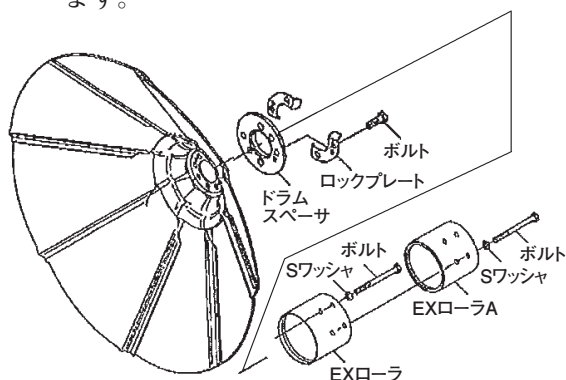


ロックプレートのツバを曲げ、ドラムボス、ドラム、ドラムスペーサを固定しているボルト 4 本を外します。

- ② ドラムの合マーク (8 ミリの穴) をドラムボスの合マーク (8 ミリの穴) に対して 90°、135°、180° の調整したい偏心量に回転させます。



- ③調整後はドラムボス、ドラム、ドラムスペーサ※、ロックプレート[※]を4本のボルトで固定します。その後、ロックプレートのツバを曲げ、ボルト頭を固定し、EX ローラを取付けます。



ドラム部組付手順

※ドラムスペーサは取付け位置があります。ドラムスペーサの合マークとドラムボスのスプリングピン穴（6ミリの穴）の合マークは必ず合わせてから取付けてください。

取扱上の注意

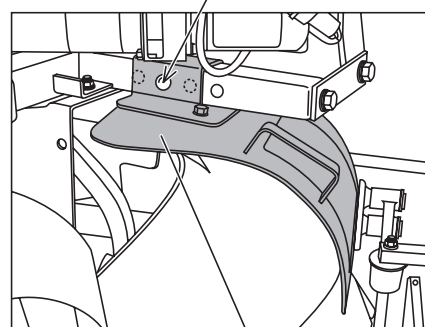
1. 合マーク位置0°（偏芯量40ミリ）、45°（偏芯量30ミリ）は使用しないでください。ガイアマチックに悪影響がでます。
2. ドラムボスに打込むスプリングピンは偏芯量5ミリの時だけ使用します。偏芯量10ミリ、偏芯量20ミリの場合は使用できません。
3. ドラムスペーサの取付け位置が違うとEXローラーが振れて天場がうまく塗れず、破損の原因につながる恐れがあります。

10. スライドカバーの調整

スライドカバーを左右にスライドさせて新畦へ流れる土の量を調整します。

- ① 法面に土量が少ない時は、下図の右方向にスライドさせてください。
- ② 法面に土量が多い時は、下図の左方向にスライドさせてください。

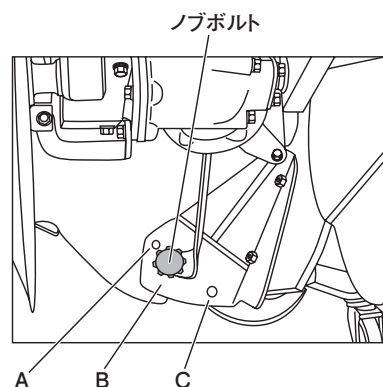
土量が少ないとき ← 標準 → 土量が多いとき



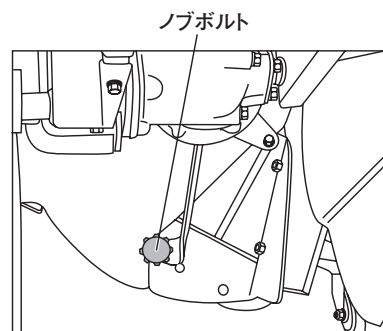
スライドカバー

11. ガイドプレートの調整

工場出荷時は(B)の位置に取付けています。



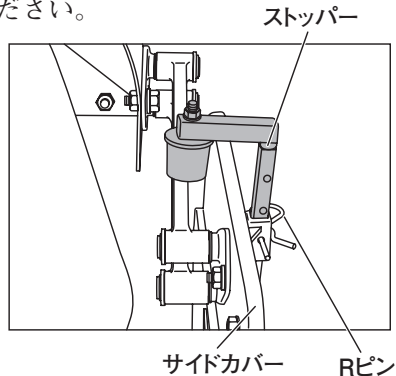
畦の法面への土が不足する場合は、ノブボルトをゆるめて、上図の A 穴位置カバーサポートと共に取付けて下さい。



法面への土が多すぎる場合は、ノブボルトをゆるめて、下図の C 穴位置カバーサポートと共に取付けて下さい。

12. サイドカバーの調整

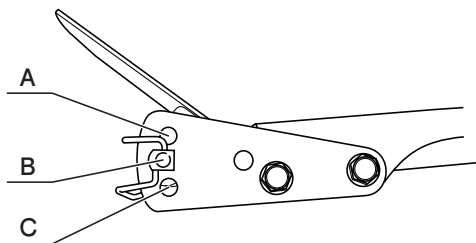
工場出荷時は下から 2 番目の位置に取付けています。サイドカバーが高畦等に接触する場合は、サイドカバーを持ち上げストッパーで調節してください。



13. EX サイドカバーの調整

EX サイドカバーは成形畦ののり面、天場への土量の調整を行う装置です。

- 標準位置は B の位置になります。
- のり面への土量が少ない時、下図の A 位置にしてください。
- 天場への土量が多い時、下図の A 位置にしてください。
- 天場への土量が少ない時、下図の C 位置にしてください。



2 作業の仕方

1. あぜを太くする場合

トラクタをあぜから少し離して、アゼローターと元あぜとの間隔を少し広めにすれば、あぜを太くできます。

2. あぜを細くする場合

トラクタをあぜに近寄せて、アゼローターと元あぜとの間隔を少し狭くすれば、あぜを細くできます。

3. 元あぜが低い場合・畦に土が足りない場合

ドラム及びコールドタを上げて、耕深を通常より深くして作業してください。(土が多すぎる場合、ガイドプレートを開き (C 位置) にして土量を調節してください。)

4. 既耕地であぜを作る場合

極端に水分が少ない場所やトラクタがめり込むような場所でなければ、トラクタ油圧ポジションで作業高さを調節すれば作業できます。なお、アゼローターは、未耕地での作業が標準です。先に耕起する場合は、トラクタ走行幅は残してください。

作業後の手入れ

1. 作業後は、その日の内に水洗いし、土などの汚れを落とした後、水分を十分にふきとってください。
2. 洗車時はリレーボックスやリミットスイッチ及び電動シリンダ等、電装部品に直接高圧水をかけないようにしてください。
3. 各部に注油・給脂 (グリスアップ) してください。

耕うん爪の交換

1 爪の種類と本数

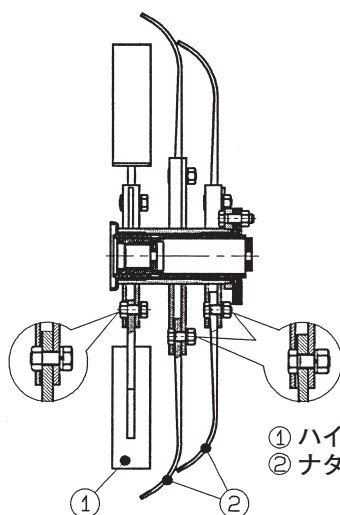
規 格		型 式	RKM752H/F RKL752H/F RKL852H/F
ナタツメ	BR3060RZ	4	
ハイドツメ	AR31	2	
ナタツメ	Y3L	6 (F仕様のみ)	
取付ボルト	M12×30 P1.5 8T	6	
取付ボルト	M10×20 P1.5 8T	6 (F仕様のみ)	

2 耕うん爪の取付方法

- ①のホルダにハイドツメ (AR31) を取付け、ナットを六角穴に入れ、丸穴側よりボルトにバネ座金を入れて締め付けてください。
- ②のホルダにナタツメ (BR3060RZ) を取付け、ボルトを六角穴に入れ、ホルダの右側よりバネ座金とナットを入れて締め付けてください。

⚠ 注意

- 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした所で行ってください。
- トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、油圧ロックを行い、かつ、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。
- ボルト、ナットを緩めたり、締め付ける場合は、19 のメガネレンチが確実に入った状態で作業してください。
- 作業は丈夫な手袋を着用して行ってください。

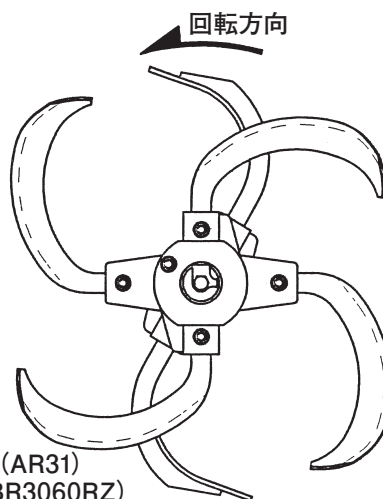
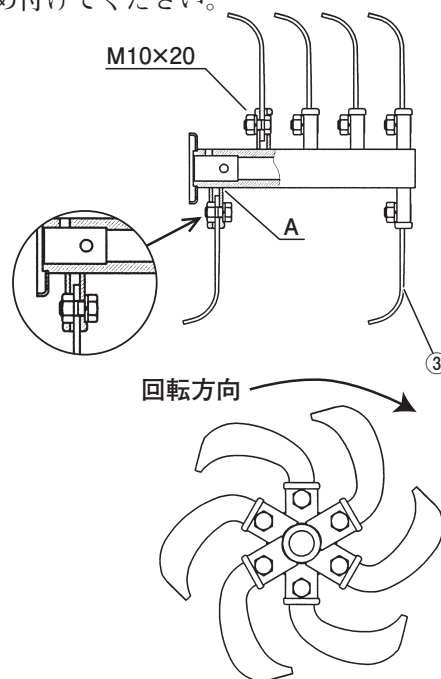


① ハイドツメ (AR31)
② ナタツメ (BR3060RZ)

- ◆ 爪の交換は、一度に全部はずして交換するのではなく、一本ずつはずして同じ形状刻印の爪を取付けていくと、配列の誤りはなくなります。
- ◆ 爪が摩耗してきますと、作業状態が悪くなってきます。早めにコバシ純正爪と交換してください。

3 天場耕うん爪の取付方法 (F仕様)

- ③のホルダにナタツメ (Y3L) を取付け、ボルトを六角穴に入れ、ホルダの左側よりバネ座金とナットを入れて締め付けてください。左端のホルダ A は、ナットを六角穴に入れ、ホルダの右側よりバネ座金とボルトを入れて締め付けてください。



保守・点検

機械を長持ちさせるためには、普段の保守、点検が大切です。

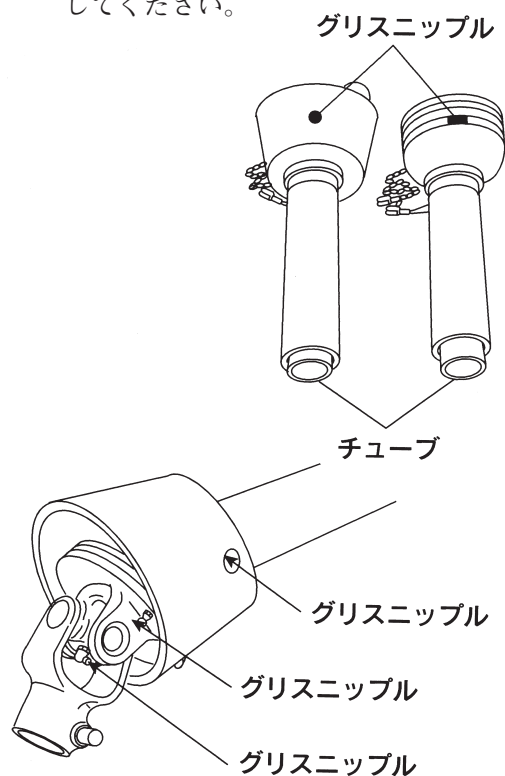
⚠ 注意

トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、油圧ロックを行い、かつ、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。

1. 作業終了後は、きれいに水洗いを行い、水分を拭き取っておいてください。

2. グリスの給油

- ① ジョイントは分解して、チューブのかみ合い部分にグリスを塗布してください。又、同時にグリスニップルの部分にも適量注入してください。

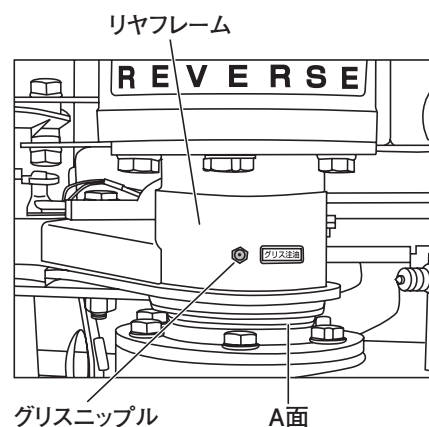


取扱上の注意

特に4セットジョイントの場合は、スプライン部がサビたり、キズついたりしますと、装着ができなくなりますので、必ず掃除を行いグリスを塗布しゴミがかからないようにしてください。

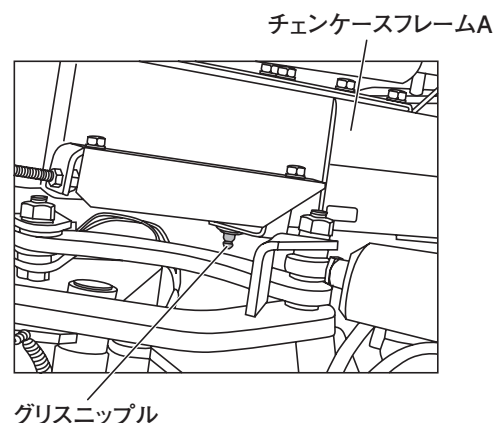
- ② リヤフレームへのグリスアップ

リヤフレームのグリスニップルに下図のA面よりグリスが出てくるまで注入してください。

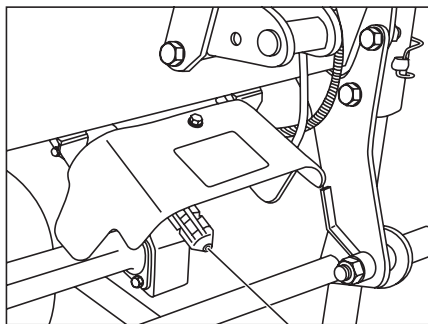


- ③ テンションアーム B へのグリスアップ

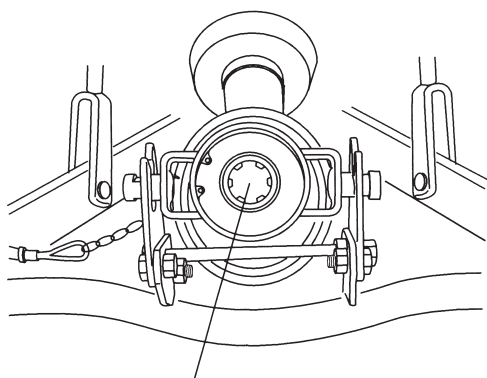
チェーンケースフレーム A 下部にあるテンションアーム B のグリスニップルに適量注入してください。



- ④トラクタのPTO 軸と作業機の入力軸へも
グリスを塗布し、格納する場合はサビない
ようにしてください。



入力軸

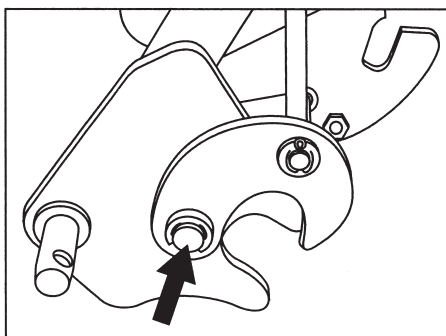


ジョイントスプライン部

⚠ 危険

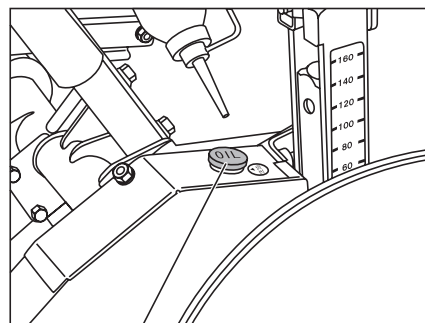
セフティカバーを取外して使用すると、巻き込まれて死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。

- ⑤オートヒッチのフックの支点部分にオイル
を適量塗布してください。



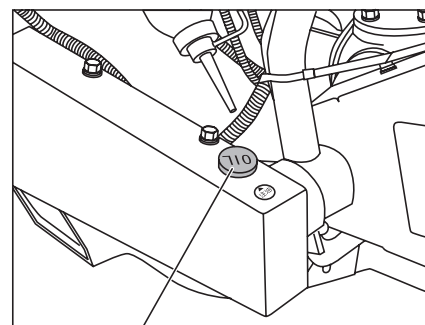
- ⑥ドラムチェンカバー及びテンバチェンカ
バーの注油口より、チェンへ適量のオイル
を注油 (滴下) してください。
(ギヤーオイル # 90)

ドラムチェンカバー



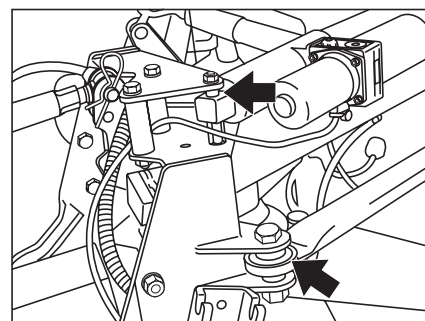
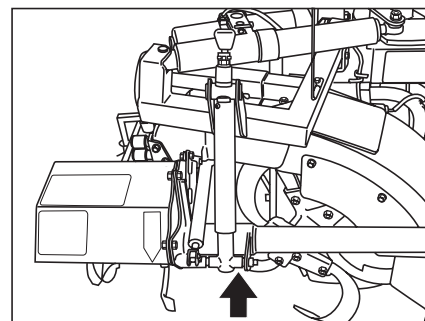
給油口

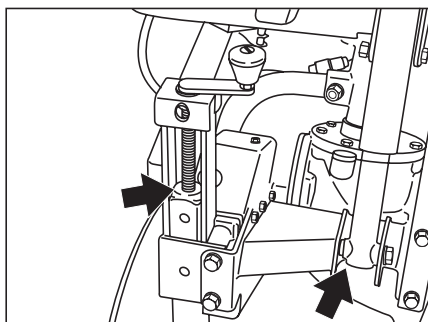
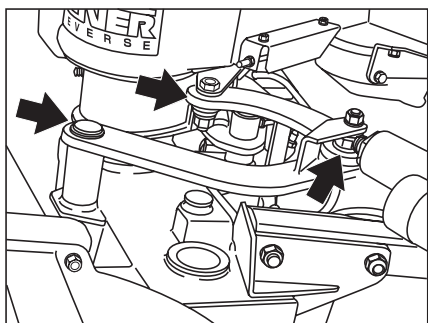
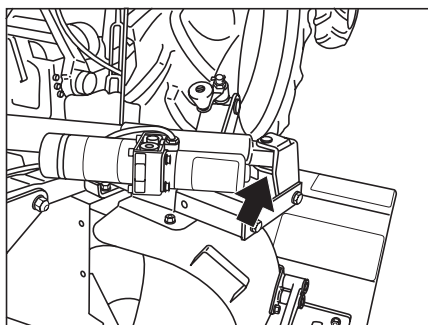
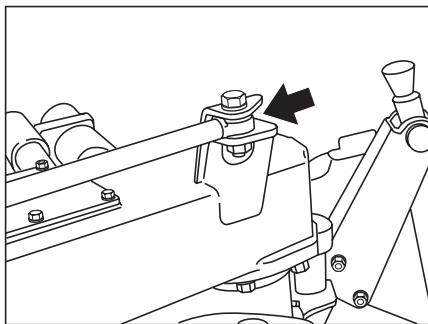
テンバチェンカバー (F仕様のみ)



給油口

- ⑦下図に示す、各支点部に注油してください。





5. 給油と交換

下記の基準で実施してください。

安全に 点検整備するときには、

1. トラクタを平坦な広い場所に置き、
2. エンジンを止め、駐車ブレーキをかけ、
3. トラクタの落下を防止する落下防止調整レバーを回して油圧をロックし、
4. 更に安全性を確認してから行ってください。

RKM752H/F

点検項目	種類	オイル量	点検・交換時期
フロントギヤケースのオイル量点検			毎作業前
リヤギヤケースのオイル量点検			〃
チェーンケースフレーム A のオイル量点検			〃
チェーンケースフレーム B のオイル量点検			〃
フロントギヤケースのオイル交換	# 90	0.7L	初期 50 時間 その後 150 時間
リヤギヤケースのオイル交換	# 90	1.0L	〃
チェーンケースフレーム A のオイル交換	# 90	2.8L	〃
チェーンケースフレーム B のオイル交換	# 90	1.7L	〃

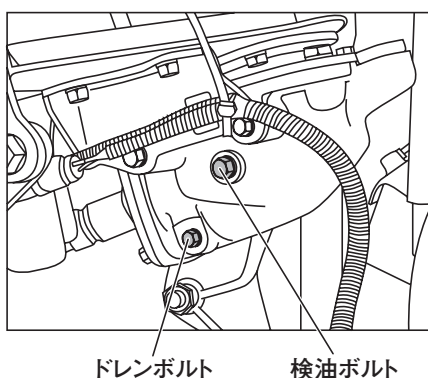
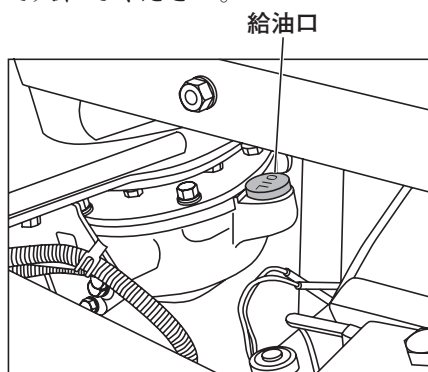
RKL752H/F・RKL852H/F

点検項目	種類	オイル量	点検・交換時期
フロントギヤケースのオイル量点検			毎作業前
リヤギヤケースのオイル量点検			〃
チェーンケースフレーム A のオイル量点検			〃
チェーンケースフレーム B のオイル量点検			〃
フロントギヤケースのオイル交換	# 90	0.7L	初期 50 時間 その後 150 時間
リヤギヤケースのオイル交換	# 90	1.0L	〃
チェーンケースフレーム A のオイル交換	# 90	3.8L	〃
チェーンケースフレーム B のオイル交換	# 90	1.7L	〃

グリースは、日本石油エピノック2番又は同等品（リチウムグリース）を使用してください。

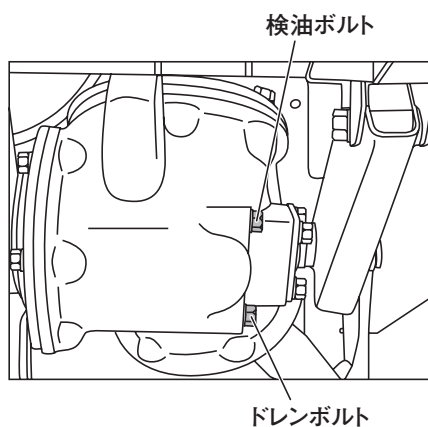
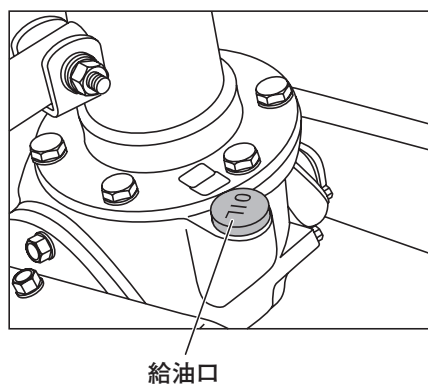
①フロントギヤークースの給油と交換

ドレンボルトを外してオイルを出します。
ギヤードイル 90 番を給油口から規定量まで入れてください。



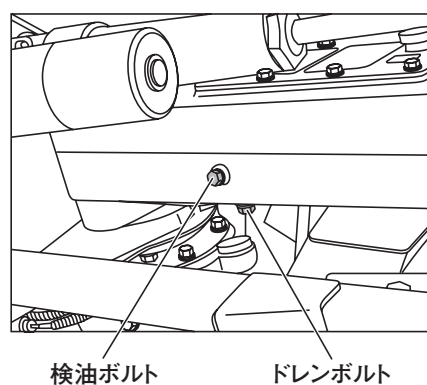
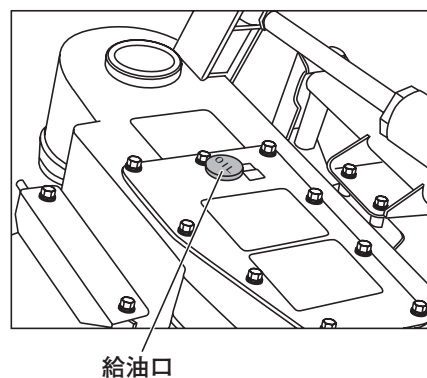
②リヤギヤークースの給油と交換

ドレンボルトを外してオイルを出します。
ギヤードイル 90 番を給油口から規定量まで入れてください。



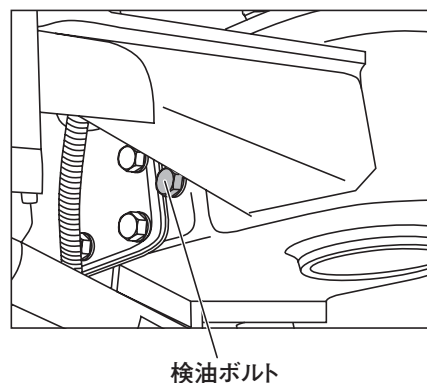
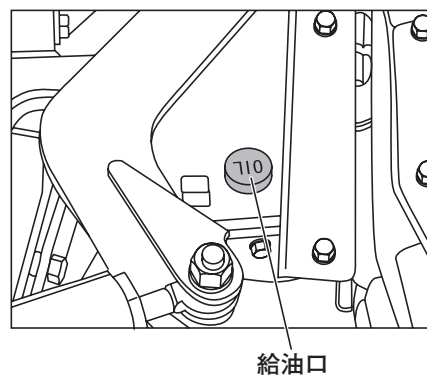
③チェーンケースフレーム A の給油と交換

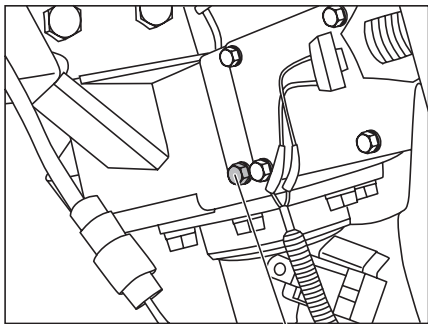
ドレンボルトを外してオイルを出します。
ギヤードイル 90 番を給油口から規定量まで入れてください。



④チェーンケースフレーム B の給油と交換

ドレンボルトを外してオイルを出します。
ギヤードイル 90 番を給油口から規定量まで入れてください。





ドレンボルト

オイル量の点検はアゼローターを水平にして行ってください。

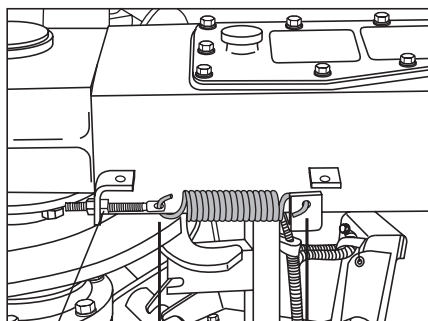
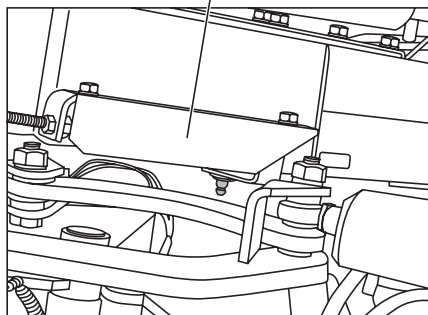
4. オイルシールの組み替え

整備などの目的でチェーンケース等を分解される場合は、必ず新しいオイルシール、ゴム付座金パッキンと交換してください。オイルもれの原因になります。

5. チェンの張り調整 (テンショナボルトの調整)

- ①チェーンケースフレーム A のテンショナカバーを外し、チェンの張りをテンショナボルトでスプリング長さを 125 ミリに調整してください。

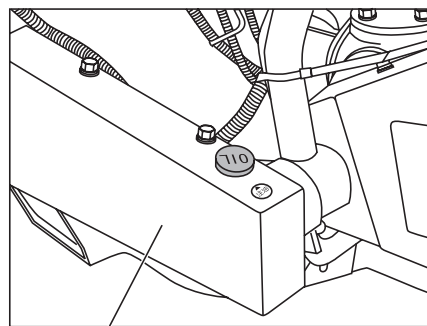
テンションカバーを外す



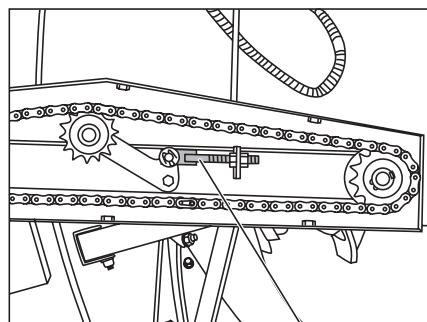
テンションボルト 縮み時90mm

② (F仕様のみ)

テンバカバーを外し、チェンの張りをテンショナボルトで調整してください。



テンバカバーを外す

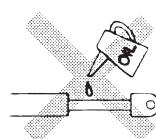


テンションボルト

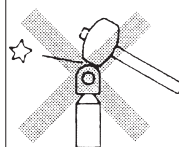
6. ガススプリングの取扱い

※ガススプリングの摺動部には注油しないでください。又、ガススプリングを持つての作業機の移動は絶対にしないでください。破損する恐れがあります。

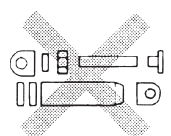
取扱上の注意



ガススプリングは摺動部に注油はいっさい不要です。注油するとシールの耐久性をなくし油漏れの原因となります。



衝撃を加えることは絶対に避けてください。油漏れ、作動不良、破損の原因になります。



分解することは絶対にさけてください。高圧ガスが封入されていますので分解すると非常に危険です。

7. 廃却方法

⚠ 危険

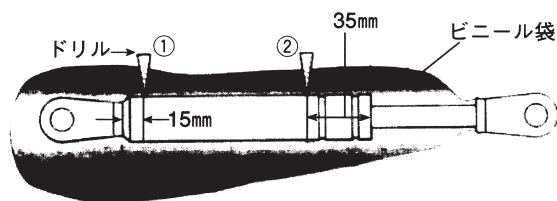
廃却する際は、次の注意を守ってください。
この製品は、窒素ガスが高圧で封入してあるため、ガスを抜かずに処理をすると、爆発により怪我をすることがあります。

【注意事項】

1. 押しつぶさない。
2. 切断しない。
3. 図以外の場所に孔を開けない。
4. 火に入れない。

【廃却の手順】

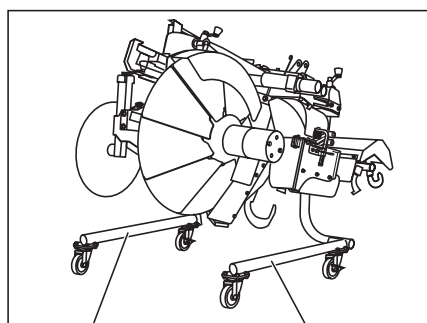
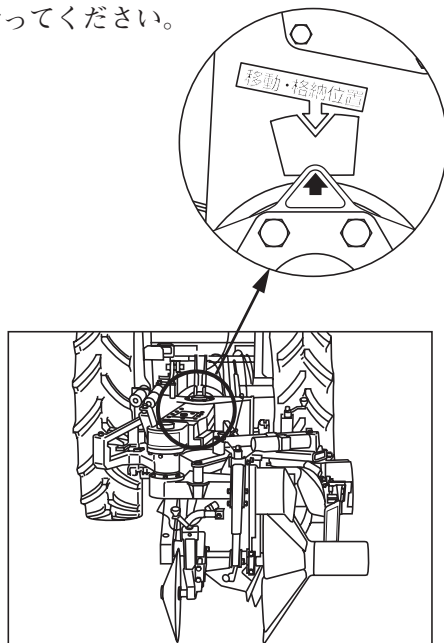
1. ビニール袋をかぶせ、その上から2～3mmのドリルでの①の孔を開け、ガス・油を抜いた後②の孔を開けてください。(必ず①②の順番を守ってください。)
2. ビニール袋を使用しない場合は、油や切粉が飛びますので十分注意してください。(この場合メガネをかけて作業してください。)



- 上図の要領で孔を開けガス抜きをしてから廃却してください。

保管・格納

1. 格納する時は、必ず作業機を下図のように前進作業状態にし、矢印を合わせた位置(→←)にしてキャストスタンドを取り付けてから行ってください。



キャストスタンドL

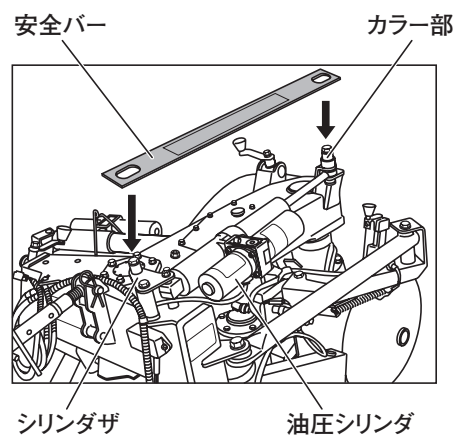
キャストスタンドR

⚠ 注意

スタンドの取付けは、作業機を「格納位置」にした状態で行ってください。トラクタから外した際、作業機が転倒するおそれがあります。

スタンドのL/Rは正しく装着してください。間違っているとバランスを崩し機械が転倒する恐れがあります。

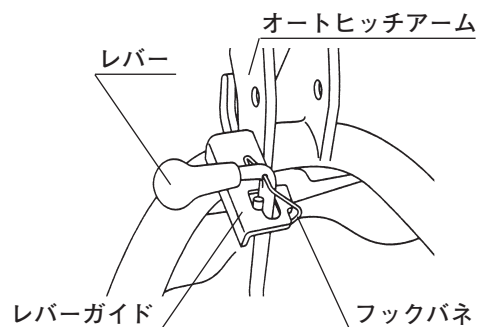
2. 格納時は、必ず付属の安全バーを図のようにシリンダザ(2箇所)のカラー部に取り付けて連結してください。



⚠ 注意

格納時は、安全バーを取付け、平坦な場所に保管してください。

3. 平坦で地盤のしっかりした、屋根のある場所に格納してください。
4. 格納後は、みだりに子供などが触れないような処置をしてください。
5. オートヒッチをアゼローターに取り付けて保管する場合は必ず落下防止のフックバネをレバーガイドに引っ掛けて、オートヒッチの落下防止をしておいてください。(日農工標準3Pヒッチ)



点検整備一覧表

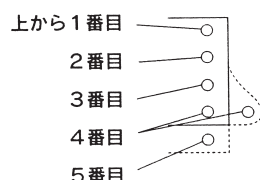
時 間	項 目	参照ページ
新品 使用 始め	①ギヤーケースのオイル量点検	32
	②チェンケースのオイル量点検 (油溜式のチェンケース)	33
	③油溜式でない駆動チェンの注油点検	34
新品 1 時間使用後	①全部のボルト、ナットを増し締め	32
	②チェンの張りを調整 (テンションボルト調整)	51
新品 50 時間使用後	①ギヤーケースのオイル交換	49 ～ 50
	②チェンケースのオイル交換	49 ～ 51
	③チェンの張りの調整	51
毎 日 の 作 業 前	①ギヤーケースのオイル量、オイル漏れの点検	32
	②チェンケースのオイル量 (油溜式のチェンケース)、オイル漏れの点検	33
	③油溜式でない駆動チェンの注油	34
	④耕うん爪の取付ボルトの増し締め	32
	⑤ジョイントのグリスニップルへのグリス注入	32
	⑥地面から上げて空転での、異音、異常振動等、異常点検	34
毎 日 の 作 業 後	①洗浄後、水分拭き取り	45
	②ボルト、ナット、ピン類の緩み脱落の確認	32
	③耕うん爪・爪ホルダ等の摩耗、折損の点検	46
	④入力軸へのグリス塗布	48
	⑤ジョイントスプライン部へのグリス塗布	47
	⑥ジョイントノックピンへの注油	34
	⑦電動シリンダ等のシリンダ部 (銀色部) 汚れ除去	31・45
	⑧可動部 (支点部含む) への注油及び、グリス塗布	47 ～ 49
150 時間 毎 又は シーズン 終了後	①ギヤーケースのオイル交換とオイルシール異常点検	49 ～ 51
	②チェンケースのオイル交換と、パッキンの異常点検	49 ～ 51
	③旋回支点部、チェンケース下部グリスニップルへのグリス注油	47 ～ 49
	④ジョイントのシャフトへのグリス塗布	47
	⑤電動シリンダ等シリンダ部 (銀色部) へのサビ止め	31・45
	⑥無塗装部へのサビ止め	45
	⑦安全ラベルの剥がれの点検	5 ～ 7
	⑧消耗部品の早期交換	69
シ ー ズ ン 始 め	①チェンの張り調整	51
	②可動部 (支点含む) への注油及び、グリス塗布	47 ～ 49

トラクタ別装着表

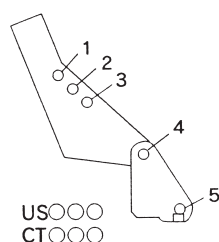
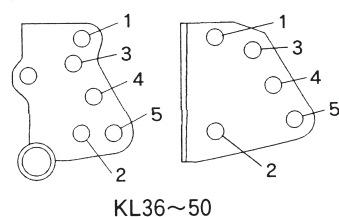
この表はあくまでマッチング表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内でご使用ください。

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク 取付穴	ロアーリンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ(mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
GL261K・281K GL260K・280K GL-25K	3	イ	へ	620	C	G	50	50	
GL261・277・281 GL301E・321E GL260・268・280 GL300ES・320ES GL-L27 GL-25・26・27	3	イ	へ	690	A	G			
GL261C・281C GL261Q・277Q GL260Q・268Q GL-L27Q GL-25Q・26Q・27Q	2	イ	へ	650	C	G			
GL281J・280J GL301・321・337 GL300・320・338 GL-27J, GL-L33 GL-29・32・33	3	イ	ホ	750	A	G			

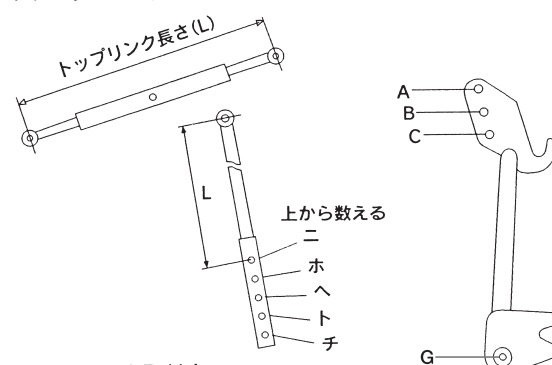
トップリンク取付穴



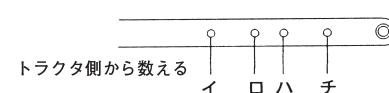
ドラフト仕様



トップリンク・リフトロッド調整

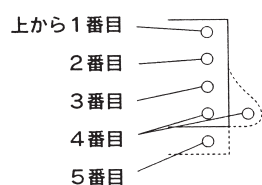


ロアーリンク取付穴



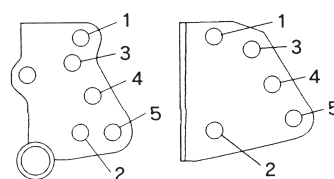
トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ローア リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
GL281Q・301Q・321Q GL337Q・338Q GL280Q・300Q・320Q GL281 J Q・280 J Q GL301C・321 C GL-27JQ・GL-L33Q GL-29Q・32Q・33Q	3	イ	ホ	740	C	G			
GL367・417・467 GL367E・417E・467E L46 GL368・418 GL368ES・418ES	3	イ	ホ	760	A	G			
GL367Q・417Q・467Q GL367EQ・417EQ・467EQ L46Q GL368Q・418Q GL368ESQ・418ESQ	3	イ	ホ	750	C	G			
GL350(Q)・400(Q)・430(Q) GL-35(Q)・40(Q)・43(Q)	3	イ	ホ	660	A	G			
GL470(Q)～600(Q) GL-46(Q)・53(Q)	3	イ	ホ	670	A	G			
L1-255(Q)	3	イ	ヘ	680	A	G			
L1-275J(Q)	3	イ	ホ	750	A	G			
L1-275(Q) L1-265,L1-26	3	イ	ヘ	740	A	G			
L1-295(Q)・315(Q)・325(Q) L1-285,L1-28	3	イ	ニ	750	A	G			
L1-325(Q) ドラフト	4	イ	ニ	710	A	G			
L1-345(Q)・385(Q)・435(Q) L1-33・38・43	3	イ	ホ	660	A	G			

トップリンク取付穴

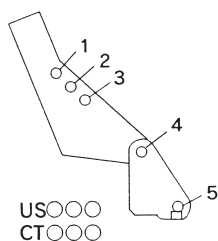


ドラフト仕様

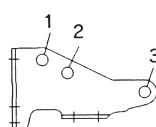
ドラフトなし仕様



KL36～50

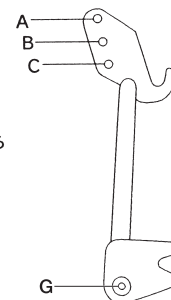
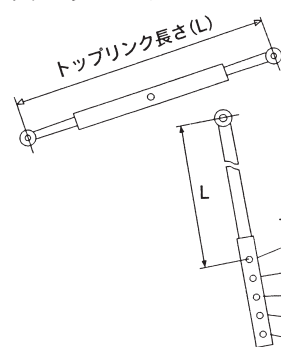


US○○○
CT○○○

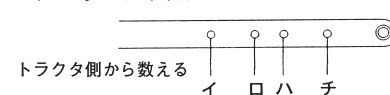


Bb260

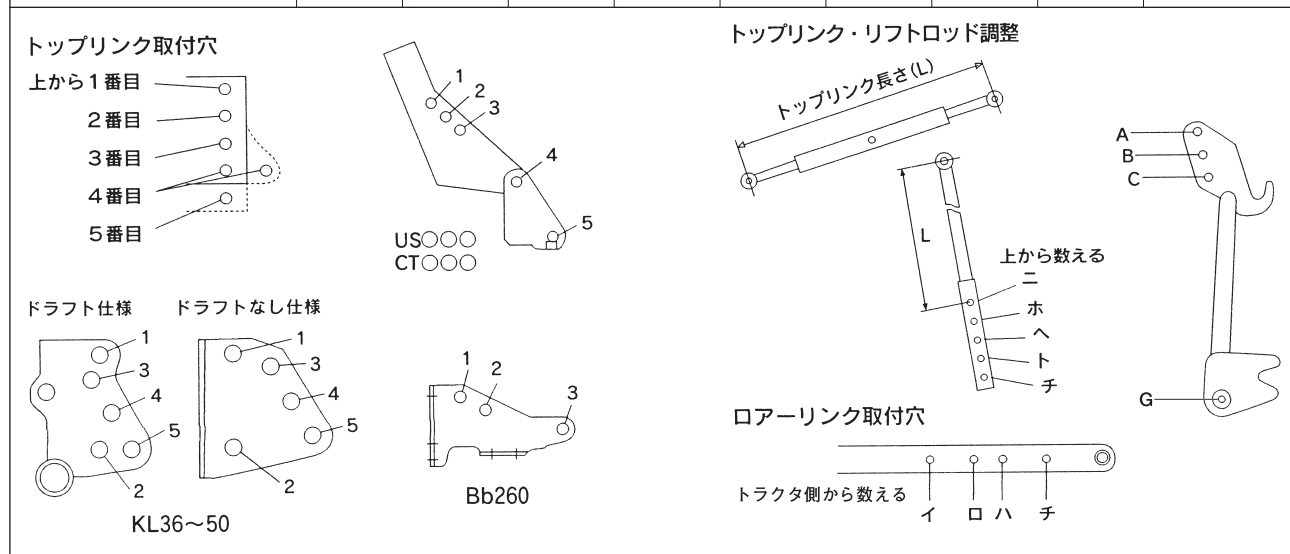
トップリンク・リフトロッド調整



ローアリンク取付穴

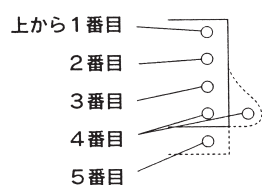


トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切寸法 (mm)		備 考
	トップリンク 取付穴	ローア リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
US535・540・545・550	5	イ	へ	530	A	G	30	30	
US535A・540A US545A・550A JD1320・1420	5	イ	へ	530	A	G	30	30	青森仕様 ジョンデア仕様
AF250(J)(R)	3	イ	ホ	600	C	G			
AF250(J)(R)Q	1	イ	ホ	570	C	G			ジョイント異音 時PTO切
AF270(J)(R)(Q) 290(J)(R)(Q) AF26(Q)・28(J)(Q)	3	イ	ホ	700	A	G			
AF310(J)(R)(Q) 330(J)(R)(Q) AF350(J)(R)(Q) AF400(R)(Q)	4	イ	ホ	690	A	G			
AF30(Q)・33(Q)	3	イ	ホ	730	A	G	TC84M に交換	TC80 に交換	
AF33J(Q)・35J(Q)	3	イ	ホ	730	A	G			
AF30(J)(Q)R・33(J)(Q)R AF35(J)(Q)R	4	イ	ホ	710	A	G			
RS27(Q) RS30(Q)・33(Q) RS270(Q) RS300(Q)・330(Q)	2	イ	ホ	570	A	G			

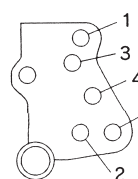


トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ローア リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
F(X)255	3	イ	ホ	640	C	G			
FX265M	3	ロ	へ	680	A	G			
F(X)265,FX30S	3	ロ	ホ	680	A	G			
FX285,FX26	3	イ	ホ	570	A	G			
FX305・335・435 FX28・32・42	3	イ	ホ	560	A	G			
AF645～660	4	イ	へ	540	A	G	30	30	トップリンク ブラケットなし
F395・475・535・605	4	イ	へ	630	A	G			
F395Q・475Q F37・46	4	イ	へ	630	A	G			
US31(Q)・35(Q)	3	イ	ホ	570	A	G	70	70	
US39(Q)・45(Q)	3	ロ	ニ	600	B	G	50	50	
CT450・550・600	5	ロ	へ	560	A	G			トップリンク ブラケット付
CT280・340	4	イ	へ	550	A	G			
CT45・55	4	イ	ホ	550	A	G			
US32(R)(Q)・36(R)(Q)	3	ロ	ホ	600	A	G	50	50	
US40(R)(Q)・46(R)(Q) US50(R)	3	ロ	ホ	600	B	G	50	50	
AF328M・330M AF270M・310M AF26ML・30ML	3	イ	ホ	600	C	G			高床時の装着
AF26MH	3	イ	ホ	700	A	G			
FV250(Q)・270(Q)	2	イ	ホ	550	A	G	50	50	

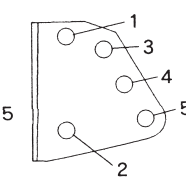
トップリンク取付穴



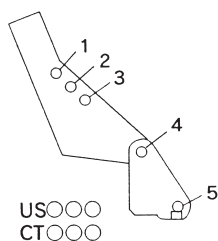
ドラフト仕様



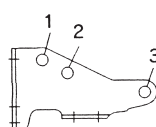
ドラフトなし仕様



KL36～50

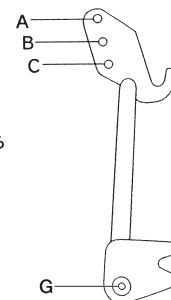
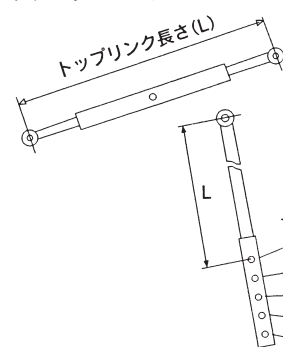


US○○○
CT○○○

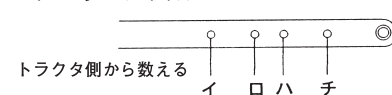


Bb260

トップリンク・リフトロッド調整



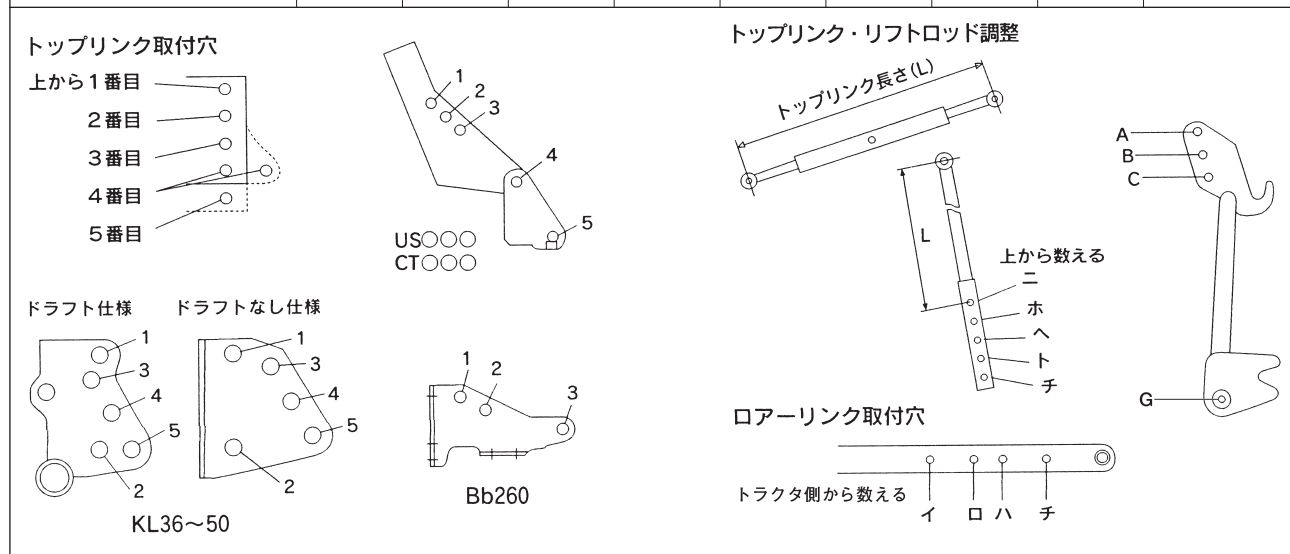
ローアリンク取付穴



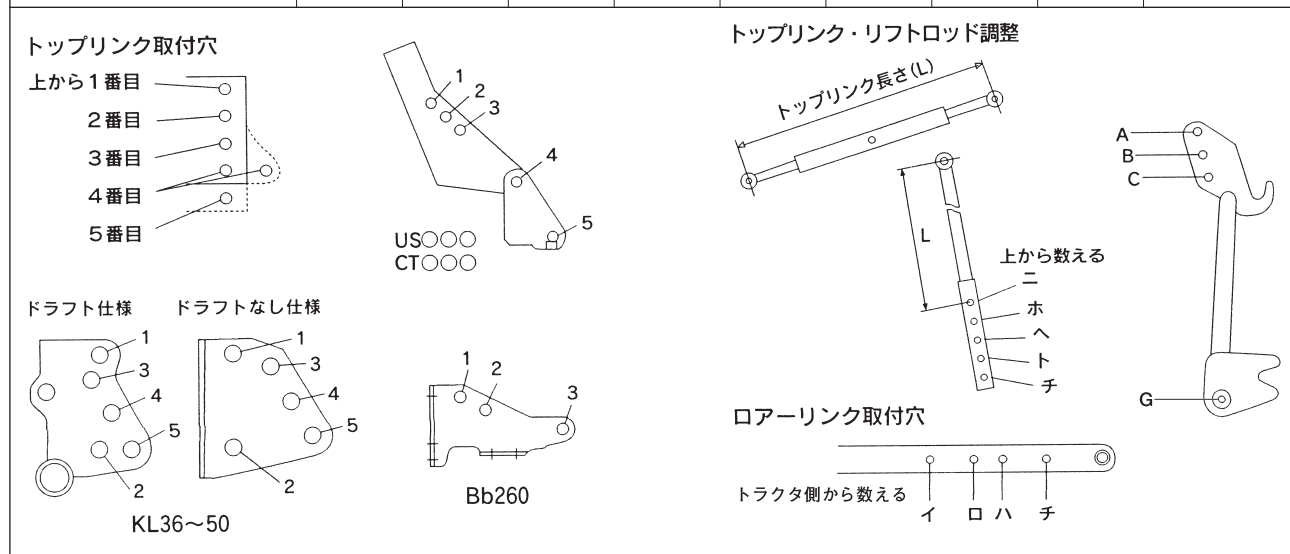
トラクタ側から数える

イ ロ ハ チ

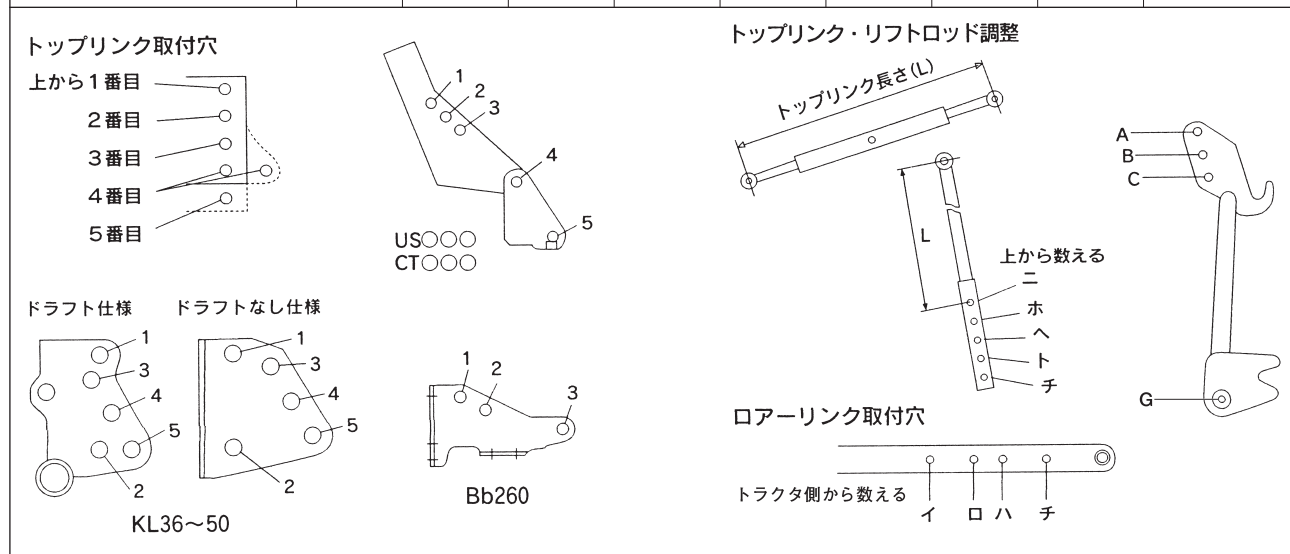
トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備 考
	トップリンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
FV280(Q)・310(Q)	2	イ	ホ	620	A	G			
FV330(Q)・430(Q)	2	イ	へ	620	A	G			
F375	2	イ	へ	620	A	G			
F435	2	イ	へ	620	A	G			
AF322・324・326	3	イ	へ	600	C	G			
AF328・330	3	イ	へ	700	A	G			
AF333・336・339・342	4	イ	へ	690	A	G			
US324・328 US330・334 US261・301・361	2	イ	ホ	560	A	G	50	50	
AF324M・328M・330M AF270M・310M AF26 ML・30 ML	3	イ	ホ	640	C	G			低床時の装着
EF326・328	3	イ	へ	690	A	G			
EF330～342	4	イ	へ	650	A	G			
AF645A～660A	4	イ	へ	580	A	G			
US401・451・501 US551・601	4	イ	へ	560	A	G			



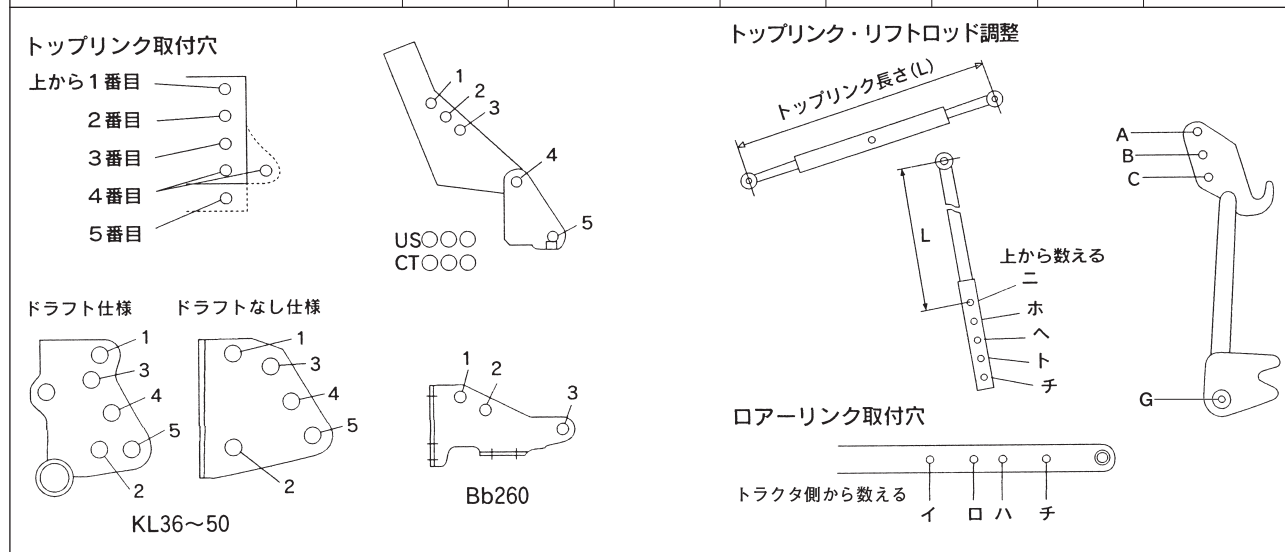
トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ローア リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
TK46-FC	3	イ	ホ	550	A	G			
TG253-A・273-A TG25-A	2	ロ	ホ	540	A	G			
TK25・29・33	2	イ	ホ	540	A	G	60	60	
TG25(Q) TG253,TG273(Q) TGS25	3	イ	ニ	600	A	G			
TG253Q TGS25Q	3	イ	ホ	600	A	G			
TG27(Q)・29(Q)・31(Q)・ 33(Q) TG27L・31L、TG29H(Q) TG293(Q)・313(Q)・333(Q) TGS29(Q)・33(Q)	3	イ	ニ	600	A	G			
TG37(Q)～53(Q) TG413(Q)～553(Q) TGS37(Q)～55(Q)	3	イ	ホ L=490	600 (580)	A	G			トップリンク長の 580 はドラフ ト仕様を示す
TA267(Q)・287(Q)・317(Q) TA255(Q)・275(Q) TA262(Q)・312(Q)・263(Q) TA250	2	イ	ホ	560	A	G	50	50	



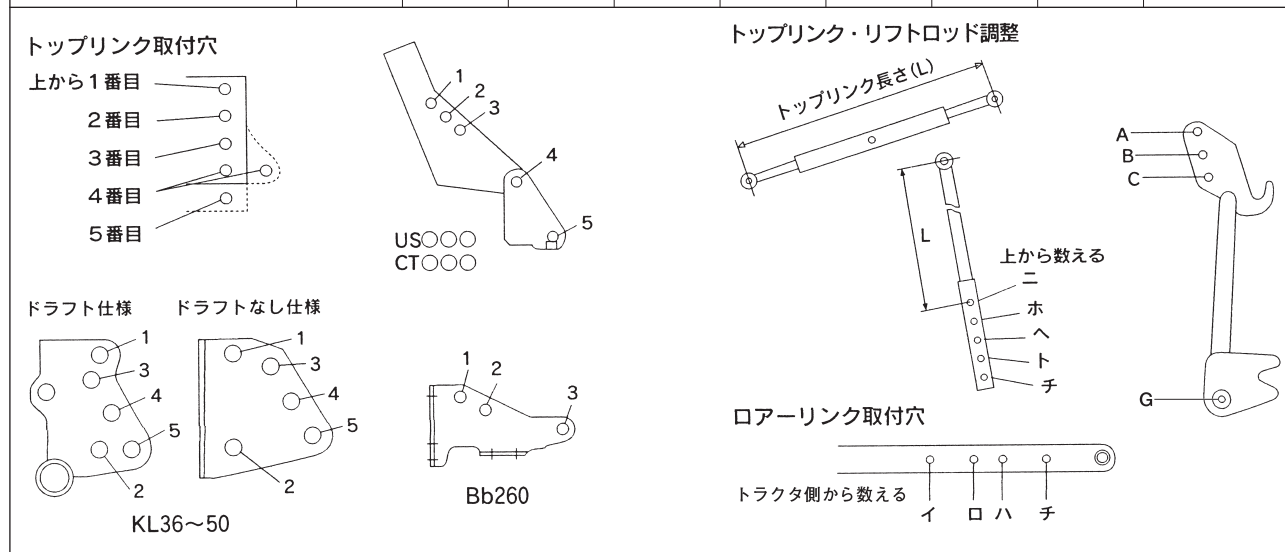
トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切寸法 (mm)		備 考
	トップリンク 取付穴	ローア リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
TA337(Q)・357(Q)・417(Q) TA437(Q) TA295(Q)・325(Q)・345(Q) TA375(Q)・435(Q) TA290・320・340・370 TG353・373 TK37・41・46, TGS37	3	イ	ホ	550 (540)	A	G			トップリンク長の 540 はドラフ ト仕様を示す
TA467(Q) TA415(Q)・455(Q)・505(Q) TA410・450	3	イ	ニ L=510	590 (570)	A	G			トップリンク長の 570 はドラフ ト仕様を示す
TR45・55 (メカ)	4	イ	ニ	630	A	G			
TR45・55 (マイコン)	2	イ	ニ	680	A	G			ジョイント異音 時 PTO 切
TGS46C	3	イ	ニ L=490	580	A	G			
AT25	3	イ	ホ	550	A	G			
AT27・30・33	3	イ	ホ	580	A	G			
AT37・41・46・50	3	イ	ニ	660	A	G			



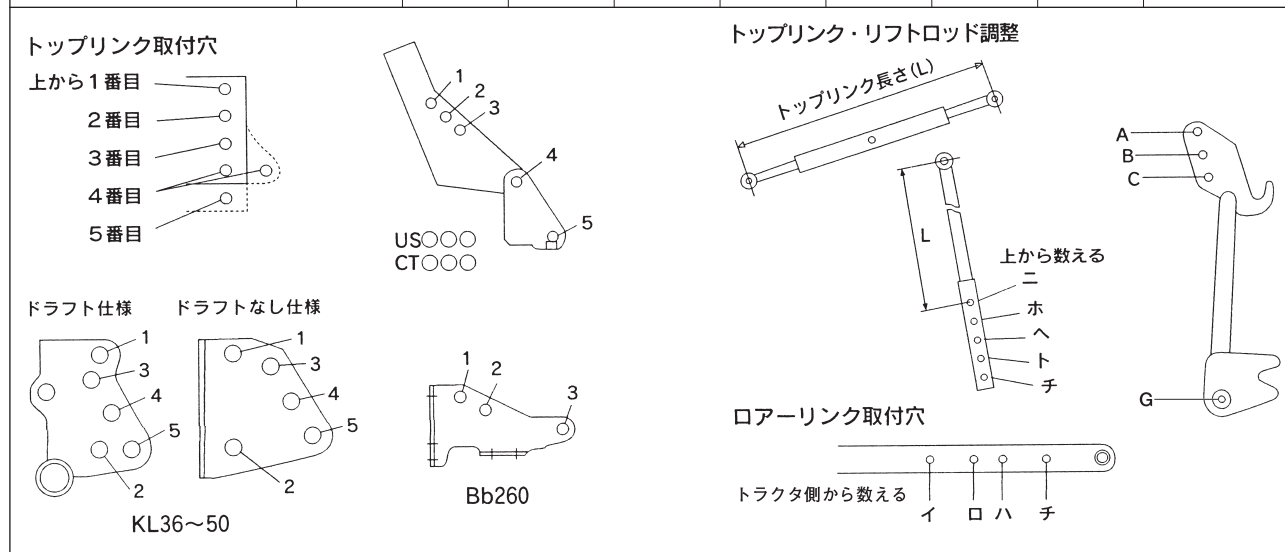
トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ローア リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
MT266 MT286・306・336 MT265	3	イ	ホ L=491	630	A	G			
MT266Q MT286Q・306Q・336Q MT265Q	1	イ	ホ L=491	590	A	G			
MT265L MT285・305	3	イ	ホ L=491	670	A	G			
MT265LQ MT285Q・305Q	1	イ	ホ L=491	640	A	G			
MT335(Q)・365(Q) MT337(Q)・367(Q)	4	ロ	ニ L=477	550	A	G			
MT338・368 GX34・37	4	ロ	ニ	540	A	G			
MT408・468・508 GX40・46・50	4	イ	ニ	540	A	G			
MT501・551・601	4	イ	へ	540	A	G	30	30	
MT251・271 MT291・311・331 GO26・28・30・32・34	3	イ	ホ	690	A	G		TC74に 交換	



トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ローア リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
MT27・30	4	イ	ホ L=480	560	A	G			
MT33	4	ロ	ニ L=477	550	A	G			
MT400(Q)・460(Q)	3	ロ	ホ	600	B	G	50	50	
GOZ26～32	3	イ	ホ	690	A	G			
GV49・56	5	イ	ニ	620	A	G			
D258(Q)・278(Q)	2	イ	ホ	550	A	G	50	50	
D288(Q)・318(Q)	2	イ	ホ	620	A	G			
D338(Q)・438(Q) S440A 新	2	イ	へ	620	A	G			
S325A	2	イ	ホ	560	A	G	50	50	
S330A D265(Q)・275(Q) D295(Q) D26・28	2	イ	ホ	610	A	G			
S440A D335(Q)・435(Q) D32・34・43	2	イ	ホ	620	A	G			

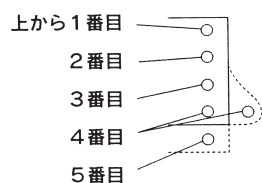


トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ローア リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
N279	3	イ	ホ	510	C	G			
N329・359	3	イ	ホ	500	C	G			
NX261・277・281 NX25・27 NX301Z・321Z	3	イ	へ	690	A	G			
NX261Q・277Q・260Q NZ25Q・27Q	2	イ	へ	650	C	G			
NX301・321・337 NX300・320・338 NX29・32	3	イ	ホ	750	A	G			
NX281Q・301Q・321Q NX337Q・338Q NX280Q・300Q・320Q NX29Q・32Q	3	イ	ホ	740	C	G			
NX367(Z)・417(Z)・467(Z) NX368(Z)・418	3	イ	ホ	760	A	G			
NX367(Z)Q・417(Z)Q NX467(Z)Q NX368Q・418Q	3	イ	ホ	750	C	G			



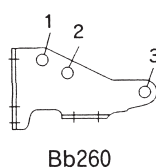
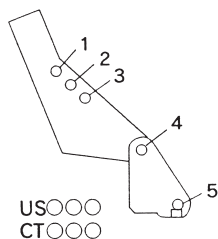
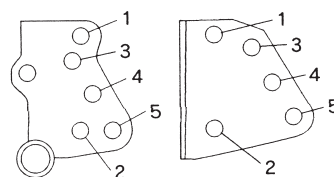
トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント 切断寸法 (mm)		備 考
	トップ リンク 取付穴	ロアー リンク 取付穴	リフト ロッド 取付穴	トップ リンク 長さ (mm)	トップ リンク 取付穴	ヒッチ ピン 取付穴	4S	3S	
							TC71M	TC69	
NX350(Q)・400(Q)・430(Q) NX35(Q)・40(Q)・43(Q)	3	イ	ホ	660	A	G			
NX470(Q)～600(Q) NX46(Q)・53(Q)	3	イ	ホ	670	A	G			
NTX36・43	5	イ	へ	710	A	G		TC74に 交換	
NTX38・41	5	イ	へ	680	A	G			
NTX25	4	イ	へ	610	A	G			
NTX27・28, NTX250 NTX28rops	4	イ	へ	630	A	G			
NTX270～340・NTX28Q NTX30・31・33・34	4	イ	へ	690	A	G			
NTX25Q	1	ロ	へ	620	A	G			
GX490・560	5	イ	ニ	620	A	G			
TX261・281 TX260・280	3	イ	へ	690	A	G			
TX260Q・261Q	2	イ	へ	650	C	G			
TX301・321 TX300・320	3	イ	ホ	750	A	G			
TX281Q・301Q・321Q TX280Q・300Q・320Q	3	イ	ホ	740	C	G			

トップリンク取付穴

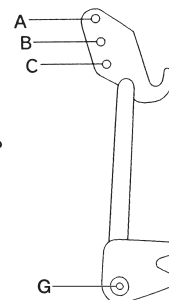
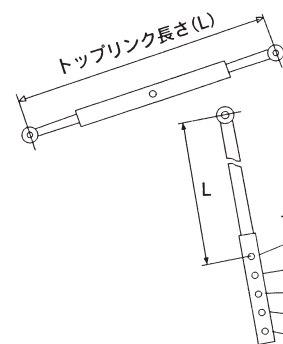


ドラフト仕様

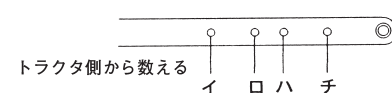
ドラフトなし仕様



トップリンク・リフトロッド調整



ロアーリンク取付穴



異常診断一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合、そのままにしておきますと故障、事故の原因となります。再使用せず、直ちに対策を行ってください。

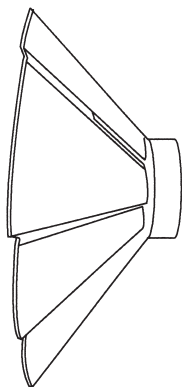
特に 部の対応については、触れずに必ず購入された販売店に相談して対策を行ってください。

本体各部	症 状	原 因	対 策
ギヤー ケース	異 音 の 発 生	ベアリングの損傷	ベアリング交換
		ギヤーの損傷	ギヤー交換
		ベベルギヤーのかみ合い不良	シムで調節
	オ イ ル 漏 れ	オイルシール、O リングの劣化、損傷	オイルシール、O リング交換
		ケース取付ボルトのゆるみ	ボルト増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
チェン ケース	異 音 の 発 生	チェンの緩みによるカバーとの干渉	テンショナ調節
		チェンテンショナの破損	テンショナ交換
		スプロケットの損傷	スプロケット交換
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
	オ イ ル 漏 れ	オイルシール、O リング、パッキンの劣化、損傷	オイルシール、O リング、パッキンの交換
		ケース取付ボルトのゆるみ	ボルト増し締め
		フタ取付ボルトのゆるみ	ボルト増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
耕うん軸	異 音 の 発 生	軸受け部のベアリングの損傷	ベアリング交換
		耕うん爪取り付けボルトのゆるみ	ボルト増し締め
		耕うん爪の変形によるカバーとの干渉	耕うん爪交換
	振 動 の 発 生	耕うん爪軸の曲がり	耕うん爪軸交換
		耕うん爪、爪軸へのワラ、草等のかかり	ワラ、草等の除去
		耕うん爪の配列不良	爪配列の点検
	軸 回 転 不 良	ギヤーの損傷	ギヤーの交換
		チェンの折損	チェンの交換
		駆動軸の折損	駆動軸交換
	土のたまりすぎ	耕深が深い	耕深を浅く
ドラム	振 動 の 発 生	爪の耕深よりドラムが下がりすぎ	ドラムを上げる
	回 転 不 良	ドラム取付ボルトのゆるみ	ボルト増し締め
		チェンの折損	チェン交換
		駆動軸の折損	駆動軸交換

フレーム	振 動 の 発 生	カバー取付ボルトのゆるみ	ボルト増し締め
	オフセット・旋回 作 動 不 良	リミットスイッチ故障	リミットスイッチの交換
		ハーネスの断線又は結合部、端子外れ	ハーネス又は端子・コネクタの交換
		電動シリンダのエア噛み又は故障	電動シリンダのエア抜き又は交換
		マルチコントローラの故障	マルチコントローラの交換
		バッテリーの消耗	バッテリーの充電又は交換
ジョイント	異 音 の 発 生	グリス切れ	グリス注入
		ジョイント折れ角が不適格	マッチング姿勢の矯正
		作業機の上げすぎ	リフト量の規制
	た わ み 発 生	シャフトのかみ合い幅不足	長いものと交換
	スプライン部のガタ	ノックピンとヨークの摩耗	交換

消 耗 部 品

1. ドラム



2. ナタ爪



3. ハイド爪



4. コーウンジク A 用シャーボルト

M12×40 コード 7662473

Uナット コード 9290023

5. テンバコーウンジク用シャーボルト

M6×45 コード 7662554

Uナット コード 9290002

※シャーボルトは必ずコバシ純正品を使用してください。

主 要 諸 元

型 式		RKM752HT-0S RKM752FT-0S	RKM752HT-3S RKM752FT-3S	RKM752HT-4S RKM752FT-4S	RKM752HT-1S RKM752FT-1S
駆 動 方 式		チ ェ ン 駆 動			
寸 法	全 長 (mm)	1630	1800	1800	1800
	全 幅 (mm)	1290	1290	1290	1290
	全 高 (mm)	1350	1350	1350	1350
質 量	総 質 量 (kg)	333 (362)	366 (395)	368 (397)	353 (382)
	ス タ ン ド (kg)	28	28	28	28
使 用 ジ ョ イ ン ト			TC69	TC71M	TC69
適応トラクタ KW (PS)		18.4 ～ 36.8 (25 ～ 50) 注)トラクタはタイヤ外幅 1500mm 以下に限る			
装 着 装 置 の 種 類		日 農 工 標 準 3 P			標 準 3 P 直 装
		0S	3S	4S	1S
最大タイヤ外幅 (mm)		1500			
畦 高 さ (cm)		20 ～ 30			
標 準 耕 深 (cm)		5 ～ 15			
標 準 作 業 速 度 (km/h)		0.4 ～ 1.0			
作 業 能 率 (分/100m)		6 ～ 15			
入力軸回転速度 (rpm)		390 ～ 430 (PTO1 速エンジン回転速度 1800 ～ 2000)			
ド ラ ム 外 径 (cm)		75 (ドラム形状：8 面段付ドラム)			
天 場 処 理 装 置		F 仕様のみ標準装備			
オ フ セ ッ ト 方 法		電動式オフセット平行リンク無段階調節機構			
旋 回 方 法		電動式旋回機構			
オ プ シ ョ ン		ナカアゼ キット	中畦用 (EX ドラムφ 500) 天場幅=150mm、畦高さは180～230mm	ローラ キット A	ローラ幅延長用 (ローラ幅 55mm)
		ホジョドラム キット A	右畦肩整形用ドラム(両畦用) EX ドラム φ 160	ローラ キット BA	コーナー付低畦対応用 (ローラ径 φ 215)
		ホジョドラム キット B	右畦肩整形用ドラム(片畦用) EX ドラム φ 250	タンク キット	除草剤散布用

※ () 内の数値は F 仕様です。

主 要 諸 元

型 式		RKM752H-S RKM752F-S	RKM752H-T RKM752F-T	RKM752H-U RKM752F-U	RKM752H-MU RKM752F-MU
駆 動 方 式		チ ェ ン 駆 動			
寸 法	全 長 (mm)	1890	1890	1850	1850
	全 幅 (mm)	1290	1290	1290	1290
	全 高 (mm)	1350	1350	1350	1350
質 量	総 質 量 (kg)	352 (381)	351 (380)	350 (379)	350 (379)
	ス タ ン ド (kg)	28	28	28	28
使 用 ジ ョ イ ン ト		トラクタ純正ジョイント			
適応トラクタ KW (PS)		18.4 ～ 36.8 (25 ～ 50) 注)トラクタはタイヤ外幅 1500mm 以下に限る			
装 着 装 置 の 種 類		日 農 工 特 殊 4 P			
		A1 形	A2 形	B 形	B 形
最大タイヤ外幅 (mm)		1500			
畦 高 さ (cm)		20 ～ 30			
標 準 耕 深 (cm)		5 ～ 15			
標 準 作 業 速 度 (km/h)		0.4 ～ 1.0			
作 業 能 率 (分/100m)		6 ～ 15			
入力軸回転速度 (rpm)		390 ～ 430 (PTO1 速エンジン回転速度 1800 ～ 2000)			
ド ラ ム 外 径 (cm)		75 (ドラム形状：8 面段付ドラム)			
天 場 処 理 装 置		F 仕様のみ標準装備			
オ フ セ ッ ト 方 法		電動式オフセット平行リンク無段階調節機構			
旋 回 方 法		電動式旋回機構			
オ プ シ ョ ン		ナカアゼ キット	中畦用 (EX ドラムφ 500) 天場幅=150mm、畦高=180～230mm	ローラ キット A	ローラ幅延長用 (ローラ幅 55mm)
		ホジョドラム キット A	右畦肩整形用ドラム(両畦用) EX ドラム φ 160	ローラ キット BA	コーナー付低畦対応用 (ローラ径 φ 215)
		ホジョドラム キット B	右畦肩整形用ドラム(片畦用) EX ドラム φ 250	タンク キット	除草剤散布用

※ () 内の数値は F 仕様です。

主 要 諸 元

型 式		RKL752HT-0S RKL752FT-0S	RKL752HT-3S RKL752FT-3S	RKL752HT-4S RKL752FT-4S	RKL752HT-1S RKL752FT-1S
駆 動 方 式		チ ェ ン 駆 動			
寸 法	全 長 (mm)	1750	1930	1930	1930
	全 幅 (mm)	1290	1290	1290	1290
	全 高 (mm)	1370	1370	1370	1370
質 量	総 質 量 (kg)	340 (369)	373 (402)	375 (404)	360 (389)
	ス タ ン ド (kg)	28	28	28	28
使 用 ジ ョ イ ン ト			TC69	TC71M	TC69
適応トラクタ KW (PS)		22.1 ~ 44.1 (30 ~ 60)			
装 着 装 置 の 種 類		日 農 工 標 準 3 P			標 準 3 P 直 装
		0S	3S	4S	1S
最大タイヤ外幅 (mm)		1900			
畦 高 さ (cm)		20 ~ 30			
標 準 耕 深 (cm)		5 ~ 15			
標 準 作 業 速 度 (km/h)		0.4 ~ 1.0			
作 業 能 率 (分/100m)		6 ~ 15			
入力軸回転速度 (rpm)		390 ~ 430 (PTO1 速エンジン回転速度 1800 ~ 2000)			
ド ラ ム 外 径 (cm)		75 (ドラム形状：8 面段付ドラム)			
天 場 処 理 装 置		F 仕様のみ標準装備			
オ フ セ ッ ト 方 法		電動式オフセット平行リンク無段階調節機構			
旋 回 方 法		電動式旋回機構			
オ プ シ ョ ン		ナカアゼ キット	中畦用 (EX ドラムφ 500) 天場幅=150mm、畦高さは180~230mm	ローラ キット A	ローラ幅延長用 (ローラ幅 55mm)
		ホジョドラム キット A	右畦肩整形用ドラム(両畦用) EX ドラム φ 160	ローラ キット BA	コーナー付低畦対応用 (ローラ径 φ 215)
		ホジョドラム キット B	右畦肩整形用ドラム(片畦用) EX ドラム φ 250	タンク キット	除草剤散布用

※ () 内の数値は F 仕様です。

主 要 諸 元

型 式		RKL752H-S RKL752F-S	RKL752H-T RKL752F-T	RKL752H-U RKL752F-U	RKL752H-MU RKL752F-MU
駆 動 方 式		チ ェ ン 駆 動			
寸 法	全 長 (mm)	2020	2020	1970	1970
	全 幅 (mm)	1290	1290	1290	1290
	全 高 (mm)	1370	1370	1370	1370
質 量	総 質 量 (kg)	359(388)	358(387)	357(386)	357(386)
	ス タ ン ド (kg)	28	28	28	28
使 用 ジ ョ イ ン ト		トラクタ純正ジョイント			
適応トラクタ KW (PS)		22.1 ～ 44.1 (30 ～ 60)			
装 着 装 置 の 種 類		日 農 工 特 殊 4 P			
		A1 形	A2 形	B 形	B 形
最大タイヤ外幅 (mm)		1900			
畦 高 さ (cm)		20 ～ 30			
標 準 耕 深 (cm)		5 ～ 15			
標 準 作 業 速 度 (km/h)		0.4 ～ 1.0			
作 業 能 率 (分/100m)		6 ～ 15			
入力軸回転速度 (rpm)		390 ～ 430 (PTO1 速エンジン回転速度 1800 ～ 2000)			
ド ラ ム 外 径 (cm)		75 (ドラム形状：8 面段付ドラム)			
天 場 処 理 装 置		F 仕様のみ標準装備			
オ フ セ ッ ト 方 法		電動式オフセット平行リンク無段階調節機構			
旋 回 方 法		電動式旋回機構			
オ プ シ ョ ン		ナカアゼ キット	中畦用 (EX ドラムφ 500) 天場幅=150mm、畦高=180～230mm	ローラ キット A	ローラ幅延長用 (ローラ幅 55mm)
		ホジョドラム キット A	右畦肩整形用ドラム(両畦用) EX ドラム φ 160	ローラ キット BA	コーナー付低畦対応用 (ローラ径 φ 215)
		ホジョドラム キット B	右畦肩整形用ドラム(片畦用) EX ドラム φ 250	タンク キット	除草剤散布用

※ () 内の数値は F 仕様です。

主 要 諸 元

型 式		RKL852HT-0S RKL852FT-0S	RKL852HT-3S RKL852FT-3S	RKL852HT-4S RKL852FT-4S
駆 動 方 式		チ ェ ン 駆 動		
寸 法	全 長 (mm)	1810	1970	1970
	全 幅 (mm)	1290	1290	1290
	全 高 (mm)	1350	1350	1350
質 量	総 質 量 (kg)	345 (381)	378 (414)	380 (416)
	ス タ ン ド (kg)	28	28	28
使 用 ジ ョ イ ン ト			TC69	TC71M
適応トラクタ KW (PS)		22.1 ~ 44.1 (30 ~ 60)		
装 着 装 置 の 種 類		日 農 工 標 準 3 P		
		0S	3S	4S
最大タイヤ外幅 (mm)		1900		
畦 高 さ (cm)		20 ~ 35		
標 準 耕 深 (cm)		5 ~ 15		
標 準 作 業 速 度 (km/h)		0.4 ~ 1.0		
作 業 能 率 (分/100m)		6 ~ 15		
入力軸回転速度 (rpm)		390 ~ 430 (PTO1 速エンジン回転速度 1800 ~ 2000)		
ド ラ ム 外 径 (cm)		85 (ドラム形状：8 面段付ドラム)		
天 場 処 理 装 置		F 仕様のみ標準装備		
オ フ セ ッ ト 方 法		電動式オフセット平行リンク無段階調節機構		
旋 回 方 法		電動式旋回機構		
オ プ シ ョ ン	ナカアゼ キット	中畦用 (EX ドラムφ 500) 天場幅=150mm、畦高さは180~230mm	ローラ キット A	ローラ幅延長用 (ローラ幅 55mm)
	ホジョドラム キット A	右畦肩整形用ドラム(両畦用) EX ドラム φ 160	ローラ キット BA	コーナー付低畦対応用 (ローラ径 φ 215)
	ホジョドラム キット B	右畦肩整形用ドラム(片畦用) EX ドラム φ 250	タンク キット	除草剤散布用

※ () 内の数値は F 仕様です。

用語解説

アタッチメント

作業機に後付けする部品

オートヒッチ

トラクタに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

クリーブ

超低速の作業速度

耕 深

耕うんする深さ

3点リンク

トラクタに作業機を装着するための3点で支持を行うリンク

チェックチェン

トラクタに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェン

トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業機の上部を吊り下げているリンク

揚 力

トラクタが作業機を上昇させるための力

ジョイント

トラクタの動力を作業機へ伝達するための軸

リフトロッド

トラクタが作業機を上げるためロアーリンクと連結しているアーム

リリーフ弁

油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁

ロアーリンク

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機の下部を吊り下げているリンクで左右一本ずつある

ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

KOBASHI

小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684

☎ (086) 298-3112

インターネットでも弊社の情報をご覧いただけます。

<http://www.kobashikogyo.com>

■北海道営業所	〒071-1248	北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番	☎ (0166) 49-0070
■東北営業所	〒024-0004	岩手県北上市村崎野13地割35-1	☎ (0197) 71-1160
■関東営業所	〒321-3325	栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1	☎ (028) 687-1600
■新潟営業所	〒942-0041	新潟県上越市安江477-1	☎ (025) 546-7747
■岡山営業所	〒701-0165	岡山市北区大内田727	☎ (086) 250-1833
■九州営業所	〒861-2236	熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F	☎ (096) 286-0202